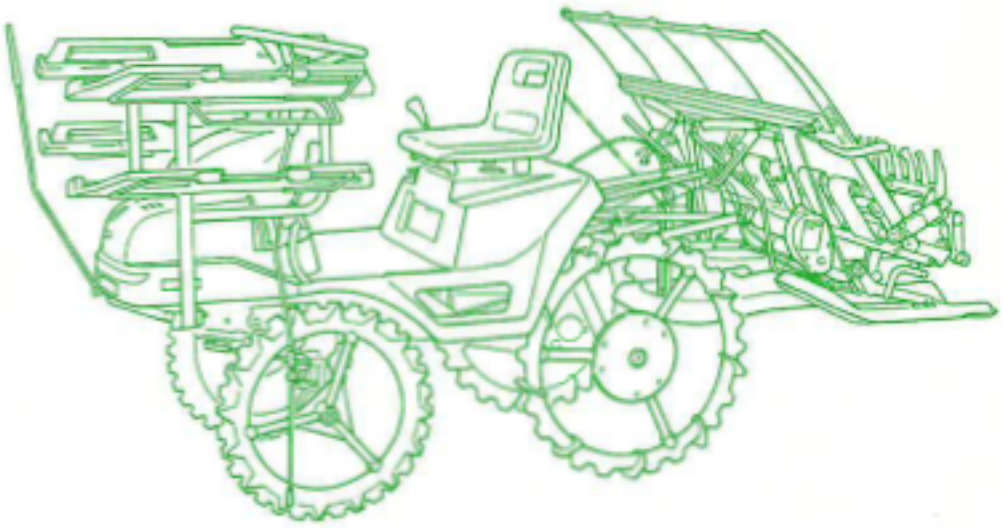
乗用田植機

取扱説明書

MPC4



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください。

このたびは、**三菱田植機**をお買い上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、本機の取り扱い方法と、使用上の注意事項について記載しています。
本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。
また、お読みになった後も、この取扱説明書を製品に近接して、いつもお手元に置いて必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書および安全銘板を、紛失または損傷された場合は、速やかに当社の特約店または販売店にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「安全に作業するために」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただいた特約店・販売店・農協へご相談ください。

おことわり

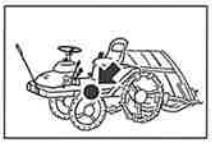
- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

説明記号の見方

⚠危険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

取扱いの注意　誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

参考　作業能率を良くしたり、誤った操作をしないための補足説明です。



説明箇所位置と、見ている方向を示します。
●印：位置　　➡印：見ている方向

本製品の使用目的について

本製品は、稲の苗をほ場（水田）に移植する作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。
(詳細は、保証書をご覧ください。)

本文の概要

1章 安全な作業をするために必ずお守りください	●安全に関する重要な内容を、代表的な作業項目について説明しています。個別の作業については、各項目を見てください。また、各安全銘板の内容と貼付位置を示しています。
2章 保証とサービスについて	●保証書とアフターサービスについて説明しています。
3章 田植機に適した苗とほ場について	●苗とほ場条件について説明しています。
4章 各部のなまえ	●本文中、よく使う部品の名称を紹介しています。
5章 各操作部のはたらき	●本文中、よく使う操作レバー、および部品の位置とはたらきについて説明しています。
6章 運転のしかた	●エンジンの始動から移動走行のしかた、およびトラックでの運搬のしかたを説明しています。
7章 作業のしかた	●運転のしかたを理解したうえで、植付作業のしかた、および各部の調節のしかたを説明しています。
8章 作業後の手入れについて	●機械を最良の状態にしておくために、毎作業後および長期間使用しないときの、手入れのしかたを説明しています。
9章 点検・整備のしかた	●長期間故障がなく、本機を安全に使用するための点検・整備のしかたを説明しています。
10章 不調診断のしかた	●正常に作動しないときの点検・処置のしかたを説明しています。修理に出す前に確認してください。
11章 用語解説	●専門用語を説明しています。
12章 その他	●主要諸元、標準付属品、および主要消耗部品・交換部品、その他販売品について説明しています。
13章 苗マット数早見表	●10a当たりの必要な苗マット数のおよその目安として、「10a当たりの苗マット数早見表」を記載しています。
14章 配線図	●配線図を載せています。

目　次

はじめに　1

お願い……1
おことわり……1
説明記号の見方（危険・警告・注意・取扱いの注意・参考）……2
本製品の使用目的について……2

本文の概要　3

1章 安全な作業をするために必ずお守りください　7

1．一般的な注意項目……7
2．作業前後の確認時の注意項目……8
3．運搬時の注意項目……11
4．移動・ほ場出し入れ時の注意項目……14
5．作業時の注意項目……17
6．作業終了後・格納時の注意項目……18
7．安全銘板の貼り付け位置……20

2章 保証とサービスについて　23

保証書は大切に保管してください……23
アフターサービスをお受けになるときは……23

3章 田植機に適した苗とほ場について　24

1．苗について……24
2．ほ場について……25

4章 各部のなまえ　26

運転操作部……26

5章 各操作部のはたらき　28

エンジンコントロール関係……28
電装関係……29
作業・操作関係……29
植付部関係……33
苗のせ台関係……33
その他の装置関係……35

6章 運転のしかた 37

1. お使いになる前の点検……37
2. エンジンの始動・停止のしかた……39
3. 発進・停車・駐車のしかた……41
4. 移動走行のしかた……43
5. トラックにのせて運搬するとき……45

7章 作業のしかた 47

1. 植付作業のしかた……47
2. 作業に合わせた調節のしかた……55

8章 作業後の手入れについて 60

1. 作業後の手入れ……60
2. 長期間使用しない場合の手入れ……60

9章 点検・整備のしかた 61

1. 定期点検一覧表……62
2. 給油・給脂一覧表……62
3. 燃料の給油のしかた……63
4. ステップ前の取り外しかた・取り付けかた……63
5. 各部オイルの点検・交換のしかた……64
6. 各部の注油・給脂のしかた……66
7. 各部エレメントの清掃・交換のしかた……69
8. 線引きマーカの調節のしかた……69
9. ビークの調節のしかた……70
10. ブレーキの点検・調整について……72
11. 主クラッチペダルの点検・調整について……72
12. 燃料パイプ・電気配線の点検のしかた……73
13. 燃料の抜きかた……73
14. 点火プラグの交換のしかた……74

10章 不調診断のしかた 75

1. 一株本数が極端にバラつくか欠株がでる ……76
2. 浮き苗がでる ……79
3. 植付姿勢が悪い ……80
4. 苗いたみが多い ……82
5. 苗マットにくずれが生じる ……83
6. 苗の取り残しがでる ……84
7. 苗マットの条ごとの減量がはなはだしく異なる ……85
8. フロートで泥などを押す ……86
9. 車輪で泥を持ち上げる ……86
10. 植付株間が極端に狭くなる ……87
11. 耕盤が深く機体が沈没する ……87
12. エンジン関係 ……88

11章 用語解説 89

12章 その他 90

1. 主要諸元 ……90
2. 標準付属品 ……91
3. 主要消耗部品・交換部品 ……92
4. その他の販売品 ……93

13章 苗マット数早見表 94

14章 配線図 95

1章 安全な作業をするために必ずお守りください

- ここに記載されている注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。
- ここに記載されている注意項目を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損をまねくおそれがあります。

※ご購入された製品によっては、該当しない内容も一部記載していますがご了承ください。

この田植機は、道路走行車両の形式認定を受けていませんので、法令により公道を自走することができません。
公道を移動する場合は、必ずトラックなどに載せて運搬してください。

1. 一般的な注意項目

⚠警告

■ 排気ガスには十分に注意

閉め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。
エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

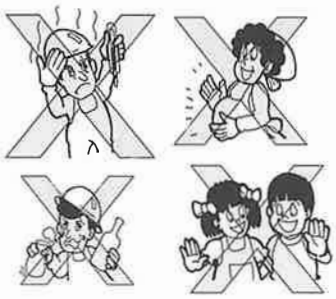
【守らないと】
排気ガスによる中毒を起し、死亡事故にいたるおそれがあります。



2063556

■ こんなときは運転しないでください

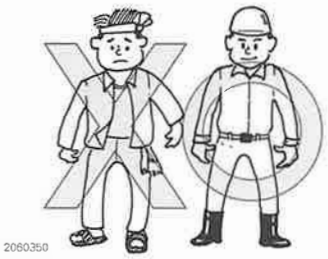
- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- 酒を飲んだとき。
- 妊娠しているとき。
- 18才未満の人。



■ 作業に適した服装を

はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適しただぶつきの無い服装をしてください。

【守らないと】
機械に巻き込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。


2060350

■ 機械を他人に貸すときは

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】
死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。



2063555

2. 作業前後の確認時の注意項目

⚠危険

■ 注油・給油はエンジンが冷めてから

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災やヤケドの原因となることがあります。



1053202

■ 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は、絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料に引火し、火災やヤケドをおこすおそれがあります。



1053203

■ 燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こす原因になります。



2060302

■ 燃料もれに注意

燃料パイプの破損や、燃料もれがないか必ず点検してください。

【点検しておかないと】

火災事故を引き起こすことがあります。



2063591

⚠警告

■ マフラー・エンジンのゴミは取り除く

マフラーやエンジン周辺部にワラクズ・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前後に点検してください。

【点検しないと】

引火し火災事故を引き起こすことがあります。



2063592

⚠警告

■ 電気部品・コードも必ず点検

配線コードが他の部品に接触して、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【点検しないと】

ショートして、火災やヤケドの原因となることがあります。


2063593

⚠注意

■ 必ず使用前後の点検をする

機械を使う前は必ず作業前の点検を行い、異常箇所は直ちに整備してから作業を始めてください。また、作業終了時も点検を行って異常がないかチェックしてください。

【守らないと】

機械の故障、事故・ケガをまねくおそれがあります。


2063594

■ 点検・整備、掃除中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除やアタッチメントの着脱をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、油圧固定レバーを「固定」位置にしてください。

【守らないと】

機械が不意に動いたり、回転部に巻き込まれて傷害事故などを起こすおそれがあります。



2063527

■ 点検・整備は、過熱部分が十分冷めてから

マフラーやエンジンなどの過熱部分が、十分に冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。



2063506

■ 定期点検整備を受けてください

1年毎に定期点検整備を受け、各部の保守をしてください。特に、燃料パイプは2年毎に交換し、電気配線は毎年点検し、異常箇所があれば必ず交換してください。

【守らないと】

整備不良による事故で、ケガや機械の故障を生じるおそれがあります。



2063507

⚠注意

■ 植付部の下にもぐったり、足を入れない

植付部の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

【守らないと】

何かの原因で植付部が下がったときに、傷害事故を起こすおそれがあります。



2060318

■ カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

【取り付けないと】

機械に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



1053204

3. 運搬時の注意項目

この田植機は、道路走行車両の形式認定を受けていませんので、法令により公道を自走することができません。
公道を移動する場合は、必ずトラックなどに載せて運搬してください。

⚠警告

■ 強度・長さ・幅の十分あるあゆみ板を使用する

積み・降ろしをするときは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、ギヤを「P」か「1速」または「R」にいれ、動かないようにサイドブレーキを掛け車止めをしてください。使用するあゆみ板は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップのしないものを選んでください。

〈あゆみ板の規準〉

- 長さ…車の荷台高さの4倍以上。
- 幅……30cm以上。
- 強度…1枚が250kgに十分耐えられるもの。
- 表面がすべらないように処理してあること。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。



2034627

■ 積み・降ろし前に、必ずブレーキペダルを連結する

トラックへの積み・降ろしは、必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してから行ってください。

【守らないと】

ブレーキの片ぎきにより、転落事故をまねくおそれがあります。



2063508

■ 積込むときは後進、降ろすときは前進で

トラックに積込むときは後進、降ろすときは前進、車速は最低速（主変速レバーは「植付」位置または「後進」位置、副変速レバーは「低」位置、アクセルレバーは「低」位置）で、車輪がアユミ板の中央にあることを確認しながら行ってください。急な坂道の場合でも同様に行ってください。

【守らないと】

バランスを崩し、転落事故や傷害事故の原因となります。

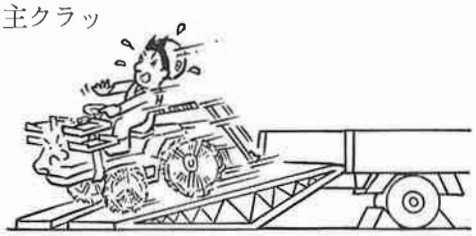


2063509

⚠警告

■ あゆみ板の上では、主クラッチペダル・主変速レバー・副変速レバーの操作禁止

あゆみ板の上では、主クラッチペダル・主変速レバー・副変速レバーを操作しないでください。やむを得ず主クラッチペダルや主（副）変速レバーを操作する場合は、ブレーキが確実に効くところまですばやく踏み込み、その後主クラッチペダルを踏み込んでください。絶対に主クラッチペダルを先に踏み込まないでください。


2063557

ＡＺ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置にし、機械を停止させた場合も、ブレーキペダルを踏み込んでから、変速を行ってください。このときも主変速レバーは絶対に「中立」位置にしないでください。

【守らないと】

田植機が急に下がって、転落などの事故をまねくおそれがあります。

■ 坂道では、主クラッチペダル・主変速レバー・副変速レバーの操作禁止

坂道の走行では、主クラッチペダル・主変速レバーや副変速レバーを操作しないでください。やむを得ず主クラッチペダルや主（副）変速レバーを操作する場合は、ブレーキが確実に効くところまですばやく踏み込み、その後主クラッチペダルを踏み込んでください。絶対に主クラッチペダルを先に踏み込まないでください。



2063595

ＡＺ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置にし、機械を停止させた場合も、ブレーキペダルを踏み込んでから、変速を行ってください。このときも主変速レバーは絶対に「中立」位置にしないでください。

【守らないと】

田植機が急に下がって、転落などの事故をまねくおそれがあります。

■ あゆみ板の上では、ブレーキ操作禁止

あゆみ板の上では、ブレーキペダルを操作しないでください。やむを得ずブレーキペダルを操作する場合は、ブレーキが確実に効くところまですばやく踏み込んでください。



2063511

【守らないと】

ブレーキがサイドクラッチ方式のため、ブレーキを操作すると、いったんクラッチが切れた状態になり、田植機が急に下がって転落などの事故をまねくおそれがあります。

⚠警告

■ ロープでトラックに確実に固定する

トラックに載せて移動するときは、強度の十分あるロープでトラックに機械を固定し、主変速レバーを「植付」位置または「後進」位置、副変速レバーを「低」位置にし、駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】

荷台から田植機が転落して、事故をまねくおそれがあります。



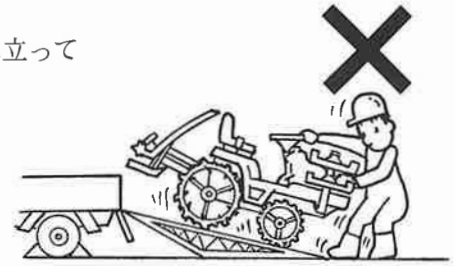
2063512

■ 降りて操作するときは、機械の前後に立たない

機械から降りて、積み・降ろし操作をするときは、機械の前後に立って操作しないでください。

【守らないと】

傷害事故などの原因になります。

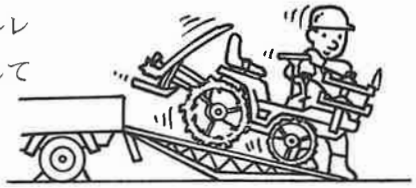

2063558

■ 降りて操作するときは、最低速で

機械から降りて操作をするときは、必ず最低速（主変速レバーは「植付」位置または「後進」位置、副変速レバーは「低」位置、アクセルレバーは「低」位置）で周囲の安全や足元の状況を確認しながら操作してください。

【守らないと】

転落や傷害事故をまねくおそれがあります。


2063514

⚠注意

■ 積み・降ろし作業は、補助者を付けて行う

トラックに積み・降ろし作業をするときは、補助者を付けて行ってください。また補助者は、機械の直前・直後には絶対に立たないでください。

【守らないと】

傷害事故などの原因になります。



2063509

4. 移動・ほ場出し入れ時の注意項目

⚠警告

■ 運転者以外の人は乗車禁止

運転者(1名)以外には、絶対に人や物を乗せないでください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故を引き起こします。



■ 移動時・ほ場への出し入れ時は、左右のブレーキペダルを必ず連結

移動時およびほ場への出し入れ時には、必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。

【守らないと】

ブレーキの片ぎきにより、転倒事故をまねくおそれがあります。



■ ほ場への出入りは、登りは後進、降りるときは前進で

急な坂道やほ場への出入りは、登りは後進、降りるときは前進、車速は最低速（主変速レバーは「植付」位置または「後進」位置、副変速レバーは「低」位置、アクセルレバーは「低」位置）で行ってください。

【守らないと】

バランスを崩し、転落などの事故の原因となります。



■ 溝・あぜを渡るときは、あゆみ板を使用

ほ場に入るときやあぜや溝を渡るとき、また段差の大きな場所では、必ずあゆみ板を使用してください。あゆみ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。

【守らないと】

スリップや転倒による事故をまねくおそれがあります。



⚠警告

■ ほ場の出入りはあぜに対して直角に

ほ場の出入りやあぜを越えるときは、最低速（主変速レバーは「植付」位置または「後進」位置、副変速レバーは「低」位置、アクセルレバーは「低」位置）にしてデフロックを操作して、あぜに対して直角に越えてください。

【守らないと】

バランスをくずしたりして転倒し、傷害事故を引き起こします。



2063517

■ 坂道・あゆみ板の上では、主クラッチペダル・主変速レバー・副変速レバー操作禁止

坂道やあゆみ板の上では、主クラッチペダル・主変速レバー・副変速レバーを操作しないでください。やむを得ず主クラッチペダルや主（副）変速レバーを操作する場合は、ブレーキが確実に効くところまですばやく踏み込み、その後主クラッチペダルを踏み込んでください。絶対に主クラッチペダルを先に踏み込まないでください。

ＡＺ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置にして機械を停止させた場合も、ブレーキペダルを踏み込んでから、変速を行ってください。このときも主変速レバーは絶対に「中立」位置にしないでください。

【守らないと】

田植機が急に下がって、転落などの事故をまねくおそれがあります。



2063595

■ ブレーキ操作はすばやく確実に

坂道や、あゆみ板の上ではブレーキペダルを操作しないでください。やむを得ずブレーキを操作する場合は、ブレーキが確実に効くところまですばやく踏み込んでください。

【守らないと】

ブレーキがサイドクラッチ方式のため、ブレーキを操作すると、いったんクラッチが切れた状態になり、田植機が急に下がって転落などの事故をまねくおそれがあります。



2063511

⚠警告

■ 移動時は路肩に注意

溝のある農道や両側が傾斜している農道では、路肩に十分注意してください。

【注意しないと】

転落事故などにより、傷害事故を引き起すことがあります。



2063518

■ 坂道を移動するときには細心の注意をはらう

坂道は低速で移動し、下るときはエンジンブレーキを利用して、足ブレーキの多用は避けてください。

また、坂道では急な旋回は絶対にしないでください。

【守らないと】

転落や転倒事故をまねくおそれがあります。



2063519

⚠注意

■ 周囲に合図して、ゆっくりと発進

レバー位置を確認し、安全を確保して周囲の人に合図してからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となることがあります。



2063520

■ ヘルメットは必ず着用する

作業中および移動時は、安全のためにヘルメットを着用してください。

【着用しないと】

思わぬ傷害事故の原因となります。



2063521

5. 作業時の注意項目

⚠警告

■ 機械から離れるときは平坦地に置き、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止

やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めをし、駐車ブレーキをかけ、主変速レバーは「植付」位置または「後進」位置、副変速レバーを「低」位置、AZ（エーゼット）レバーは「作業」位置にして、植付部を地面に降ろしてください。

【守らないと】

田植機が動きだし、事故の原因となります。



2063522

■ 異物を除去するときは、エンジンを停止

ビークなどに異物が噛み込んだ場合には、エンジンを停止し、各部の動作が完全に止まっていることを確認してから取り除いてください。

【守らないと】

不意に機械が動いたりして、傷害事故の原因となります。



2060320

⚠注意

■ 作業中は人や動物を近づけない

作業中は作業者以外の人、特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となることがあります。



2063523

■ 夜間作業は禁止

【守らないと】

周囲の状況がわかりにくく、思わぬ傷害事故を引き起こします。



2063524

6. 作業終了後・格納時の注意項目

⚠警告

■ シートは機械が十分冷めてからかける

機械にシートをかける場合は、マフラやエンジンが十分冷えてからかけてください。

【守らないと】

火災事故を引き起すことがあります。



2063525

■ 作業が終ったら点検・整備をする

作業が終了したら、必ず点検・整備を行い、掃除をして泥やゴミなどを完全に取り除いてください。

【守らないと】

火災の原因となることがあります。



2063526

■ 点検・整備、掃除中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除やアタッチメントの着脱をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、油圧固定レバーを「油圧固定」位置にしてください。

【守らないと】

不意に機械が動いたり、回転部に巻き込まれて傷害事故などを起こすおそれがあります。



2060320

⚠注意

■ 点検・整備は過熱部分が十分冷めてから

マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。



2063506

⚠注意

■ 長期格納時は平坦な場所に置き、駐車ブレーキをかける

長期格納する場合には、平坦な場所を選び、AZ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置にし、植付部は地面に降ろし、駐車ブレーキを必ずかけてください。
また燃えやすい物のそばには田植機を置かないでください。

【守らないと】

火災事故や田植機が急に動き出して、思わぬ事故の原因になります。



2063522

■ カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

【守らないと】

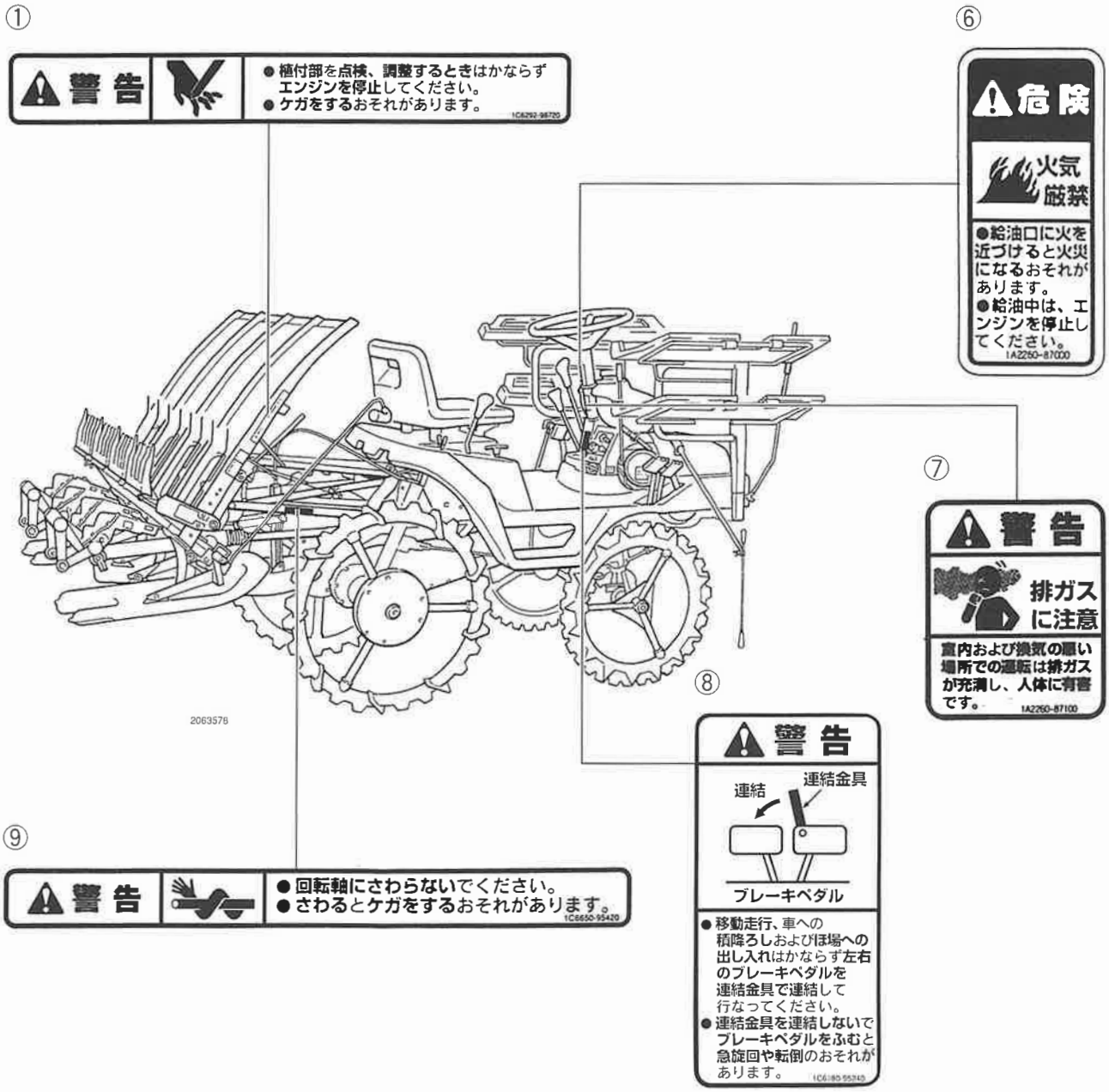
機械に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2063529

7. 安全銘板の貼り付け位置

安全に作業していただくために安全銘板の貼付位置を示したものです。
安全銘板は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。



No.	部品番号	品名	No.	部品番号	品名
①	2670 0000 160 (マーク番号1C6292-98720)	警告（植付部）	⑥	2670 0000 180 (マーク番号1A2260-87000)	危険（火気厳禁）
②	2670 7108 001	植付操作銘板	⑦	2670 0000 190 (マーク番号1A2260-87100)	警告（排気ガス）
③	2670 0000 170 (マーク番号1C6700-85670)	注意（カバー）	⑧	2670 0000 200 (マーク番号1C6980-95240)	警告（ブレーキ）
④	2670 7107 001	警告（統合）	⑨	2670 0000 210 (マーク番号1C6650-95420)	警告（回転軸）
⑤	2670 7104 001	警告（ＡＺレバー）			

④

⚠ 警 告

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

ケガや死亡事故を起こさないために

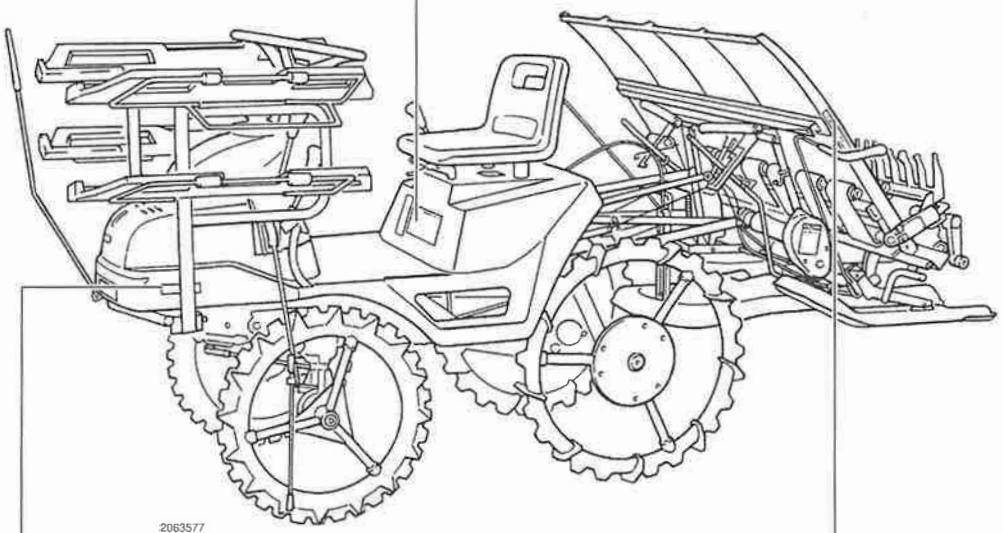
■ エンジンを始動する前に
- 屋内での始動は窓や戸を開けて換気してください。
- 座席に座り、各操作レバーを《中立》又は《切》にし、AZレバーは《エンジン始動位置》にしてください。

■ 燃料を補給する時は
- エンジンを停止し、火気を近づけないでください。
- エンジンが熱い時は、燃料補給しないでください。

■ 清掃・点検・整備
- エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行なってください。
- エンジン、マフラー、燃料タンク周囲のワラや草等を掃除してください。

■ 正しい操作方法で
- 運転する時は、他の人を乗せないでください。
- 発進・旋回・停止は低速で行なってください。
- 公道は自動車（運搬車）にのせて移動してください。
- ほ場への出入り、アユミの上、移動走行する時は、左右のブレーキペダルを連結してください。
- 移動走行する時は、マーカ類を収納し、植付部を最上げにし（油圧植付レバーを《固定》位置に）、油圧固定レバーを《固定》位置にしてください。
- 移動走行する時は、できるだけ低速で走行し、急ハンドル、急ブレーキはぜったいにさけてください。
- 後進する時は、後方に障害物がないことを確認してください。
- 自動車への積込み・積降ろし、高あぜ・溝越えは、アユミを使用し、上がる時は後進、降りる時は前進（但し、植付部を外した場合は、上がる時は前進、降りる時は後進）で低速で行なってください。
  また主クラッチはぜったいにふまないでください。
  （エンジンブレーキが効かなくなり、急に動きだして危険です。）
- カバー類は、常に装着してください。
- 停止する時は、平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、各操作レバーを《中立》又は《切》にして植付部を降ろし、エンジンを停止してください。
- ワラクズ等燃え易い物の近くに止めないでください。

26707107001



2063577

③

⚠ 注 意

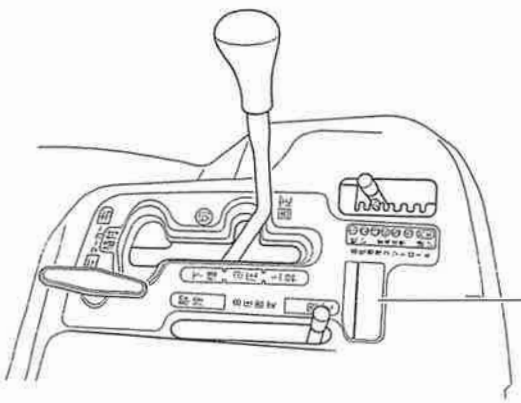
- カバー類は常に装着してください。
- はずしたままで運転するとケガをするおそれがあります。

1C6700-85670

①

⚠ 警 告

- 植付部を点検、調整するときはかならずエンジンを停止してください。
- ケガをするおそれがあります。

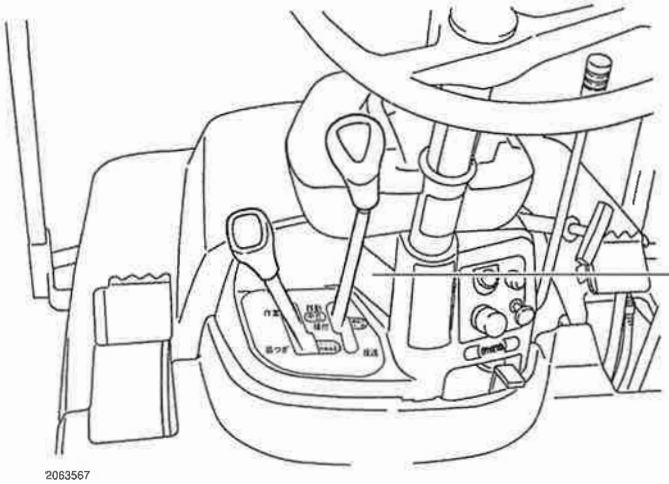


2063583

②

⚠ 注 意

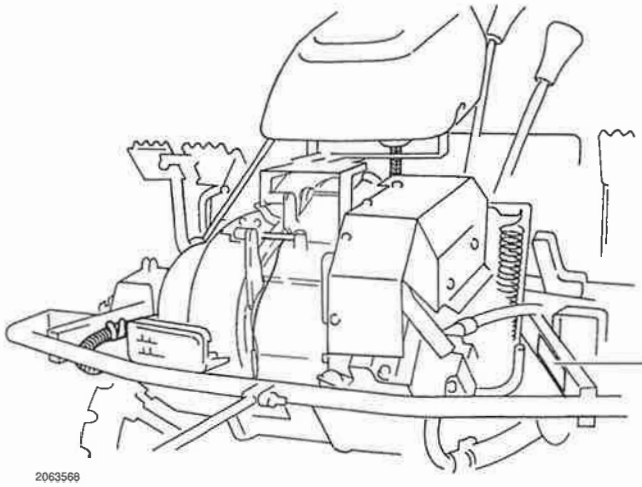
- 植付部が急に下がりケガをするおそれがあります。植付部を上げて移動、点検、調整する時には、油圧固定レバーを必ず《固定》位置にしてください。



2063567

⑤





2063568

③



2章 保証とサービスについて

保証書は大切に保管してください

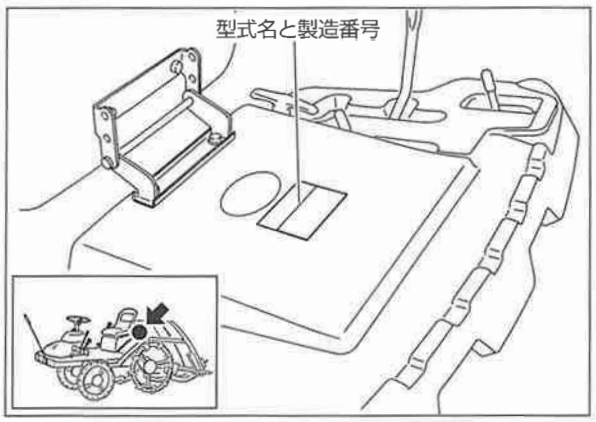
「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。
(保証書は、別梱されています。裏面に取扱い方法と安全作業について説明を受けた登録カードがあります。必ず納入時説明を受け登録してください。)

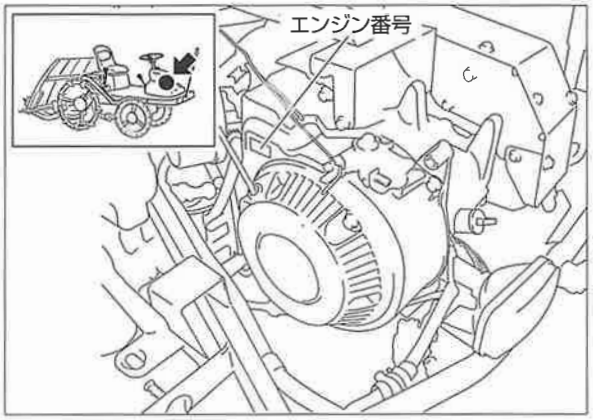
アフターサービスをお受けになるときは

機械の調子が悪いときに75ページの「不調診断のしかた」に従って、点検・処置しても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた特販店、農協までご連絡ください。

〈連絡していただきたい内容〉

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジン番号
- ご使用状況は？
  (車速や、どんな作業をしていたときに)
- どのくらい使用されましたか？
  (約□□アールまたは約□□時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えください。





〈補修部品の供給年限について〉

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

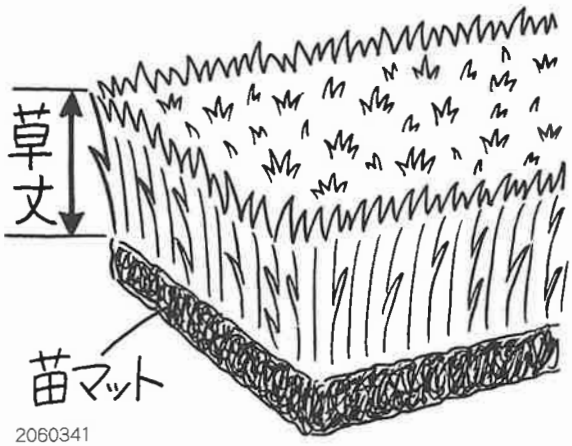
〈メーカー純正部品・オイルについて〉

純正部品、純正オイルは、厳密なテストを重ね、きびしい品質検査に合格したもので、安心してご使用いただけます。部品・オイルを交換する際は、必ず純正部品・純正オイルとご指定ください。

3章 田植機に適した苗とほ場について

苗・ほ場の条件が田植機に適していないと、植付作業・植付後の生育に支障をきたすことがあります。以下の条件をよくご理解いただき、適切な条件を整えてください。

1. 苗について



2060341

項　目	単位	適応・性能	
育苗方式		箱および枠育苗	
苗の種類		稚苗	中苗
葉令	葉	2.0～2.5	2.5～4.0
草丈	cm	8～15	15～25
苗マット寸法	cm	(縦×横×厚さ) 58×28×2～3	

苗の状態と植付時発生予想不具合

状　態	発生不具合
播種ムラ・発芽ムラ	●1株本数が極端にバラつくか欠株がでる
軟弱徒長・老化苗	●1株本数が極端にバラつくか欠株がでる ●苗いたみが激しく、植付姿勢も乱れる
苗マットの厚さが厚い、または薄い (適正苗マット厚さは約2～3cmです。)	●1株本数が極端にバラつくか欠株がでる ●植付姿勢が乱れる ●苗マットが崩れる（苗マットが薄い）
苗マットの根張りが悪く崩れやすい	●1株本数が極端にバラつくか欠株がでる ●浮苗が出たり、植付姿勢が乱れる
苗マットの根が張りすぎている	●1株本数が極端にバラつくか欠株がでる ●苗の取り残しがでる ●苗マットの減量が条ごとに大きく異なる

●苗マット

苗マットの水分を適正にしてください。乾きすぎると、苗マットのすべりが悪くなり欠株などの原因になります。また湿りすぎると、苗マットがくずれやすくなって、浮苗などが発生しやすくなります。

植付作業前にかん水して、育苗箱から取り出したときに、しずくがたれない程度の水分にしてください。

●床土（水稲育苗に適した土を使用してください。）

床土として使用される土（泥）は、必ずコシ器またはフルイを通したものをご使用ください。もし守らないと、植付作業中に何度も機械を止めて異物を取り除かなければならず、能率的な作業ができません。また、最悪の場合は機械を破損することがあります。

尚、詳しくは普及センターなどにご相談してください。

2. ほ場について

●荒起し

荒起しは、できるだけ耕盤が一定になるようにし、ワラや稲株が多い場合は、できるだけ取り除くか、すき込んでください。植付作業時に、浮苗が発生したり、植付姿勢が乱れたり、苗いたみの原因になったりして、スムーズな植付作業が行えない場合があります。

●代かき

代かきは、表面の凹凸がないように、均平にしてください。代かきが荒く、表面にワラクズや土塊が多いと、苗が確実に植え付けられず、植付深さがバラついたり、植付姿勢が乱れたりして、後の生育にも影響する場合があります。

また、代かきはあまり過度にならないようにしてください。土をねりすぎますと、スムーズな植え付けができないことがあります。

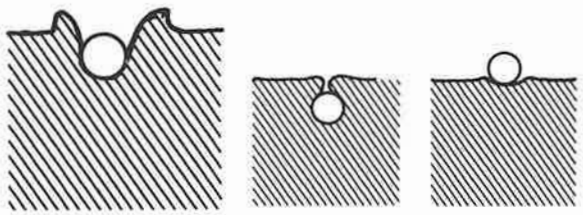
植付日を基準にした代かき日の目安

土　性	代　か　き　日
砂　土	当日、または前日に代かき
砂　壌　土	２～３日前に代かき
壌土・埴壌土（標準の水田）	４～５日前に代かき
埴土（粘土）	５～６日前に代かき
火山灰土	６～７日前に代かき

注）代かきの日の目安は、天候や地域によって若干異なります。

●ほ場表面の硬さ

ほ場表面の硬さは、土塊（ゴルフボール大）を表面より高さ1mから落としたとき、下図の「適正」な状態になるのが植付に最適な硬さです。



1062902C

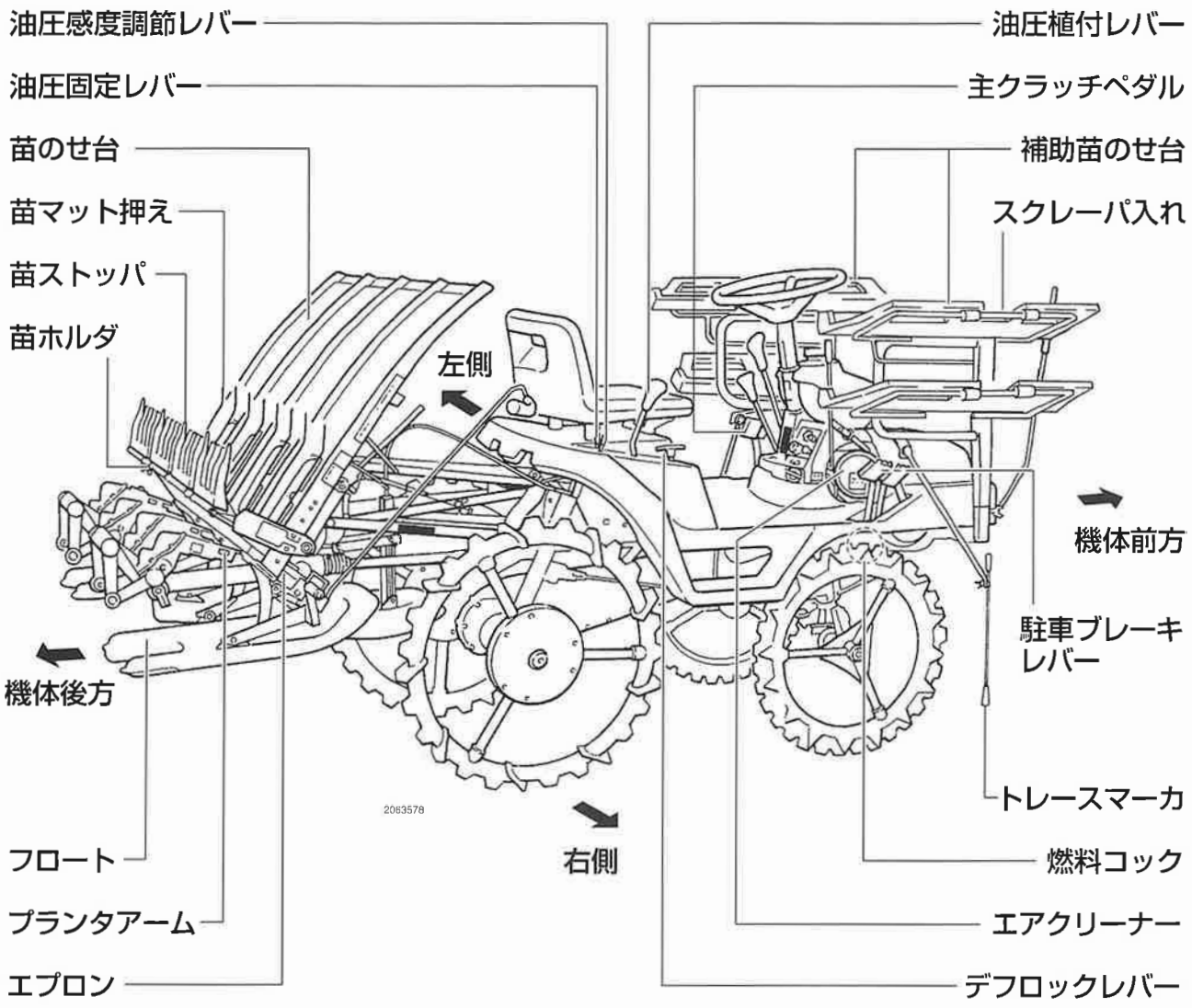
硬すぎると、苗が確実に植え付けられずに浮苗やころび苗の原因になり、軟らかすぎると、植付姿勢が乱れたり、作業中の泥押しの原因にもなります。

●水の深さ

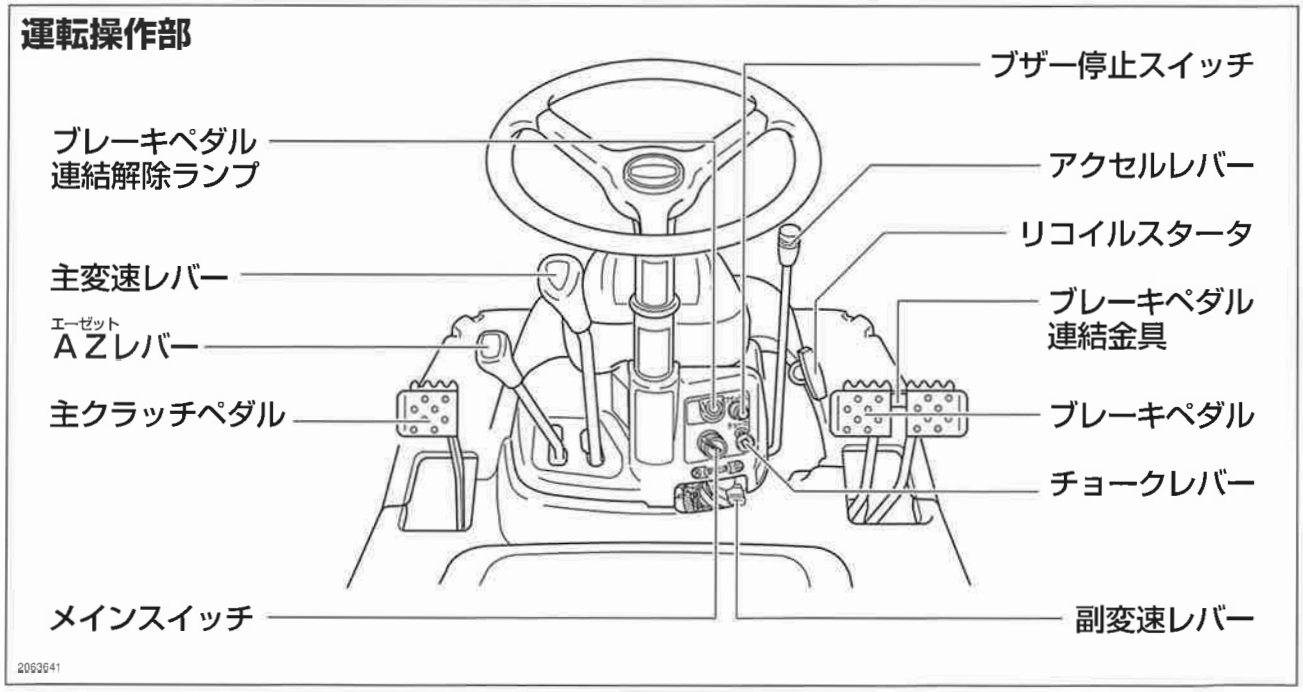
水深は1～2㎝（ヒタヒタ水）程度で植え付けてください。

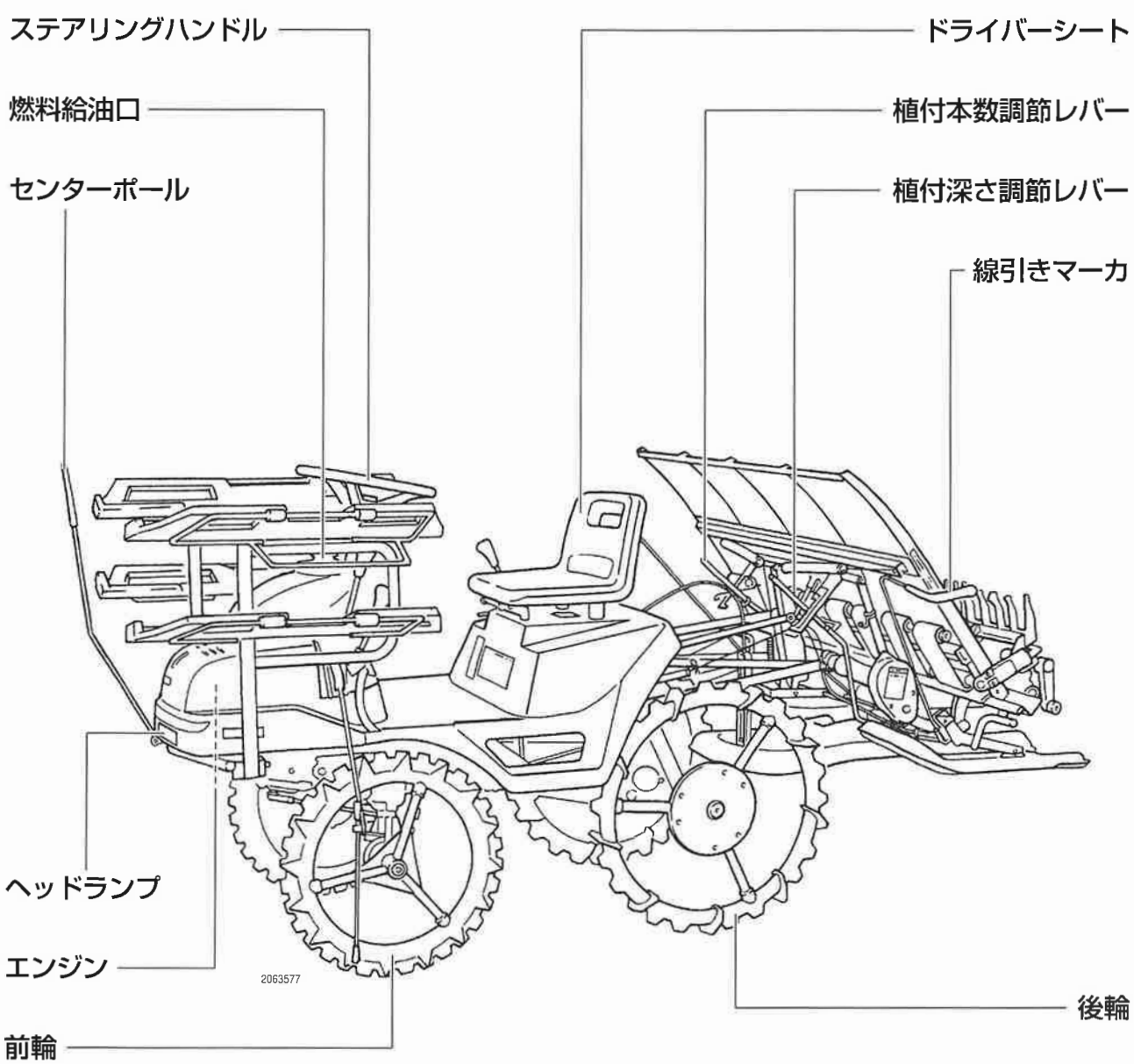
深すぎると、植付姿勢が乱れたり、浮苗が発生したりします。また、浅すぎると植え付けた苗が持ち上がったり、植付姿勢の乱れる原因にもなります。

4章 各部のなまえ

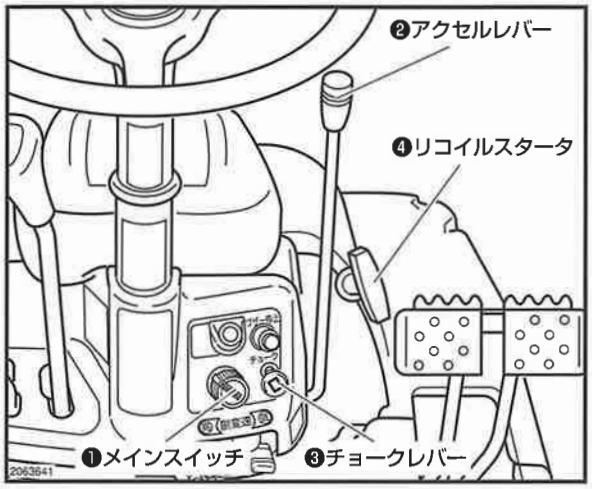


運転操作部



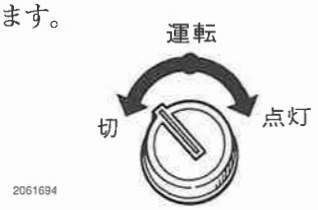

ステアリングハンドル
燃料給油口
センターポール
ドライバーシート
植付本数調節レバー
植付深さ調節レバー
線引きマーカ
ヘッドランプ
エンジン
前輪
後輪
2063577

エンジンコントロール関係



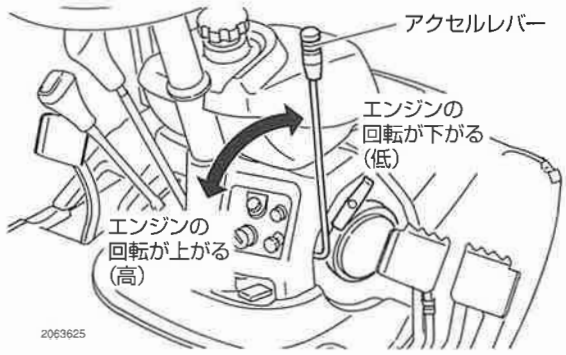
❶メインスイッチ

エンジンの始動·停止、およびヘッドランプの点灯に使用します。



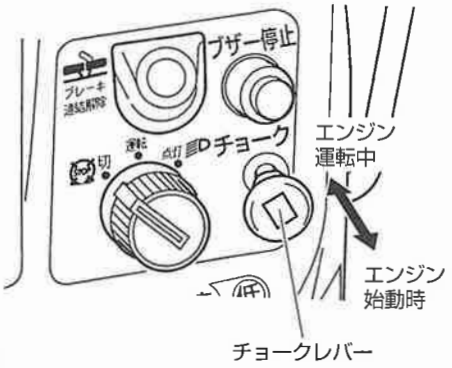
位　置	使 用 目 的
切	エンジンの停止
運　転	リコイルスタータでエンジンの始動ができます
点　灯	ヘッドランプの点灯(エンジン運転時)

❷アクセルレバー



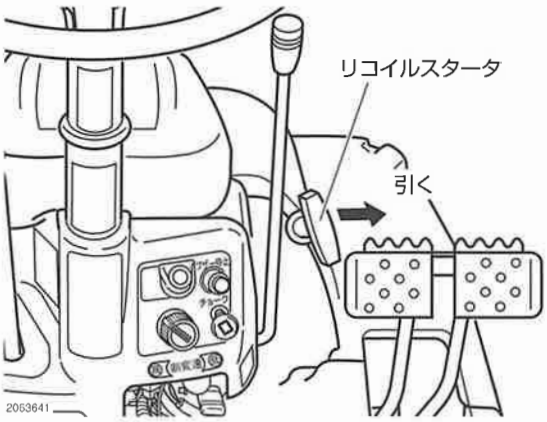
エンジン回転を調節するときに使用します。
レバーを手前に引けばエンジンの回転が上がり、前方に押すとエンジンの回転が下がります。

❸チョークレバー



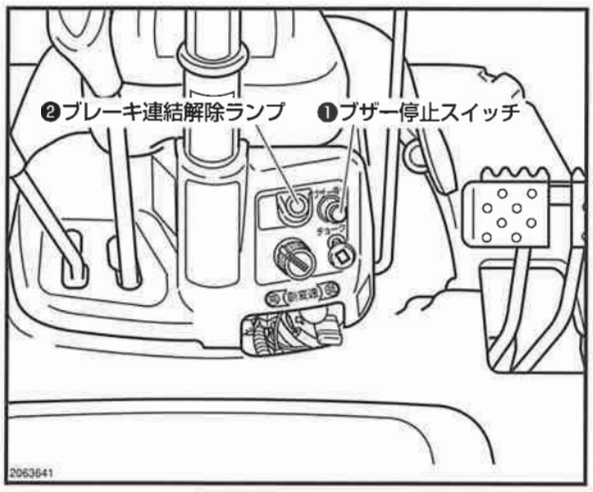
エンジン始動時にレバーを引くと、燃料の混合気が濃くなり、エンジンが始動しやすくなります。

❹リコイルスタータ

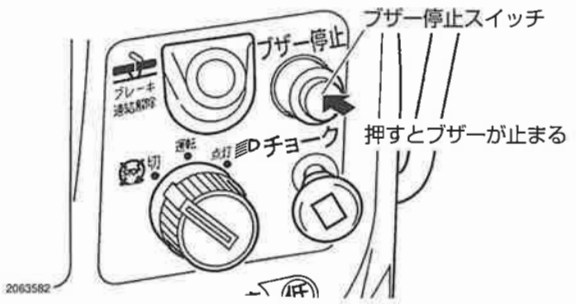


エンジンを始動するときに使用します。
リコイルスタータを勢いよく引っ張ると、エンジンが始動します。

電装関係

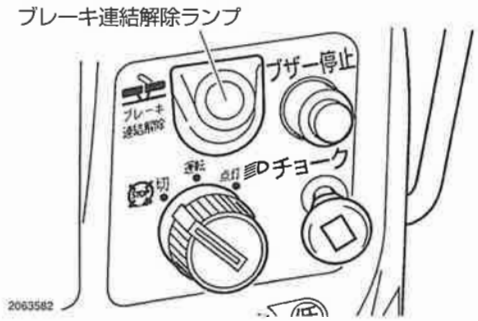


❶ブザー停止スイッチ



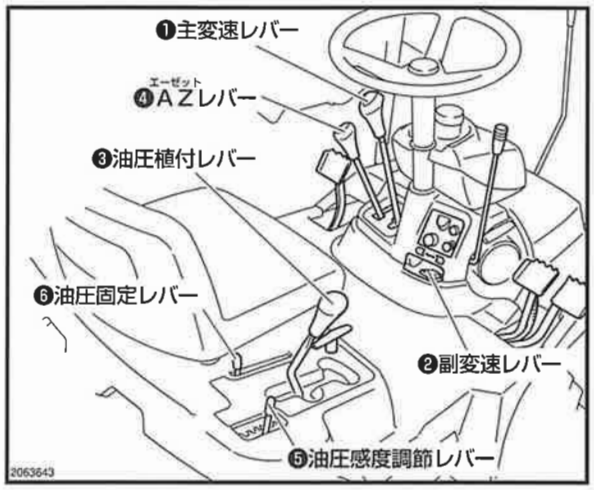
苗つぎ警告ブザーを停止するときに使用します。
警告ブザーが鳴っているときに押すと止まります。

❷ブレーキ連結解除ランプ

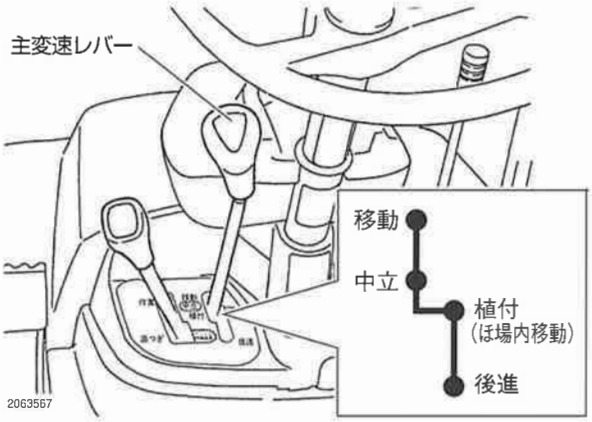


移動走行時・ほ場への出し入れ・車への積み・降ろし時に左右のブレーキペダルの連結忘れを防止するための、警告ランプです。
ブレーキの連結を解除しているとき、ランプが点灯します。ブレーキ連結金具を連結するとランプは消灯します。

作業・操作関係



❶主変速レバー



本機の走行に関する変速を行うときに使用します。
前進2段（「移動」または「植付（ほ場内移動）」）、「中立」、「後進」の切り替えができます。作業に合わせて使い分けてください。
主変速レバーの操作は、主クラッチペダルを踏み込むか、AZ(エーゼット)レバーを「苗つぎ」位置にして行います。

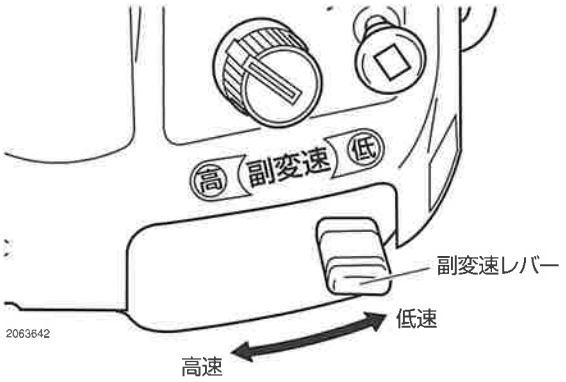
「移動」 農道などを高速で移動走行するときに使用します。

「中立」 車輪への動力が断たれます。植付部だけを駆動するときなどに使用します。

「植付」（ほ場内移動）
植付作業時やほ場内の移動、車への積み・降ろし、ほ場の出入りまたは農道などを低速で前進するときに使用します。

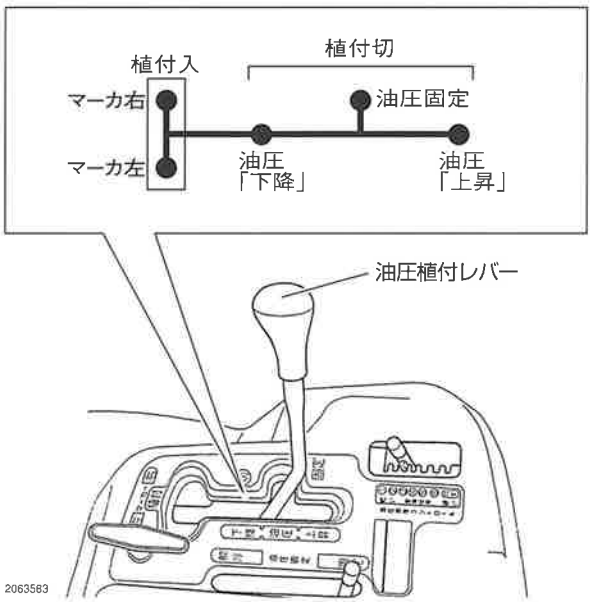
「後進」 後進するときに使用します。

❷副変速レバー



副変速レバーは、低速（低）・高速（高）の2段階に変速でき、主変速レバーとの組合わせで、前進4段・後進2段の変速ができます。低速は主に主変速レバー「植付」位置または「後進」位置であぜ越えやトラックへの積み・降ろし、ほ場への出入り時に使用しますが、植付作業も行えます。主クラッチペダルをいっぱいに踏み込むかＡＺ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置にし、機体が停止してから変速してください。

❸油圧植付レバー



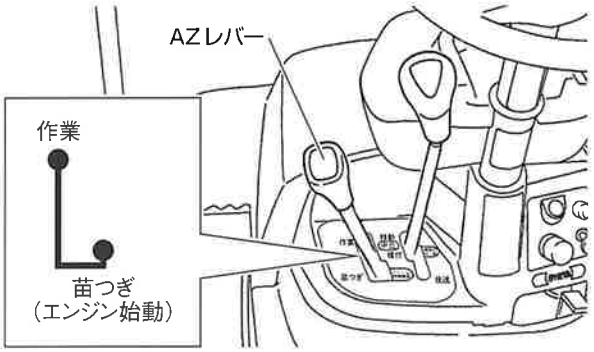
植付部を昇降させたり、植付の「入」「切」、線引きマーカの操作が行えます。
油圧植付レバーは、主クラッチペダルを踏み込まなくても操作できます。

「植付」　植付部を作動させたり、停止させたりします。レバーを「植付」位置にすると植付部は作動し、「植付切」位置にすると停止します。

「油圧」　植付部を上げたり、下げたりします。「固定」位置にすると植付部を任意の位置に固定できます。「下降」位置にすると植付部は下がり、同時に油圧自動制御装置が働きます。

「マーカ」　油圧植付レバーが「植付」位置のとき、レバーを「左」または「右」どちらかに倒すと、倒した方の線引きマーカがセットされます。

❹AZ（エーゼット）レバー



エンジンの動力を断続するレバーです。ＡＺ（エーゼット）レバーは主クラッチペダルを踏み込まなくても操作できます。また、エンジンを始動する場合には、ＡＺ（エーゼット）レバーを「苗つぎ（エンジン始動）」位置にしないと、安全装置が働いてエンジンが始動しません。

「作業」　エンジンの動力が走行・植付部に伝達され、前・後進や植付作業が行えます。

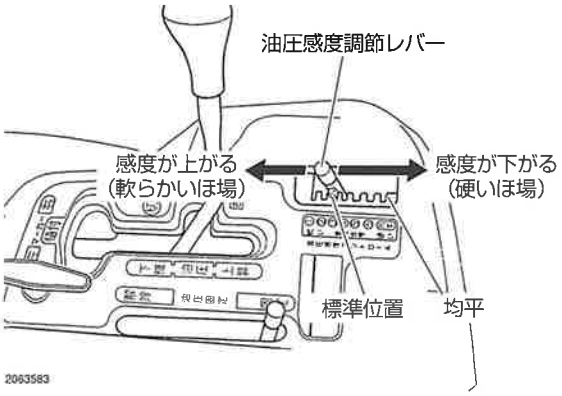
「苗つぎ（エンジン始動）」

エンジン始動時や、植付作業中の苗つぎ時などに使用します。
ＡＺ（エーゼット）レバーを「苗つぎ（エンジン始動）」位置にすると、走行・植付部ともエンジンの動力が断たれて本機ストップ機構が働き、機体は停止します。
ＡＺ（エーゼット）レバーを再び「作業」位置に戻すと、作業が続けられます。

⚠警告

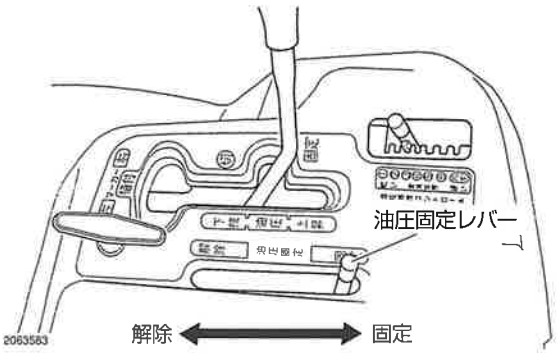
- 坂道で、AZ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置にして停止したときは、絶対に主変速レバー、副変速レバーを操作しないでください。やむを得ず変速する場合は、ブレーキペダルをすばやく踏み込み駐車ブレーキをかけてから変速してください。またこのとき主変速レバーは「中立」位置にはしないでください。機体が急に動き出し、事故をまねくおそれがあります。
- 本機から降りて操作するときは、最低速（主変速レバーを「植付」位置または「後進」位置、副変速レバーを「低」位置、アクセルレバーを「低」位置）にして走行してください。他の速度では速すぎるので本機に巻き込まれ、ケガをするおそれがあります。

❺油圧感度調節レバー

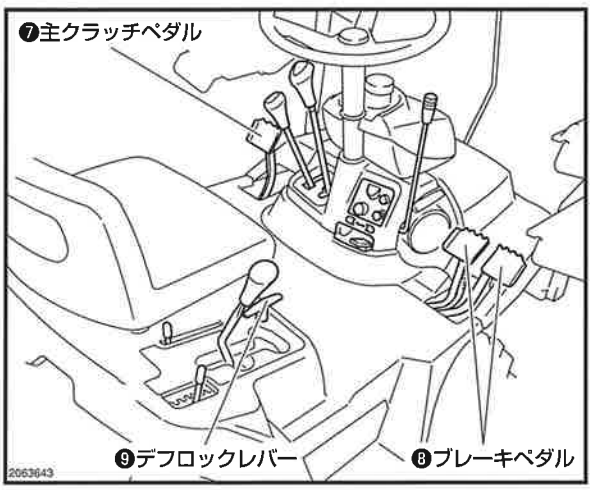


ほ場の軟らかさに合わせて、油圧自動制御の感度を調節するのに使用します。

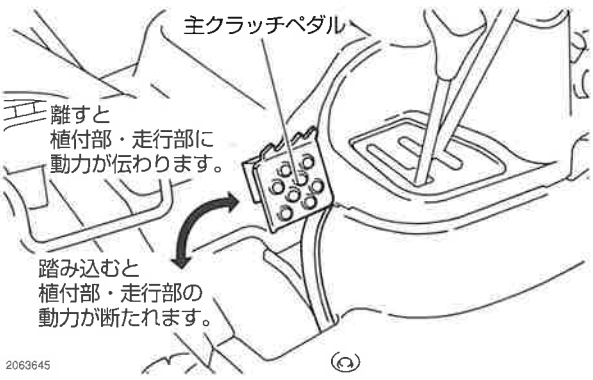
❻油圧固定レバー



植付部の下降用の油圧を固定し、植付部が下降しないように固定するのに使用します。「固定」位置にすると油圧植付レバーを「下降」位置にしても植付部は下降しません。移動時や、点検整備時、格納時は必ず「固定」位置にしてください。

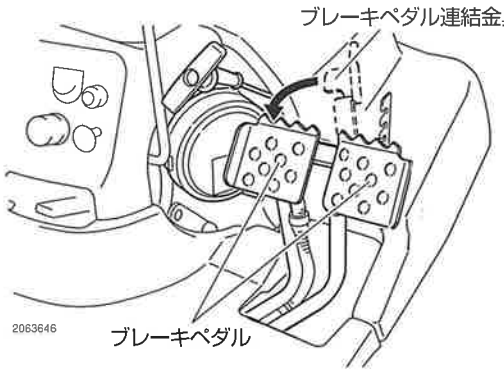


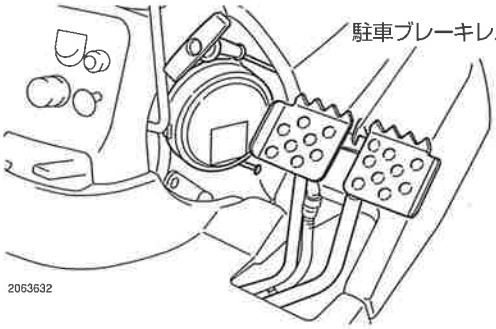
❼主クラッチペダル



エンジンの動力を断続するペダルです。踏み込む（クラッチを切る）と植付部・走行部の動力が断たれて、離すと再び動力が伝わります。

⑧ブレーキペダル

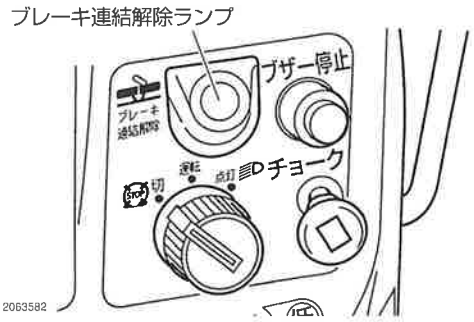




機械の停止や駐車をするとき、作業中に旋回するときに使用します。

ブレーキペダルは、左右独立しており、作業中はブレーキペダル連結金具を解除して使用します。旋回側のペダルを踏むと、旋回側の後輪の動力が断たれ、ブレーキがかかり、小回りができます。

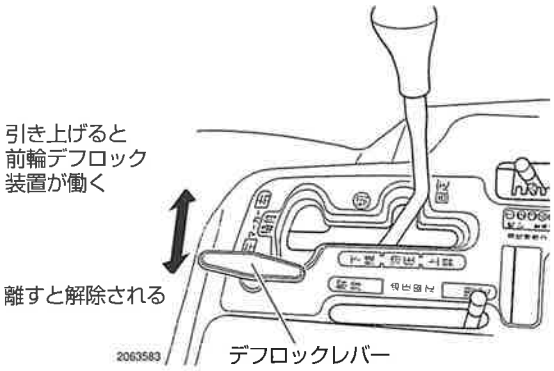
※ブレーキの連結を解除しているときは、ブレーキ連結解除ランプが点灯します。



移動走行やあぜ越え時には、必ずブレーキペダル連結金具で連結させて使用してください。

駐車する場合は、左右のブレーキペダルをブレーキペダル連結金具で連結し、ブレーキペダルを踏み込んで、駐車ブレーキレバーを掛けます。

⑨デフロックレバー



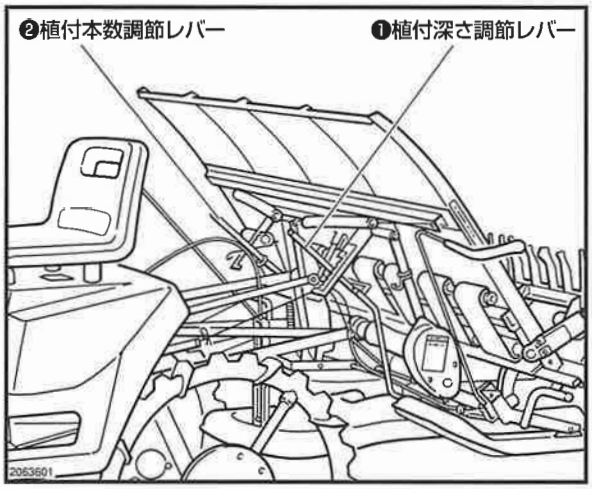
前輪用のデフロック装置です。

あぜ越えやほ場内での旋回時などで、前輪の片方の車輪がスリップするときに使用します。デフロックレバーを操作すると、左右の車輪の回転が同じになり、スリップ防止に役立ちます。(旋回時に、前輪の片方がスリップして旋回できないときに使用すると、旋回できます。)

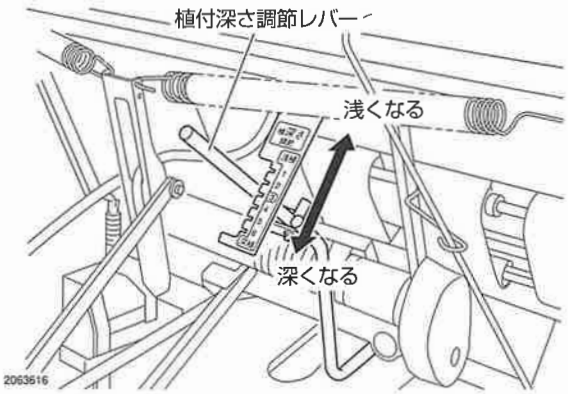
操作するときは、デフロックが作動するまでデフロックレバーを引き上げ続けてください。

手を離すとレバーが下がり、前輪デフロックは自動的に解除されます。

植付部関係

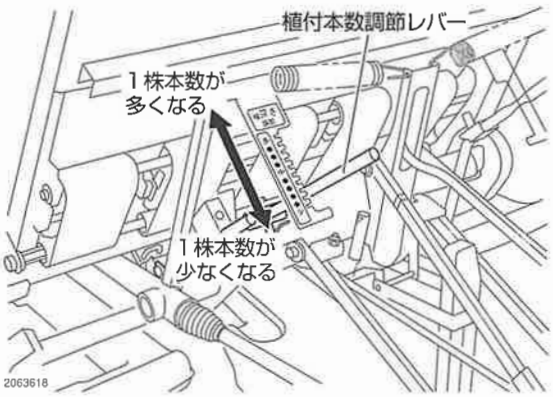


❶植付深さ調節レバー



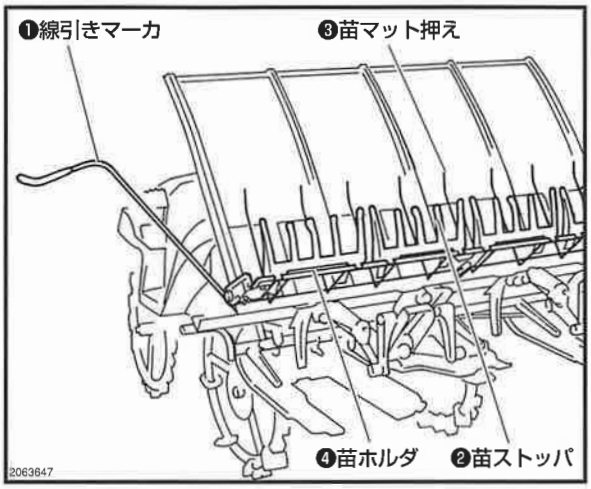
ほ場に適した植付深さを6段階に調節できます。

❷植付本数調節レバー

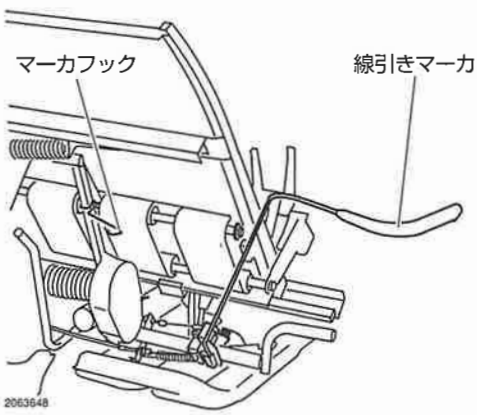


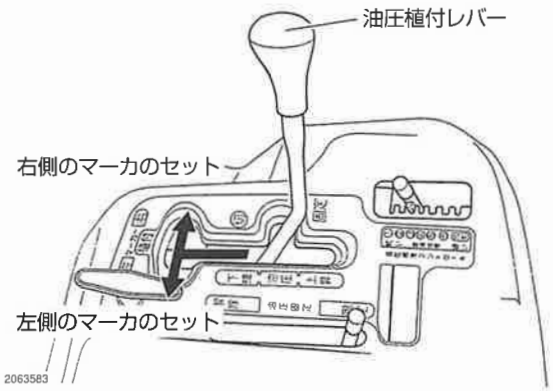
苗の1株本数を調節するときに使用します。苗取量は、10段階に調節できます。

苗のせ台関係



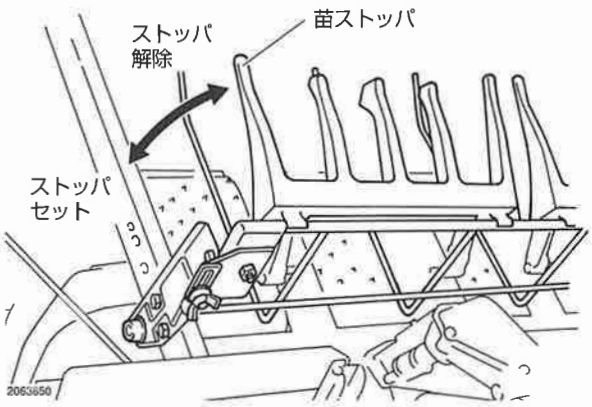
❶線引きマーカ





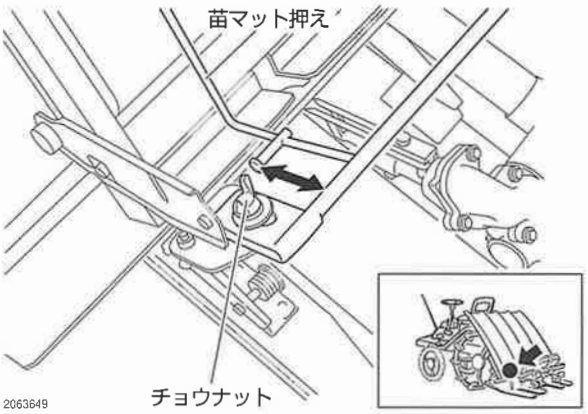
植付作業中に適切な隣接条間を保ち、直進の目標となるように、ほ場表面に線を付けていきます。
線引きマーカのセットは、油圧植付レバーで行い、収納は植付部の上昇と連動して自動的に行われます。

❷苗ストッパ



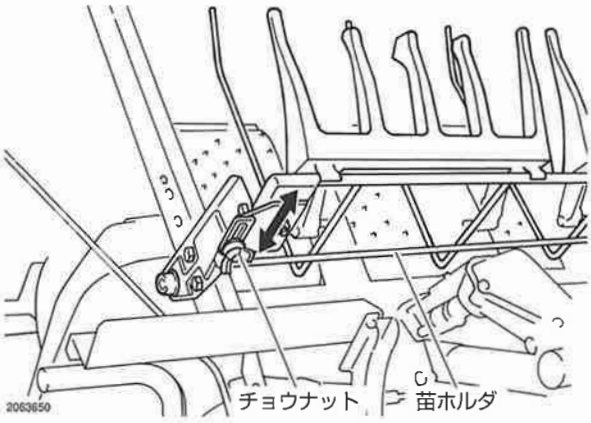
ほ場条件により4条で植付しない場合、条ごとの苗の供給を止めるのに使用します。
苗を上方にずらし、苗ストッパを回動させて苗を止めます。

❸苗マット押え



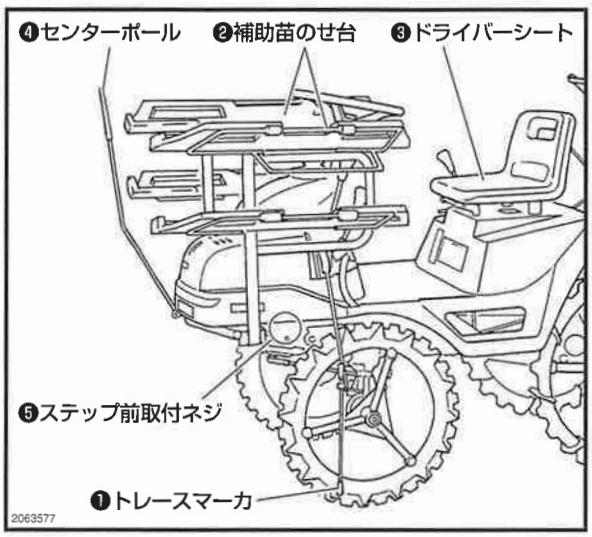
苗マットが崩れないように補助するのに使用します。
苗の状態や苗マットの厚さに応じて、チョウナットをゆるめてセット位置を変えて調節します。
※図は苗ストッパを外した状態です。

❹苗ホルダ

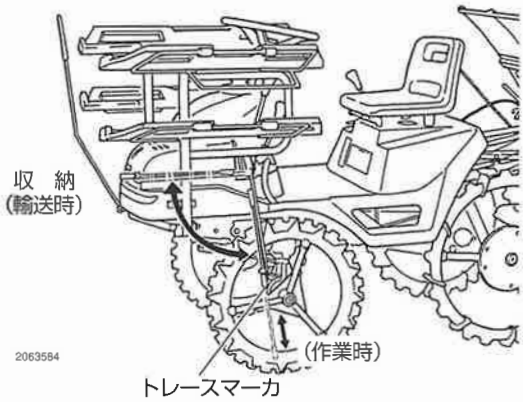


ビークで苗が取りやすく、また苗を傷めたり植付姿勢が乱れないように、苗の倒れを規制しています。
苗の草丈・育苗状態・植付姿勢などによって、チョウナットをゆるめて高さを調節します。
(調節のしかたは58ページを参照してください。)

その他の装置関係



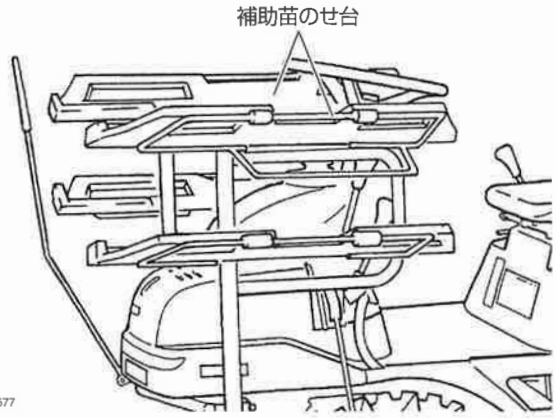
❶トレースマーカ



あぜぎわ植付け時や、線引きマーカで引かれた線が見えにくいときに、適正な隣接条間を保つための目安として使用します。隣接条の真上にトレースマーカがくるように機体を合わせると適正な隣接条間が保てます。

また、マーカは、高さ方向の調節も行えるので体格や目線に合わせて高さを自由に調節できます。

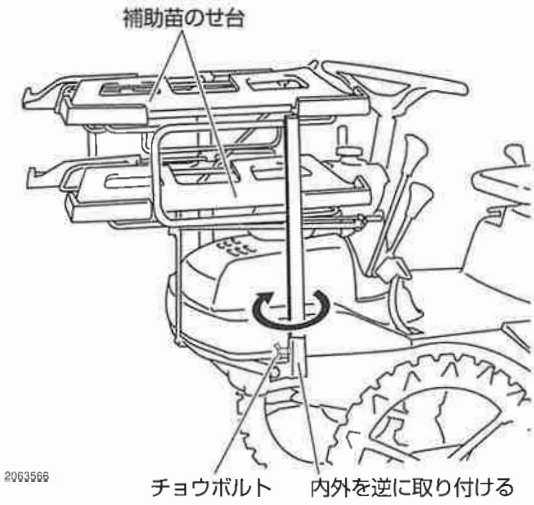
❷補助苗のせ台



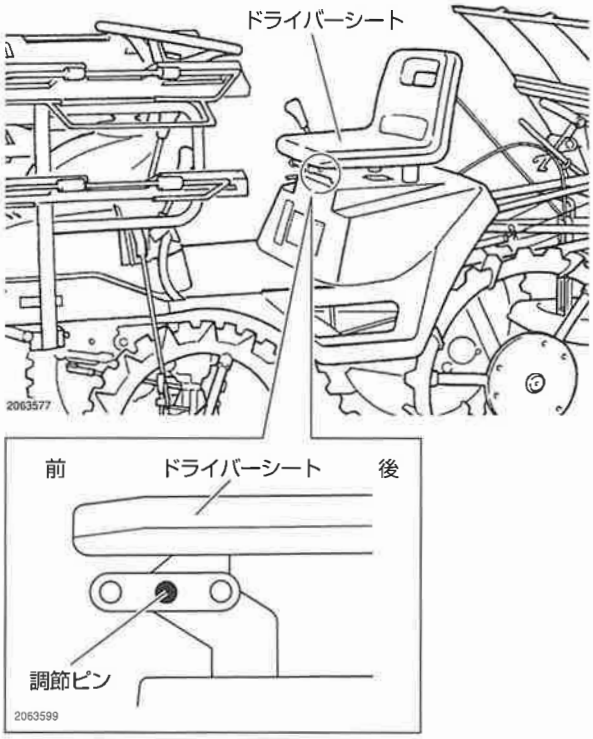
予備苗を4マットのせることができます。内枠部分は、スクレーパの収納用として使用できます。

チョウボルトをゆるめると、補助苗のせ台を取り外すこともでき、内外を逆に取り付けると、幅をとらずに格納できます。

〈格納時〉

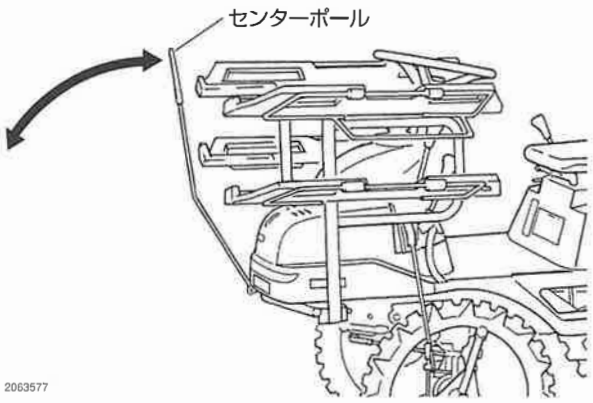


❸ドライバーシート



運転者の体格に応じて、ドライバーシートの位置を前後3段階に調節できます。調節は、ピン穴位置を差し替えて行います。

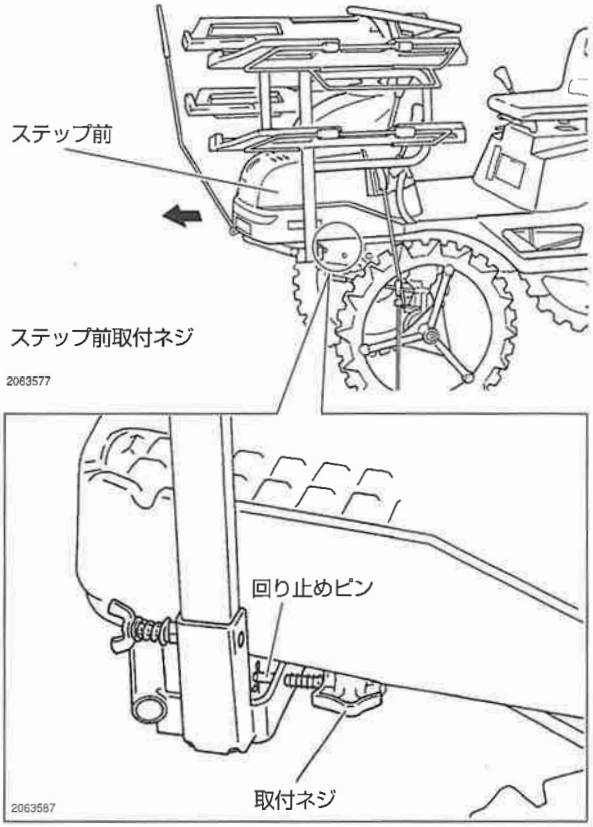
❹センターポール



隣接条間を保つための目印や、直進の目安として使用します。

線引きマーカで印された線に、センターポールを合わせると、適正な隣接条間が保てます。また、直進の目安になり、楽に直進できます。センターポールは前方に回動しますので、見やすい位置にセットすることができます。

❺ステップ前取付ネジ



回り止めピンを引き、左右のステップ前取付ネジをゆるめると、ステップ前を取り外すことができます。エンジンの点検などに便利です。(取り外しかたは、63・64ページを参照してください。)

1. お使いになる前の点検

⚠危険

燃料などに引火して、火災や傷害事故などを起こすおそれがありますので、下記のことを必ず守ってください。

- **エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。**
- **燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。**
- **燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。**

⚠警告

- **点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止させてから行ってください。回転部に巻き込まれたり、思わぬ傷害事故につながります。**

⚠注意

- **点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**
  機械に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

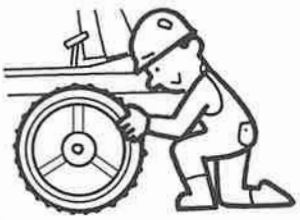
安全で快適な作業を行うには、田植機を使用する前に必ず始業点検を行い、異常箇所は直ちに整備してから作業を始めてください。また、作業終了時も点検を行って異常がないかチェックしてください。点検は次の順序で行ってください。

❶前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、作業に支障がないか点検します。

❷田植機のまわりを回ってみて

- 各部の変形・損傷・汚れ
- 車体各部の損傷、ボルトのゆるみ
- タイヤの摩耗度合、損傷



1069522D

- ビークの摩耗程度および苗取量…71ページ



- エンジンオイルの量と汚れ、油もれ…64ページ



2063594

- 燃料の量と燃料もれ、燃料パイプの損傷…63・73ページ



2063530

- エアクリーナーの汚れ…69ページ



2063531

❸ステップ前を開けてみて

- 配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみ…73ページ



2063583

- ベルトの損傷



❹運転席に座ってみて

- ブレーキの遊び量…72ページ



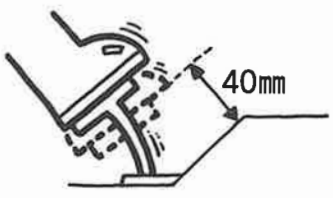
1068133A

- ハンドルの遊び量



1068133B

- 主クラッチペダルの調整…72ページ



1067731B

❺エンジンを始動してみて

- エンジン始動後の異常な音



2063533

- 排気ガスの色



2063534

- ランプ類の作動…29ページ



2063535

- 各操作レバーの作動と、駆動部の動き



2063537

❻ゆっくり発進してみて

- ブレーキのきき具合



1067731A

- クラッチの作動具合



1067731A

- 変速レバーの作動具合



2063536

2. エンジンの始動・停止のしかた

始動のしかた

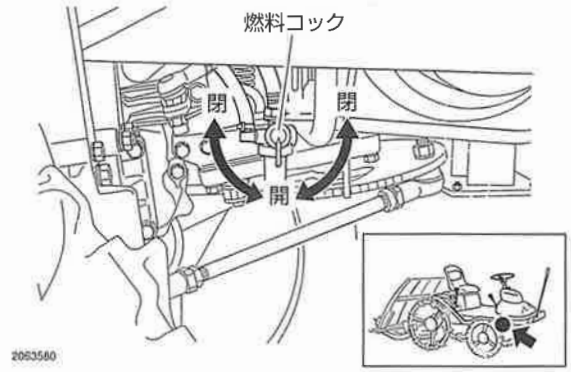
⚠警告

- エンジンの始動および暖機運転は、閉めきった屋内で行わないでください。やむを得ず屋内で始動する場合は十分換気をしてください。排気ガスによる中毒で死亡事故につながるおそれがあります。

⚠注意

- エンジンを始動する前に、始業点検を行ってください。点検せずにエンジンを始動すると、整備不良のために傷害事故や機械の故障を引き起こす場合があります。
- エンジン始動前は、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。急に機械が動きだしたりして、傷害事故の原因となります。
- 必ず運転席に座ってエンジンを始動してください。無理な姿勢でエンジンを始動すると転倒や傷害事故の原因となります。
- 暖機運転中は、必ず駐車ブレーキをかけてください。機械が動きだしたりして、傷害事故の原因となります。

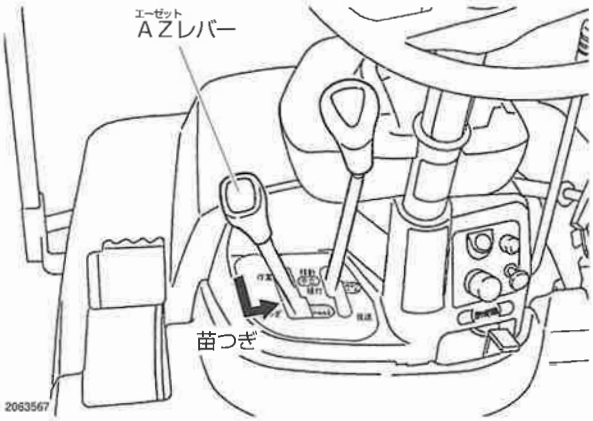
①ステップ前の右下部にある燃料コックを「開」位置にします。



②主変速レバーを「中立」位置、油圧植付レバーを「油圧固定」位置にします。



③AZ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」（エンジン始動）位置にします。



取扱いの注意

- エンジンを始動する場合は、安全装置の働きにより、AZ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」（エンジン始動）位置にしないと、エンジンの始動ができません。

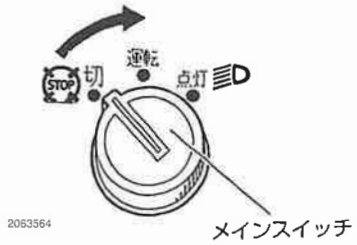
④アクセルレバーを「高」と「低」の中間位置にします。
⑤チョークレバーを引きます。

取扱いの注意

- **チョークレバーは、エンジン始動時以外には使用しないでください**
- **エンジンが暖まっているときは、チョークレバーは使用しないでください。**



⑥メインスイッチを「運転」位置にします。



⑦リコイルスタータを勢いよく引っ張ります。

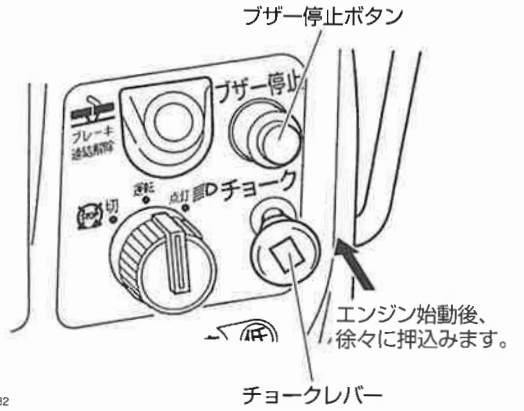
取扱いの注意

- **エンジンを始動する場合は、安全装置の働きにより、AZ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」（エンジン始動）位置にしないと、エンジンの始動ができません。**
- **AZ（エーゼット）レバーの働きにより、主クラッチペダルを踏まなくともエンジンは始動できます。**
- **2～3回リコイルスタータを引っ張っても始動しない場合は、そのまま何回もリコイルスタータを引くと燃料の吸いすぎとなり、始動困難になりますので、チョークレバーを押し込みリコイルスタータを引っ張ってください。**

⑧エンジンが始動したら、回転状態を見ながら、チョークレバーを徐々に押し込みます。

取扱いの注意

- **苗のせ台に苗がないとき、エンジンを始動すると、苗つぎ警報ブザーが鳴りますので、ブザー停止ボタンを押してください。**



⑨エンジン始動後、約5分間は負荷をかけずにエンジンをかけたままにしておいてください。（暖機運転）

停止のしかた

①アクセルレバーを「低」位置にして、メインスイッチを「切」位置にします。
②燃料コックを「閉」位置にします。



3. 発進・停車・駐車のしかた

発進のしかた

⚠警告

機械を操作するときは、以下のことを必ず守り、注意しながら行ってください。

- 植付作業時以外は、必ず左右のブレーキペダルを連結してください。移動中などのブレーキ操作時に片ぎきとなり、転倒などの事故をまねくおそれがあります。
- 坂道やあゆみ板の上では、主クラッチペダル・主変速レバー・副変速レバーの操作を行わないでください。やむを得ず操作するときは、必ずブレーキペダルを踏み込んで駐車ブレーキを掛けてから行ってください。機体が急に動き出し、思わぬ事故をまねくおそれがあります。
- 傾斜地で、ＡＺ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置にして停止したときは、絶対変速を行わないでください。やむを得ず変速するときは、必ずブレーキペダルを踏み込んで、駐車ブレーキを掛けてから行ってください。またこのとき主変速レバーを「中立」位置にはしないでください。機械が動き出して事故をまねくおそれがあります。
- 作業中および移動時には、安全のためにヘルメットをかぶってください。

⚠注意

- 発進するときは、周囲の安全を確かめてゆっくり発進してください。機械の陰に人、とくに子供には注意してください。

①ブレーキペダルが、連結金具で左右連結されていることを確認します。

②エンジンを始動し、アクセルレバーを「低」位置にします。



2063541

③油圧植付レバーを油圧の「上昇」位置にして、植付部を最上げ状態にしてから、レバーを「油圧固定」位置にします。

④油圧固定レバーを「油圧固定」位置にします。



2063588

取扱いの注意

- 油圧固定レバーを「固定」位置にすると、油圧植付レバーを「下降」位置にしても植付部は下がりませんが、植付部が最上げ位置ではない場合に「上昇」位置にすると、植付部は上昇しますので注意してください。

⑤副変速レバーと主変速レバーを、作業に合った位置にします。
⑥主クラッチペダルを踏み込んで、AZ（エーゼット）レバーを「作業」位置にします。
⑦主クラッチペダルから足を徐々に離して発進します。

参考

- 主クラッチペダルを操作せずに、AZ（エーゼット）レバーを「作業」位置にしても発進できますが、急発進防止のため、⑥、⑦の手順で発進してください。

⑧アクセルレバーで速度を調節します。



2063543

取扱いの注意

- **主クラッチペダル操作時以外は、絶対に主クラッチペダルの上に足を乗せないようにしてください。主クラッチペダルの上に足を乗せたままにすると半クラッチ状態となり、ベルトの寿命を縮めることになります。**
- **主変速レバー・副変速レバーを操作して変速する場合は、必ず主クラッチペダルを踏み込むか、AZ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置にし、機体を停止させてから行ってください。停止しないうちに変速すると、機械を破損する場合があります。**

〈降りて操作する場合〉

⚠警告

この田植機は乗用操作が基本ですが、降りて操作した方が安全と判断したときは、以下の注意を守り、正しい操作方法で行ってください。

- **周囲の安全や足元の状況を確認しながら最低速（主変速レバー「植付」位置または「後進」位置、副変速レバー「低」位置、アクセルレバー「低」位置）で操作してください。**
- **機械から降りて操作するときは機械の左側に立ち、機械の前後に立って操作しないでください。**



2063514

前記の①～④（41ページ）の操作を行ってください。
⑤主変速レバーを「植付」位置または「後進」位置、副変速レバーを「低」位置、アクセルレバーを「低」位置にし、機械から降ります。
⑥機械の左側からAZ（エーゼット）レバーを「作業」位置にすると発進します。
⑦AZ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置にすると停止します。

停車・駐車のしかた

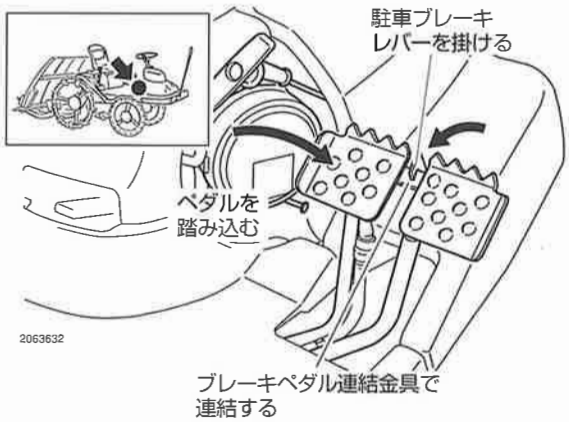
①アクセルレバーを「低」位置に戻し、スピードを下げます。

②主クラッチペダルとブレーキペダルを同時に踏み込んで機体を停止し、ＡＺ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置にします。



③メインスイッチを「切」位置にし、エンジンを停止させます。

④駐車する場合は、左右のブレーキペダルが連結金具で連結されていることを確認し、ブレーキを踏み込んで駐車ブレーキレバーを掛けます。



4. 移動走行のしかた

法令により、この田植機は公道を自走することができませんので、公道を走行しないでください。

⚠警告

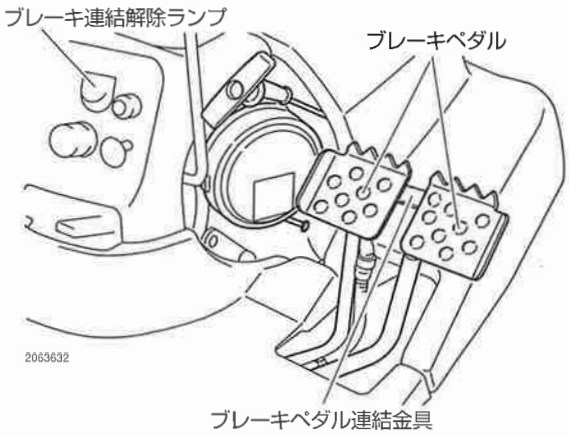
移動走行するときは、以下のことを必ず守り、注意しながら行ってください。
守らないと、転落や傷害事故を引きおこすおそれがあります。

- **運転者の他に人を乗せないようにしてください。**
- **急発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。**
- **移動時は左右のブレーキペダルを必ず連結金具で連結してください。（ブレーキペダルが連結されると、ブレーキ連結解除ランプは消灯します。）ブレーキペダルを連結していないと、ブレーキの片ぎきにより転倒事故をまねくおそれがあります。**
- **狭い農道や傾斜地、路肩に草が生い茂っている所は、路肩に十分注意して、スピードを落して走行してください。**
- **移動走行時には、安全のためにヘルメットをかぶってください。**

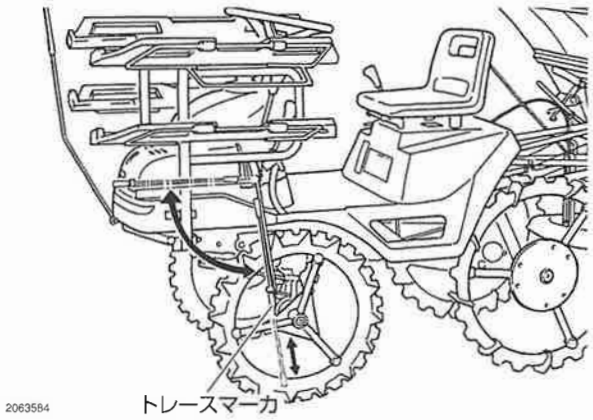
⚠注意

- **走行中にＡＺ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置にすると、機体は停止しますが速度によっては急停止につながるおそれがありますので、機体を停止する場合は、主クラッチペダルとブレーキペダルを同時に踏み込んでから、ＡＺ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置にしてください。**

①左右のブレーキペダルを連結金具で確実に連結します。(ブレーキ連結解除ランプが消灯。)



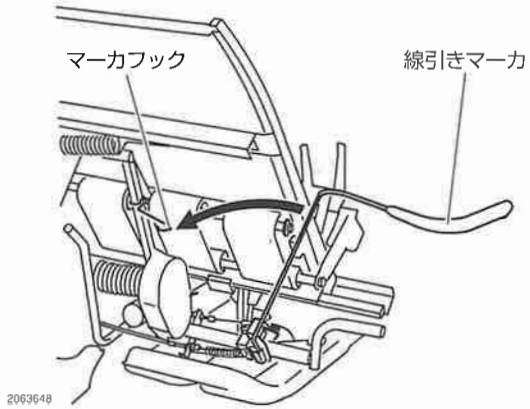
②トレースマーカを回動し、収納状態にしてください。



③線引きマーカは、マーカフックにかけて固定してください。

取扱いの注意

●線引きマーカはフックにかけた後、ひもなどで外れないように固定してください。



④苗のせ台を次の手順で機体中央にしてください。

取扱いの注意

●苗のせ台が機体中央にある場合は、次の1）～3）の操作をして最上げ位置で固定してください。

1）ＡＺ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置にし、主変速レバーを「中立」位置にします。
2）エンジンを始動させます。
3）油圧植付レバーで植付部を最上げ状態にして、油圧固定レバーを「固定」位置にします。



4）ＡＺ（エーゼット）レバーを「作業」位置、油圧植付レバーを「植付」位置にすると、苗のせ台が左右に動きます。
5）苗のせ台が機体のほぼ中央にきたら、油圧植付レバーを「油圧固定」位置にして、植付部を止めます。



取扱いの注意

- 路上で植付部を下げるときは、油圧植付レバーを「下降」位置より前方にしないでください。植付部が回り始めてビークなどを傷めます。
- 主変速レバーが「後進」位置にあるときは、油圧植付レバーを操作しないでください。植付部が下がったりビークが回転して機体を損傷します。
- 移動走行時は、植付部を最上げにして油圧固定レバーを「固定」位置にしてください。植付部が下がって思わぬ事故や機械の破損をまねくことがあります。

⑤主クラッチペダルを踏み込みます。
⑥主変速レバーを「植付」位置または、「移動走行」位置にします。
⑦周囲の安全を十分確認してから、駐車ブレーキレバーを解除します。
⑧ゆっくりと主クラッチペダルを離すと発進します。

参考

- AZ（エーゼット）レバーを操作して次のような発進もできます。

  ⑤AZ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置にします。
  ⑥主変速レバーを「植付」位置または、「移動走行」位置にします。
  ⑦周囲の安全を十分確認してから、駐車ブレーキレバーを解除します。
  ⑧主クラッチペダルを踏み込み、AZ（エーゼット）レバーを「作業」位置にして、ゆっくりと主クラッチペダルを離すと発進します。

5. トラックにのせて運搬するとき

積み・降ろしについて

⚠警告

積み・降ろし時は、以下のことを必ず守り、注意しながら行ってください。守らないと転落や傷害事故を引き起こすことがあります。

- 周囲に危険物のない、平たんな場所を選んでください。
- 積込むトラックの変速は、「P」、または「1速」か「R」の位置に入れて、駐車ブレーキを掛け、車止めをしてください。
- 基準に合った長さ、強度、幅のあるアユミ板を使用してください。

〈アユミ板の基準〉
- 長さ…車の荷台高さの4倍以上。
- 幅……30cm以上。
- 強度…1枚が250kgに十分耐えられるもの。
- 表面がすべらないように処理してあること。

- アユミ板のフックは、荷台と段差のないように確実に取り付けてください。
- 補助苗のせ台や苗のせ台に、苗や物を積んでいる状態での積み・降ろしは絶対に行わないでください。機体のバランスが変わりますので大変危険です。



2063509

- 積み・降ろし作業は、苗のせ台を機体中央にして、植付部は最上げ位置の状態で、油圧固定レバーを「固定」位置にして行ってください。

- 積み・降ろしの前にブレーキペダルを連結金具で必ず連結してください。
- 積降ろし作業は、補助者を付けて、車輪がアユミ板の中央にあることや周囲の安全を十分確認しながら行ってください。
ＡＺ（エーゼット）レバーを利用して、機械より降りて積み・降ろし作業をするときも同様に、補助者を付けて、十分注意しながら行ってください。
- 田植機の直前・直後は危険ですので、立たないようにしてください。
- 積み・降ろしをするときは、アユミ板に本機を近づけて、必ずアユミ板と前後輪がまっすぐになっているか、またアユミ板の中央に前後輪があるか確認してください。位置や方向がずれている場合は、再度位置合わせを行ってください。
- 積込みは主変速レバーを「後進」位置で、降ろすときは「植付」位置で、いずれも副変速レバーを「低速」位置にして、アクセルレバーは「低」位置で行ってください。
- アユミ板の上では、絶対に主クラッチペダルを踏まないでください。田植機が急に下がって大変危険です。
- アユミ板の上では、ＡＺ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置にして停止した場合でも、絶対に変速を行わないでください。機体が急に走り出し大変危険です。（やむを得ず変速するときは、必ずブレーキペダルを踏み込んで、駐車ブレーキレバーを掛けてから行ってください。また、主変速レバーは「中立」位置には変速しないでください。）
- アユミ板の上ではブレーキペダルを操作しないでください。もしブレーキペダルを操作するときは、ブレーキが確実にきくところまですばやく踏み込んでください。ブレーキペダルを踏むといったんクラッチが切れた状態になり、さらにブレーキペダルを踏み込むとブレーキが効くサイドクラッチ方式を採用しています。このため、踏み込みがたりないとクラッチが切れて、田植機が急に下がって大変危険です。
- 万一積込み途中でエンストしたときは、すぐにブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキをゆるめ、いったん下まで降ろし、あらためてエンジンを始動してください。

トラックにのせたら

トラックにのせたら次の要領で田植機をトラックに固定してください。

①田植機のエンジンを停止します。

②主変速レバーを「植付」または「後進」位置にし、副変速レバーを「低速」位置にし、ＡＺ（エーゼット）レバーを「作業」位置にしてください。

③田植機の駐車ブレーキレバーを掛けてください。

④フロートの下に敷物（毛布・クッション材など）をして植付部を降ろしてください。

⑤車輪とロープフックにロープを掛けて確実に固定してください。

⑥左右の線引きマーカを倒れないように、マーカフックに掛け、念のためにひもなどで固定してください。

⑦センターポールを収納（後方に回動）し、トレースマーカを収納（前方に回動）してください。



2063512

1. 植付作業のしかた

⚠警告

- 苗マット押えなど、植付部を点検・調整する場合や、株数切替作業をする場合は、必ずエンジンを停止してから行ってください。回転部に巻き込まれたり傷害事故につながります。
- エンジンを回転させたまま、あぜ際などで乗り降りのために停止する場合は、AZ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置、主変速レバーを「中立」位置にしてください。乗り降り時にレバーが体に触れて、不意に田植機が動きだすことがあり傷害事故につながります。

⚠注意

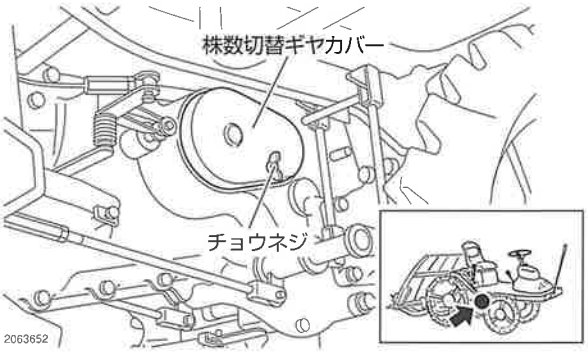
- 夜間の作業は行わないでください。周囲の状況がわかりにくく、思わぬ傷害事故を引き起こします。

株数切替について

ミッションケース右側面の株数ギヤカバーのチョウネジをゆるめ、カバーを外してから、希望の株数ギヤをセットしてください。(セットのしかたは、55ページを参照してください。)

取扱いの注意

- 出荷時は60株にセットされています。株数ギヤは、工具袋の中にあります。



- 植付株数一覧表

株　数	50株	60株	70株
株　間	22㎝	18㎝	16㎝

ほ場の出入りについて

⚠警告

機械をほ場に出し入れする場合は、以下のことを守ってください。守らないと転倒や傷害事故につながります。

- 左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。
- 主変速レバーを「植付」位置に、副変速レバーを「低」位置にして、アクセルレバーは「低」位置で行ってください。
- あぜからほ場に入る場合は、アユミ板を必ず使用し、登る場合は「後進」で行ってください。
- ほ場に出入りするときにブレーキを使用する場合は、ブレーキが確実にきくところまですばやく踏み込んでください。踏み込みがたりないと、クラッチが切れた状態になり、田植機が急に下がって大変危険です。
- AZ（エーゼット）レバーを利用して、機械から降りて作業するときは、周囲の安全を十分確認しながら行ってください。
- 傾斜地で、AZ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置にして停止したときは、絶対変速を行わないでください。機械が動き出して事故をまねくおそれがあります。(やむを得ず変速するときは、必ずブレーキペダルを踏み込んで、駐車ブレーキを掛けてから行ってください。また、このとき主変速レバーを「中立」位置にはしないでください。)
- 降りて操作するときは、機械の前後に立って操作しないでください。また周囲の安全や足元の状況を確認しながら、行ってください。

⚠注意

- **デフロックレバーを操作し、あぜに対して直角に行ってください。守らないとスリップしたり転倒したりします。**
- **ほ場への出入りは植付部を最上げ状態で、油圧固定レバーを「固定」位置にしてください。**



作業の手順

①ほ場に入ったら、主変速レバーを「中立」位置に、副変速レバーを「高」位置にし、ブレーキペダル連結金具を解除します。

参考

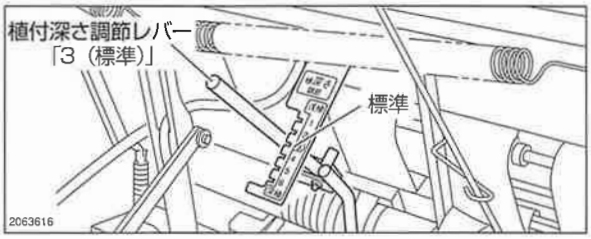
- 副変速レバーは「低」位置でも植付作業が行えます。

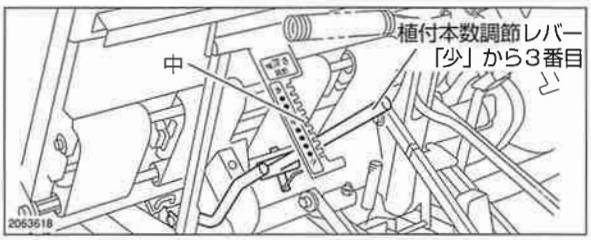
取扱いの注意

- **主変速レバー・副変速レバーの切り替えは、必ず主クラッチペダルを踏み込むかＡＺ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置にし、田植機が止まってから行ってください。停止しないうちに切り替えをを行うと、機械を破損する場合があります。**



②植付深さ調節レバーを「3（標準）」位置・植付本数調節レバーを「少」から3番目の位置にします。





③主変速レバーが「中立」位置にあることを確認した後、油圧固定レバーを「固定」位置にします。



④ＡＺ（エーゼット）レバーを「作業」位置にし、油圧植付レバーを「植付」位置にして植付部を駆動させ、苗のせ台が、右または左端で苗送りベルトが作動した直後に、油圧植付レバーを「植付切」位置にします。

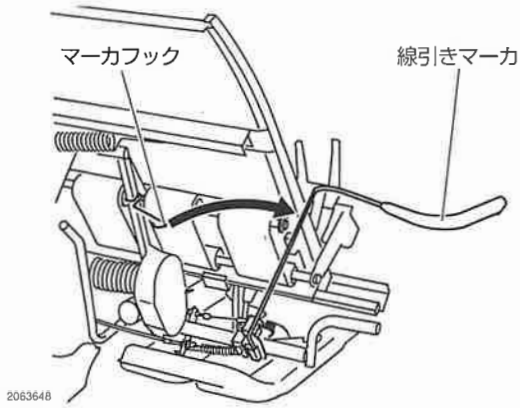


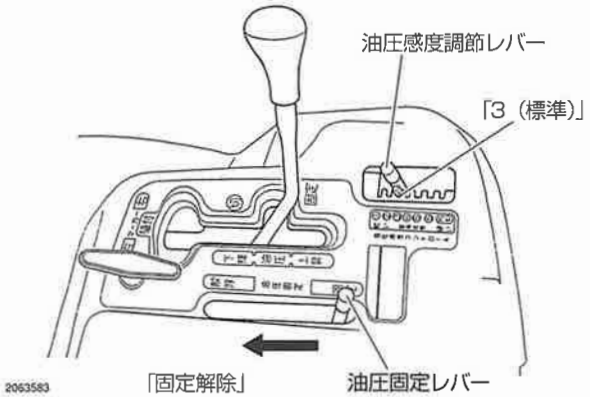
取扱いの注意

- **エンジンは低速で回転させてください。**

⑤線引きマーカをフックより外し、油圧感度調節レバーを「3（標準）」位置にした後、油圧固定レバーを「解除」位置にします。

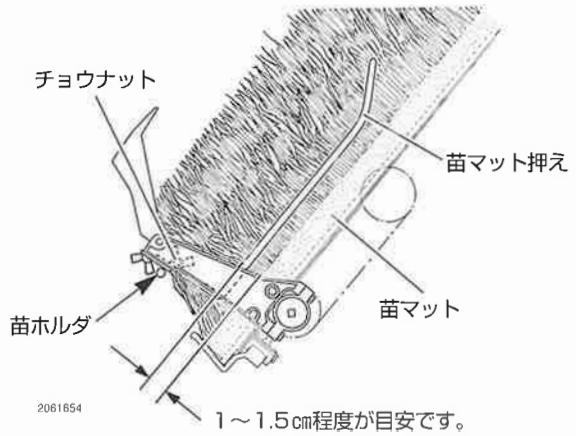
⑥油圧植付レバーを操作して、植付部をゆっくり降ろします。





⑦エンジンを停止します。

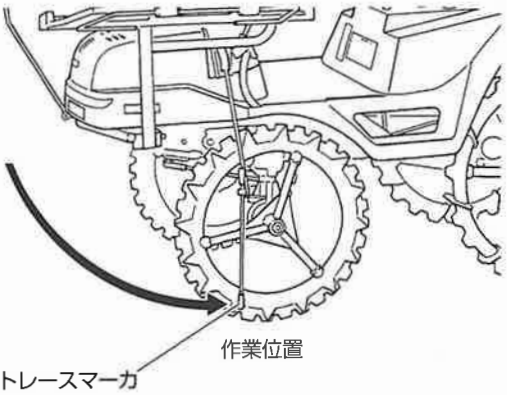
⑧苗マットを苗のせ台にのせて、苗マット押えと苗ホルダをセットします。(調節の目安と調節のしかたは58ページを参照してください。)



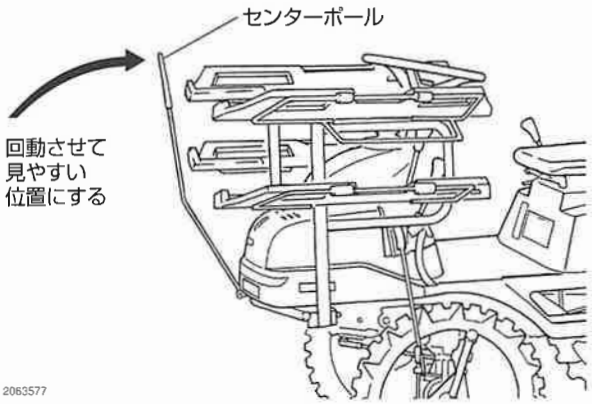
取扱いの注意

- **苗マット押えのセット位置は、苗マット表面から1～1.5㎝程度が標準ですが、苗の条件に応じて調節してください。**
- **苗マット押えが苗のせ台と平行になっているか確認してください。**

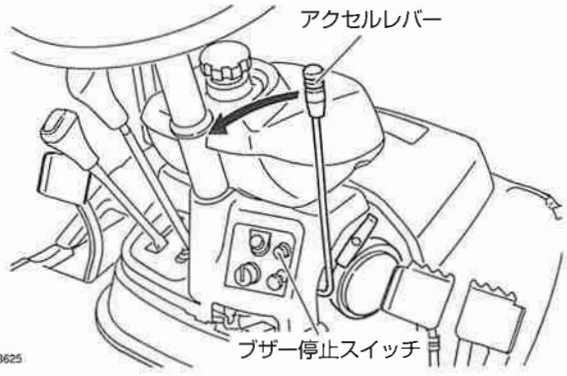
⑨トレースマーカを隣接条に合う位置にセットします。



⑩センターポールを回動させて、見やすい位置にセットします。



⑪エンジンを始動し、アクセルレバーでエンジン回転を中速に上げます。



取扱いの注意

- **苗のせ台に苗がない場合にエンジンを始動すると、警報ブザーが鳴りますので、ブザー停止スイッチを押して止めてください。**

⑫AZ（エーゼット）レバーが「苗つぎ」位置にあることを確認して、主変速レバーを「植付」位置に入れ、油圧植付レバーを「植付」に入れた後、一方の線引きマーカを倒します。

⑬主クラッチペダルを踏み込んで、AZ（エーゼット）レバーを「作業」位置にし、主クラッチペダルを徐々に離すと発進します。





取扱いの注意

- **主クラッチペダルを急に離すと、エンストすることがあります。**

⑭4～5ｍ進んだ後、次の確認を行い、必要なら調節します。

■確認項目
- １株本数……55ページ参照
- 植付株数……55ページ参照
- 植付深さ……56ページ参照
- 油圧感度……58ページ参照

枕地・あぜぎわの植付けのしかた

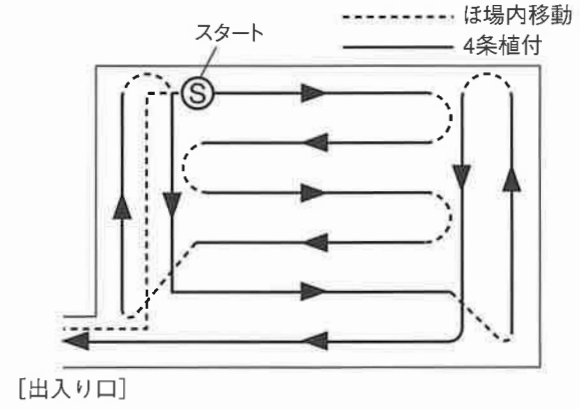
作業方法は、ほ場の大きさ・形状により異なりますので、作業を始める前にどのような順序で植付けていくかを決めてください。

取扱いの注意

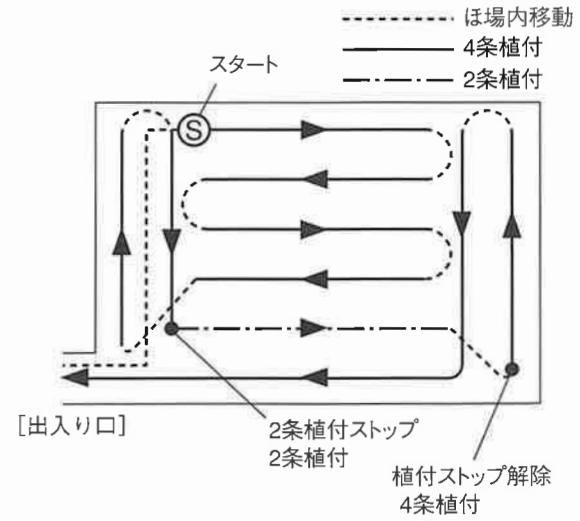
- **枕地は、やや多めにとった方が旋回が楽に行えます。**

あぜ際に近づいたら、残りの条数を考えて、最終行程で全条植えできるように、最終の１行程前で、条数合わせを行ってください。

〈条数合わせの必要がない場合〉



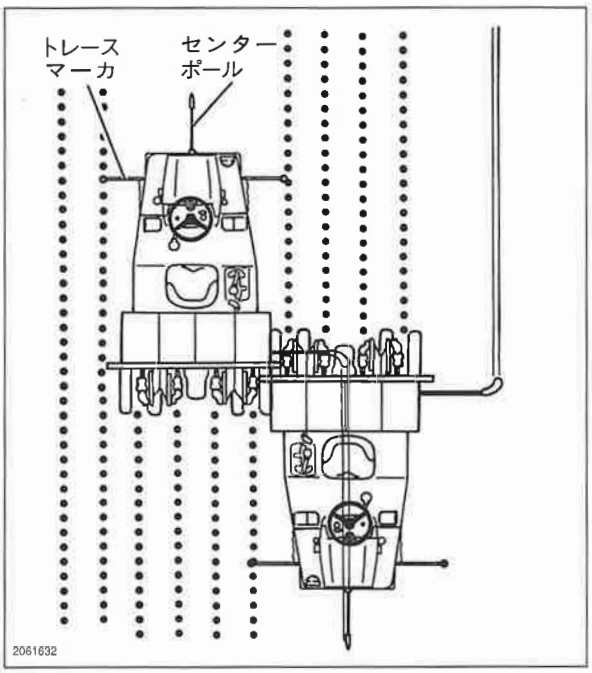
〈条数合わせが必要な場合〉



残りが6条で、4条植えしていた場合は、最終行程の前で、あぜ際の2条を苗ストッパを使用して、最終行程で4条植えを行ってください。

マーカの使いかた

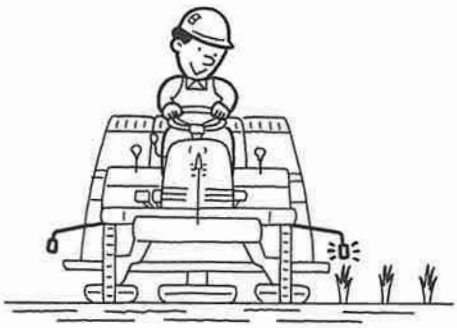
線引きマーカでほ場に線を引き、次行程でセンターポールで印された線に合わせて進むと、条間がほぼ30㎝になり、直進の目安にもなります。



取扱いの注意

●水深が深すぎると、線引きマーカで引いた線が見えにくいことがありますので、水深を1～2㎝のヒタヒタ水程度に落水してください。

線が見えにくいときは、植え終わった隣の苗にトレースマーカを合わせて進むと、条間がほぼ30㎝になります。



旋回のしかた（一度後進してから旋回する場合）

①あぜに近づいたら、アクセルレバーでエンジン回転を落としてください。

②本機のバンパー（先端）があぜに当たる少し手前で、主クラッチペダルを踏み込んで停止します。

③油圧植付レバーを「上昇」位置にして、植付部を上げます。

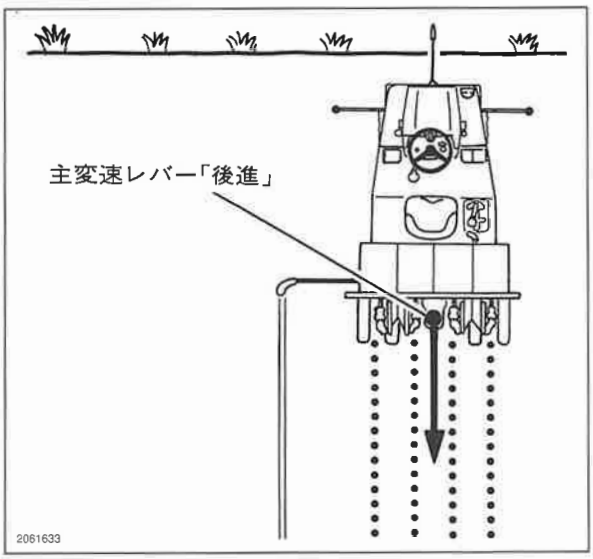
④主変速レバーを「後進」位置にし、主クラッチペダルを徐々に離して、旋回しやすい位置までまっすぐに後進します。

取扱いの注意

●後進する前には、必ず植付部を上げてください。

●後進はエンジン回転を低速にして行ってください。

●主変速レバーが「後進」位置にあるときには、油圧植付レバーを操作しないでください。植付部が下がったり、ビークが回転して機械を痛めます。

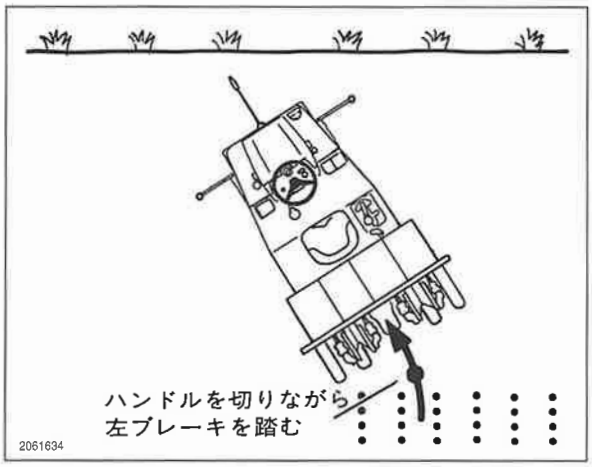


●前輪をあぜに乗り上げて停止しないでください。車輪が逆転して、ミッション内ギヤに負担が加わり、主変速レバー操作が重くなることがあります。

⑤主変速レバーを「植付」位置にし、ハンドルを切りながら旋回する側のブレーキペダルを踏み込んで、本機があぜに当たらないように旋回します。

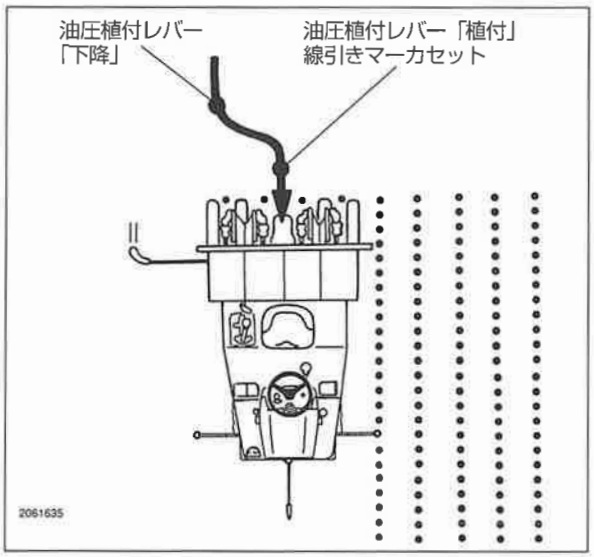
取扱いの注意

- **片側の前輪がスリップする場合は、デフロックレバーを引き上げてください。**
- **デフロックレバーを操作するときは、エンジン回転を下げて行ってください**
- **デフロックレバーを引き上げるときは、デフロックが作動するまで引き上げ続けてください。**



⑥トレースマーカ・センターポールで隣接条間を合わせ、機体を進行方向にまっすぐにします。

⑦油圧植付レバーを「下降」位置にして、植付部を降ろしてからレバーを「植付」位置にした後、線引きマーカをセットします。



取扱いの注意

- **植え始めと、植え終りの位置を全て揃えるように植付「入」「切」を操作してください。**

参考

- 次項の「旋回のしかた（後進せずに旋回する場合）」に比べ、一度後進してから旋回する方が植え始め、植え終わりの位置がそろえやすい作業方法です。

旋回のしかた（後進せずに旋回する場合）

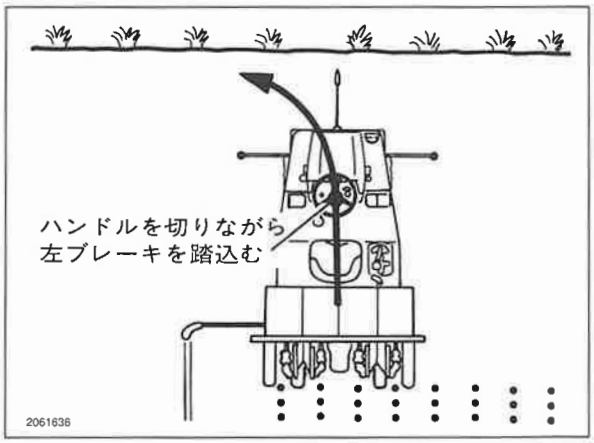
①あぜに近づいたら、アクセルレバーでエンジン回転を落としてください。

②油圧植付レバーを「上昇」位置にし、植付部を上げます。

③ハンドルを切りながら、旋回する側のブレーキペダルを踏み込んで旋回します。

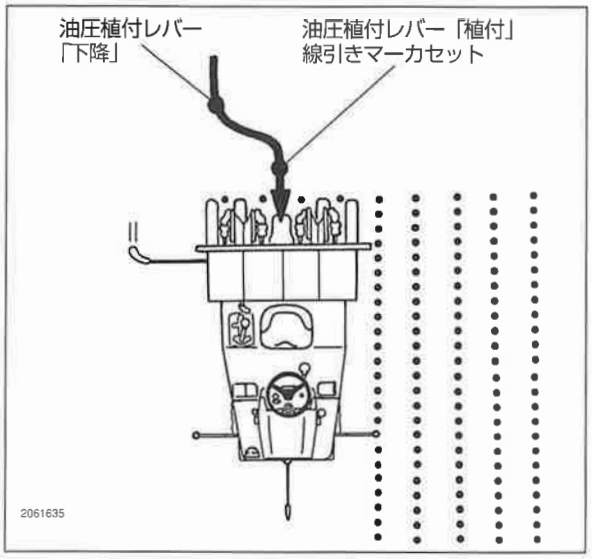
取扱いの注意

- **片側の前輪がスリップする場合は、デフロックレバーを引き上げてください。**
- **デフロックレバーを操作するときは、エンジン回転を下げて行ってください**
- **デフロックレバーを引き上げるときは、デフロックが作動するまで引き上げ続けてください。**



④トレースマーカ・センターポールで隣接条間を合わせ、機体を進行方向にまっすぐにします。

⑤油圧植付レバーを「下降」位置にして、植付部を降ろしてから植え始め位置を合わせて、レバーを「植付」位置にした後、線引きマーカをセットします。



取扱いの注意

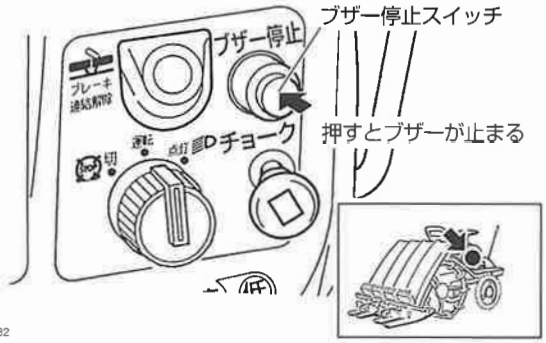
- 植え始めと、植え終りの位置を全て揃えるように植付「入」「切」を操作してください。
- 一度後進してから旋回する場合と、後進せずに旋回する場合では枕地の幅が異なります。

苗つぎのしかた

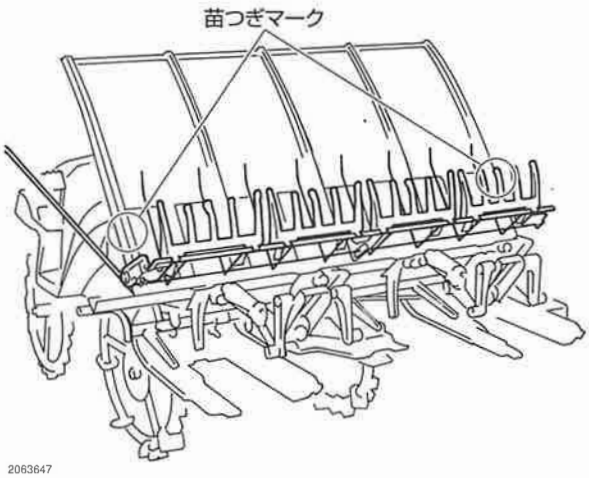
苗のせ台の苗が少なくなり、苗つぎが必要なところまで減ってくると、警報ブザーが鳴ります。機械を止めて次の手順で新しい苗を補給してください。

取扱いの注意

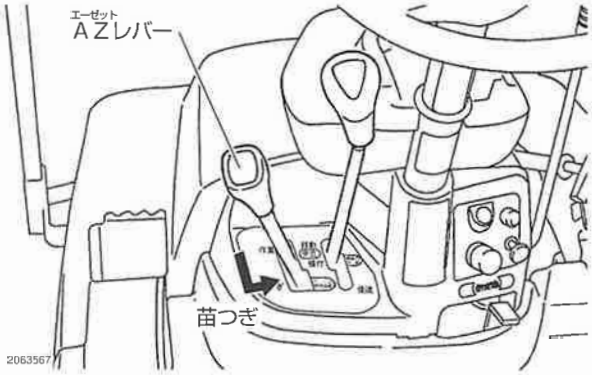
- 警報ブザーは、ブザー停止スイッチを押すと鳴りやみます。



- 残りの苗が、苗のせ台の苗つぎマークより少なければ、新しい苗マットをつぐことができます。



①警報が鳴ったらブザー停止スイッチを押し、エンジン回転を下げて、ＡＺ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置にし、機体を停止させます。



②必要な条に苗を補給します。

③苗つぎ後は、主クラッチペダルを踏み込んで、ＡＺ（エーゼット）レバーを「作業」位置にします。

④主クラッチペダルを徐々に離して、植付作業を再開します。



取扱いの注意

- 植付部を上げて苗つぎをした場合は、油圧植付レバーを「植付」位置にしてから、ＡＺ（エーゼット）レバーを「作業」位置にしてください。また、線引きマーカも上がっていますので、再度セットしてください。

〈残っている苗を取り除く場合〉

残っている苗マットを取り除き、新しい苗マットをのせる場合は、苗のせ台が右または左端で、苗送りベルトの作動直後の位置にしてから、エンジンを停止し、残っている苗マットを取り除いて新しい苗マットをのせてください。



2. 作業に合わせた調節のしかた

取扱いの注意

- **油圧固定レバーが「固定」位置にあるときは、油圧植付レバーを「下降」位置にしても植付部は下降しませんが、「上昇」位置にすると植付部は上昇しますので注意してください。**

植付株数の調節のしかた

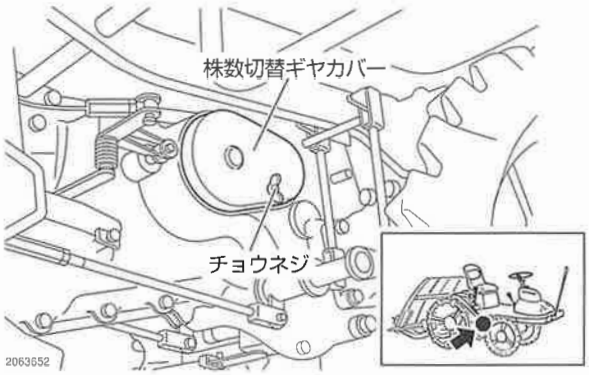
⚠注意

- **株数切替作業をするときは、主変速レバーを「中立」位置にして、エンジンを停止してから行ってください。不意に機械が動いて傷害事故につながる場合があります。**

ミッションケース右側面の株数ギヤカバーのチョウネジをゆるめて、カバーを取り外してから希望の株数ギヤをセットし、カバーを取り付けます。なお、ほ場の条件などにより、数値が多少異なる場合がありますので、4～5ｍ進んだ後に確認して、必要ならば再調節してください。

取扱いの注意

- **株数ギヤには、合わせマークはありません。任意の位置で組み込んでください**
- **出荷時は、60株にセットされています。その他の株数ギヤは、工具袋の中にあります。**



株数ギヤ歯数一覧表

株　数 (株/3.3㎡)	大ギヤ	小ギヤ	備　考
70	34T	24T	標準装備
60	37T	22T	
50	39T	19T	
40	42T	17T	オプション

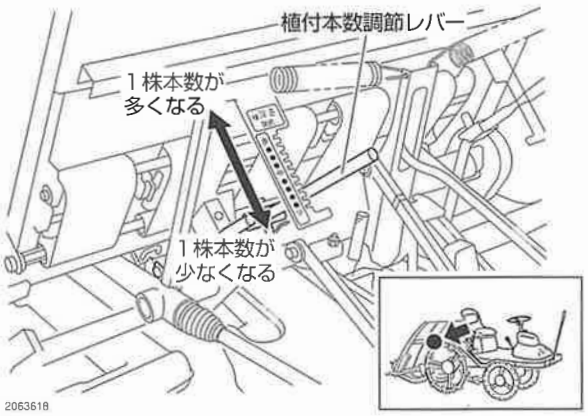
植付株数一覧表

株　数	70株	60株	50株
株　間	16㎝	18㎝	22㎝

縦取り量の調節のしかた

苗マットの状態・播種量に合わせて苗の1株本数を植付本数調節レバーで調節することができます。横送りの調節と合わせて選択してください。

※調節は8～17㎜までの10段階ありますので、1株本数が3～4本になるように調節してください。



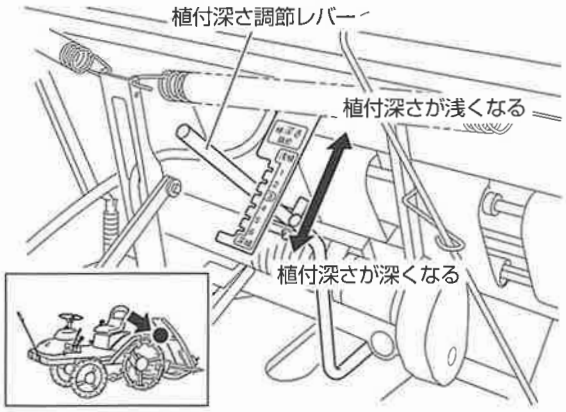
参考

- 株数・横送り量・縦取り量・苗マットの播種量に応じた、10a当たりの必要な箱数（苗マット数）のおよその目安を、94ページの「10a当たりの苗マット数早見表」に記載していますので参照してください。

植付深さ調節のしかた

ほ場の条件、苗の条件に合わせて、植付深さを調節することができます。「3」の位置で作業を開始し、4～5ｍ進んだ後に確認して、必要ならば再調節してください。

※植付深さは、2～3㎝が適正です。



取扱いの注意

●植深さを調節するときは、植付部を上げて行ってください。

横送りの調節のしかた

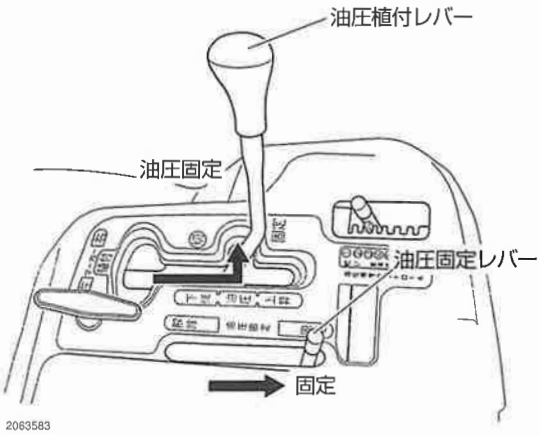
苗マットの状態によって、1株の苗取量を苗のせ台の横送り量によって調節することができます。次の手順で切り替えを行います。

※「縦取り量の調節のしかた」と合わせて選択してください。(55ページ参照)

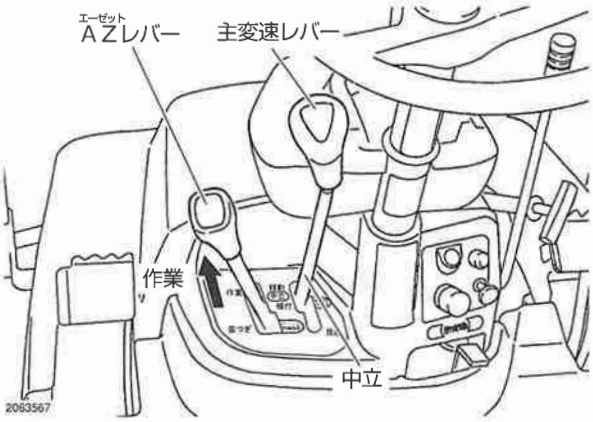
取扱いの注意

●横送りの切り替えは、ほ場から田植機を外に出して、平たんで安全な場所で行ってください。ほ場内で行うと部品を紛失するおそれがあります。

①エンジンを始動し、植付部を最上位置にして、油圧植付レバーを「油圧固定」位置にして、油圧固定レバーを「固定」位置にします。



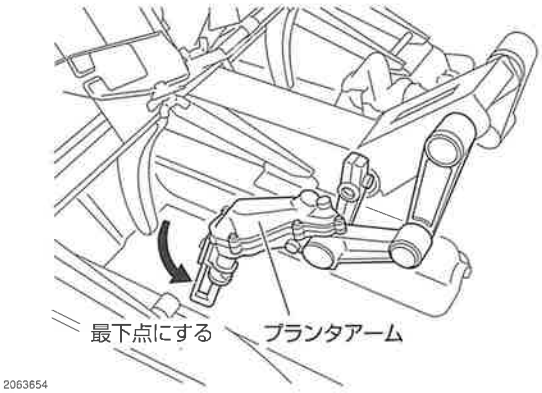
②主変速レバーを「中立」位置、ＡＺ（エーゼット）レバー「作業」位置にし、エンジン回転を低速にします。



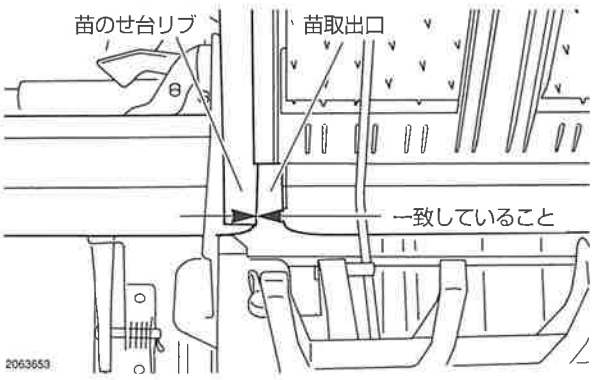
③油圧植付レバーを操作して、苗のせ台を端に移動させ、最端手前のときに主クラッチペダルを踏み込み、エンジンを停止します。



④レバー類の位置を動かさず、リコイルスタータを引き苗のせ台を最端位置にして、プランタアームを最下点にします。



⑤切り替える前に、苗取出口と苗のせ台リブが一致していることを確認してください。



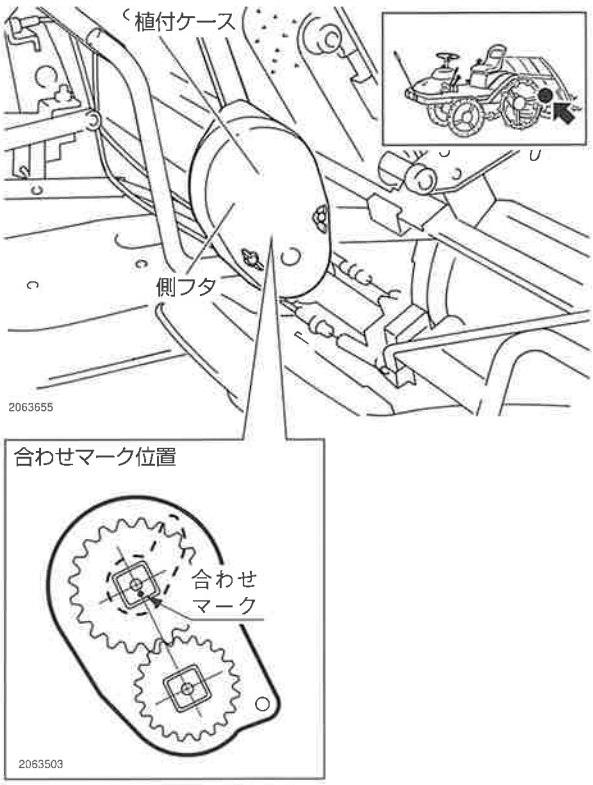
⑥植付フレーム左側のふたを外し、上側の軸の合わせマークが、下軸の中心に向くようになっていることを確認してください。

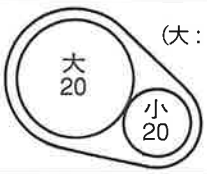
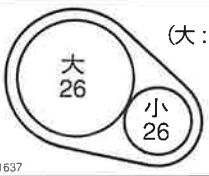
⑦この状態で、工具袋の歯車で、希望の横送り量の組み合わせのものと交換します。

⑧植付ケースの側ふたを取り付けます。

取扱いの注意

- **出荷状態は、横送り量20回になっています。**
- **歯車交換時は、下図の駆動軸ができるだけ回転しないようにして、正しくかみ合う位置でセットしてください。**



歯車の組合わせ（数字は歯数）	送り量（回）
 (大：40, 小：28)	20
 (大：52, 小：28)	26

2061637

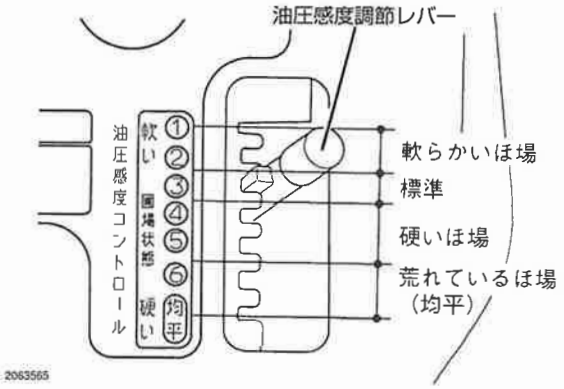
油圧感度の調節のしかた

ほ場の軟らかさに合わせて、油圧自動制御の感度を下記のように調節してください。

- 軟らかいほ場
  （フロートで泥を押す場合）……1～2
- 標準的なほ場……3
- 硬いほ場
  （フロートでの均平が悪い場合）……4～6
- 枕地等車輪跡や足跡で
  ほ場が荒れている場合……均平

取扱いの注意

- **油圧感度調節レバーを軟らかいほ場側にすると植付深さが浅くなり、硬いほ場側にすると植付深さが深くなりますので、同時に植付深さ調節レバーも調節してください。**



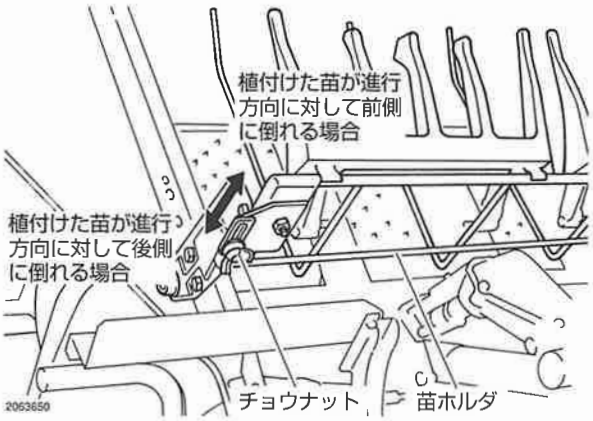
苗ホルダ・苗マット押えの調節のしかた

⚠警告

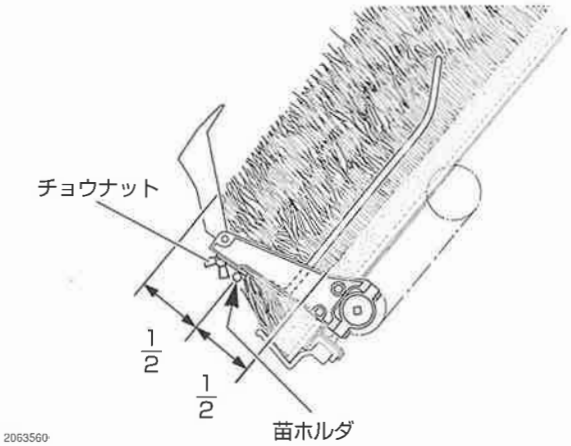
- **苗ホルダ・苗マット押えを調節する場合は、必ずエンジンを停止してから行ってください。不意に植付部が動いた場合、傷害事故を引き起こします。**

苗丈や植付姿勢により、苗ホルダ・苗マット押えを、チョウナットをゆるめて調節してください。
（下記の内容を目安にしてください。）

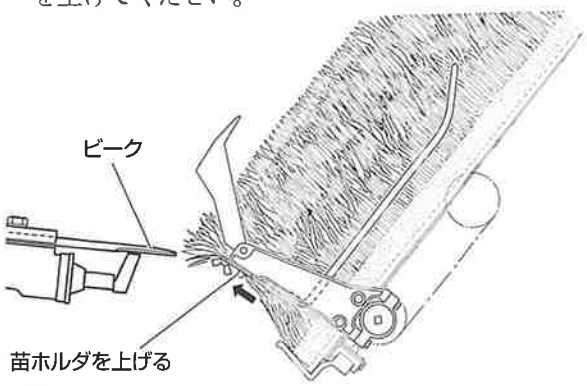
〈苗ホルダ〉



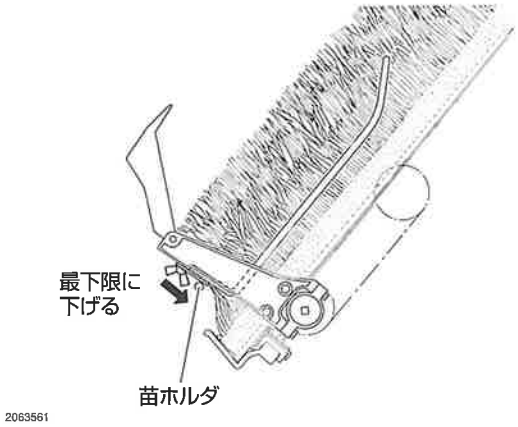
- 苗ホルダは、通常、苗丈の約半分のところにくるようにセットしてください。



● 苗が軟弱徒長苗で、葉先がたれ下がるような場合は、葉先がビークにあたらないように、苗ホルダを上げてください。

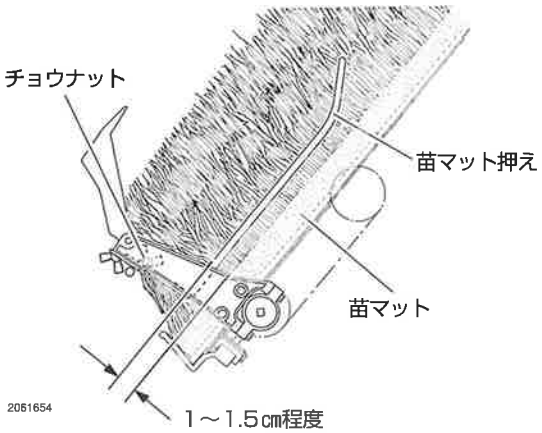


● 苗丈が短い（約12㎝以下）場合は、苗ホルダを最下限にセットしてください。



〈苗マット押え〉

● 苗マット押えを、苗マットの表面から1～1.5㎝程度離れるようにセットします。



● 葉がからんで苗がすべりにくい場合は、苗マット押えを少し上げてください。

取扱いの注意

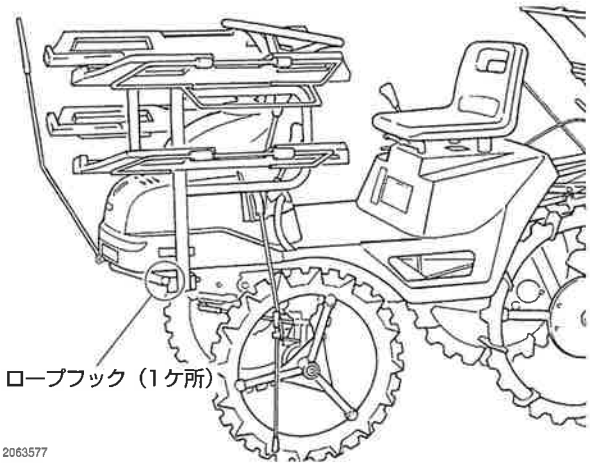
● 苗マット押えのセット位置は、苗マット表面から1～1.5㎝程度が標準ですが、苗マットの条件に応じて調節してください。

本機のけん引のしかた

田植機をけん引する場合は、ロープフックにロープを掛けてけん引します。ほ場の中で機体が沈下したときなどに利用してください。
(耕盤が深く、機体が沈下した場合の脱出方法は87ページに記載しています。)

取扱いの注意

● ロープフック以外にロープを掛けて本機をけん引すると、機体損傷の原因になりますので、必ずロープフックを使用してください。



機械から離れるときには

機械から離れるときは、平坦地に置き、駐車ブレーキを掛け、ＡＺ（エーゼット）レバーを「作業」位置、主変速レバーを「植付」位置または「後進」位置、副変速レバーを「低」位置にし、エンジンを止めてください。
やむを得ず傾斜地に置く場合は、車輪に車止めをしてください。

8章 作業後の手入れについて ― 正しい手入れを行ってください。

1. 作業後の手入れ

⚠警告

- シートをかける場合は、エンジン停止後しばらく放置して、エンジンが完全に冷えたことを確認してからかけてください。
  完全に冷えていないときにカバーをかけると、火災事故を引き起こすことがあります。

⚠注意

- 機体を清掃する場合は、必ずエンジンを停止させてから行ってください。回転部に巻き込まれたり、思わぬ傷害事故につながります。

作業後、その日の内に水洗いし、回転部などに巻き付いたゴミなどをきれいに取り除き、水分をよくふき取った後、回転部・摺動部にたっぷり油をさし、錆やすい所にはグリスを塗ってください。



2061638

取扱いの注意

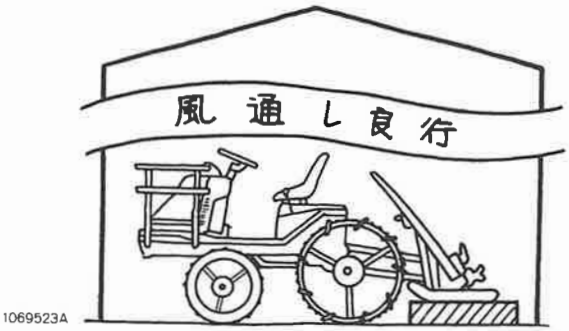
- 各センサなどの電装品には、できるだけ水をかけないようにしてください。故障の原因となります。

2. 長期間使用しない場合の手入れ

田植機を長期間使用しない場合は、61ページ以後の「点検・整備のしかた」に従い整備し、次の要領で格納してください。

①格納は、直射日光や雨のあたらない風通しの良い場所を選んでください。

②植付部（フロート）の下に高さ30㎝程度の台を置き、その上に植付部を降ろして、油圧固定レバーを「固定」位置にしてください。



1069523A

③油圧植付レバーを「油圧固定」位置、AZ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置に入れておいてください。

参考

- 格納時は、ベルトの変形防止のため、AZ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置にしてください。

④燃料タンクおよび気化器より、ガソリンを完全に抜き取っておいてください。

取扱いの注意

- ガソリンは長期間放置しておくと変質して、次期使用時にエンジントラブルの原因になりますので、完全に抜き取ってください。（73ページ参照）

9章 点検・整備のしかた

⚠警告

- 点検・整備をするときは、エンジンを確実に停止させ、油圧固定レバーを「固定」位置にし、車輪に車止めをしてください。機械が急に動き出し、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 室内で点検する場合は、換気を充分にしてください。エンジンの排気ガスで中毒を起こすおそれがあります。

⚠注意

- １年ごとに定期点検・整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料パイプや油圧ホースのゴム類、電気配線の点検・交換は必ず行ってください。守らないと、整備不良による事故や、機械の破損をまねくおそれがあります。
- 点検・整備などで取り外したカバーなどは、必ず取り付けてください。取り付けないと回転部に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすことがあります。
- 点検・整備時に植付部を上げた場合は、必ず油圧固定レバーを「固定」にしてください。植付部が下がり、傷害事故をまねくことがあります。

取扱いの注意

- 交換したオイルなどの廃油の処分は、販売店に相談してください。そのまま河川などに捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。

定期点検や整備は、農閑期に行いますと農繁期には機械の性能が十分発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、1シーズンごとに販売店・整備工場で定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。特に燃料パイプや、油圧ホースなどのゴムホース類は2年毎に交換し、電気配線は毎年点検し、被覆のはがれなど異常箇所がある場合は必ず交換して、常に機械を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

1. 定期点検一覧表

実　施　項　目	内　　容	点検・交換時期	参照ページ
燃料タンク	量点検　　(6.5ℓ)	作業前・格納前	63
エンジンクランクケース	量・汚れ点検、必要ならば追加　(0.45ℓ)	〈点検〉作業前 〈交換〉1回目：50時間 2回目以後：100時間毎	64
ミッションケース	量・汚れ点検　　(9.2ℓ)	〈点検〉1シーズン毎 〈交換〉1回目：50時間 2回目以後：300時間毎	65
プランタアーム	給脂量・汚れ点検　(0.025ℓ)	1シーズン毎に点検（2～3ha毎）	66
各摺動部注油	エンジンオイル・ギヤオイル	作業前・格納前	66～68
燃料コシ器点検	コシ網・カップ洗浄	作業前に点検 300時間毎にエレメント交換	69
エアクリーナーエレメントの洗浄	灯油で洗浄→乾燥→オイルをしみ込ませる→しぼる	100時間毎に清掃	69
電気配線点検	被覆のはがれ・接点のゆるみ	異常箇所があれば交換	73
燃料パイプおよび接合部	点検	パイプは2年毎に交換	73
油圧装置の点検	オイルのもれ点検	1シーズン毎に点検	
油圧ホースおよび接合部	点検	ホースは2年毎に交換	
ステアリング各部締付け点検	増締め	作業前後・格納前	
各ワイヤーの点検	遊び量	作業前後・格納前	
重要ボルト・ナット点検	増締め	作業前後・格納前	
ビーク	点検、摩耗してきたら交換	作業前後・格納前	71
Vベルト	損傷の有無	作業前後・格納前	
スライドピーススライド部	点検、摩耗してきたら交換	作業前後・格納前	
エプロンスライド部	点検、摩耗してきたら交換	作業前後・格納前	
ブレーキペダル	遊び量・片ぎきの有無	作業前後・格納前	72
主クラッチペダル	遊び量	作業前後・格納前	72
点火プラグ	カーボンの付着・汚れ点検	200時間毎	74

2. 給油・給脂一覧表

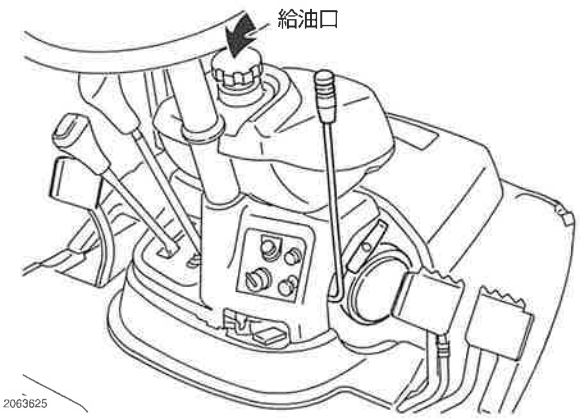
給油・給脂箇所	容　量	種　　類	参照ページ
燃料タンク	6.5ℓ	レギュラーガソリン（無鉛）	63
エンジンクランクケース	0.45ℓ	マルチSTOUオイル（SAE10W-30）	64
ミッションケース	9.2ℓ	マルチSTOUオイル（SAE10W-30）	64
プランタアーム	0.025ℓ	リチウムグリス（JIS 1種 0号）	66

3. 燃料の給油のしかた

⚠危険

燃料（ガソリン）を給油するときは、以下のことを必ず守ってください。守らないと火災や、ヤケドの原因となります。

- 燃料補給時や残量の確認をするときは、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- 燃料を補給したときや残量の確認をしたときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、絶対に給油はしないでください。



取扱いの注意

- 燃料の残量を確認するときは、燃料キャップを外して確認してください。（フィルタを外さなくとも燃料タンクの底まで、燃料の残量が確認できます。）
- 給油するときは、ゴミが入らないようにし、フィルタネットを外さないでください。フィルタネットにゴミが詰まったときは、ゴミを取り除いてください。

4. ステップ前の取り外しかた・取り付けかた

⚠注意

- ステップ前を取り外すときは、エンジン停止後、エンジンが十分に冷えていることを確認してから行ってください。

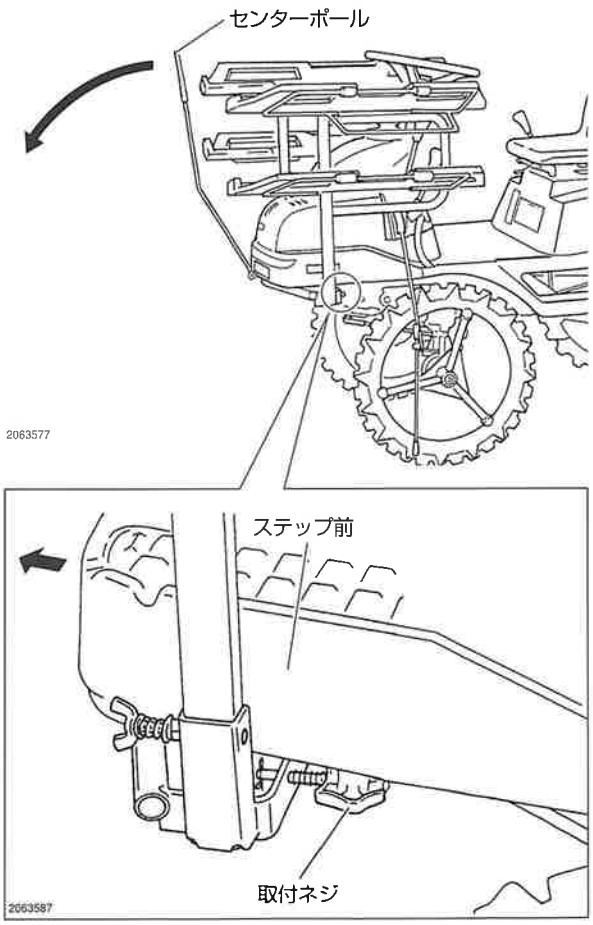
ステップ前の脱着

ステップ前は次の手順で取り外します。

①センターポールを前へ倒します。

②左右のブレーキペダルを連結金具で連結し、駐車ブレーキをかけます。

③ステップ前取付ネジ（左右）をゆるめて、ステップ前を前方に引っ張ると取り外せます。



取扱いの注意

- **ステップ前取付ネジには、自然ゆるみ防止のピンがあります。ピンを前方に引っ張りながら取付ネジをゆるめてください。**

⑤取り付けは、取り外しの逆の手順で行ってください。

5. 各部オイルの点検・交換のしかた

取扱いの注意

- **交換したオイルの処分は、販売店に相談してください。そのまま河川などに捨てると環境汚染につながります。**

エンジンオイル

⚠危険

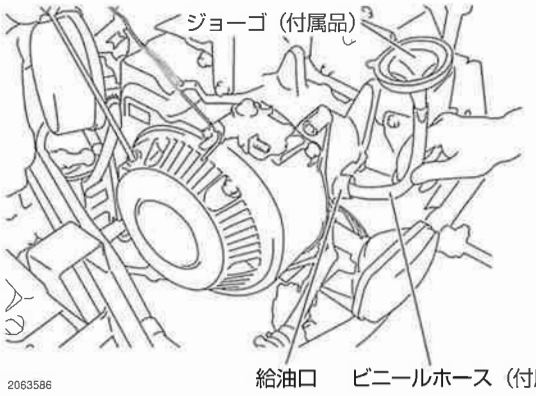
- **検油する場合は、エンジン始動前かエンジンが冷えているときに行ってください。エンジンが熱いうちに行うと、引火して火災の原因となったり、ヤケドしたりします。**

点検

①ステップ前を取り外してから、エンジン前側の給油栓を外します。

②給油栓の検油ゲージをきれいにふいて、給油口に差し込み、再び抜き取ってゲージの上限と下限の間にオイルがあるか確認します。

③不足しているときは、規定量まで補給します。なお、クランクケースからの油もれのないことも調べてください。



※図はステップ前を取り外しています。

取扱いの注意

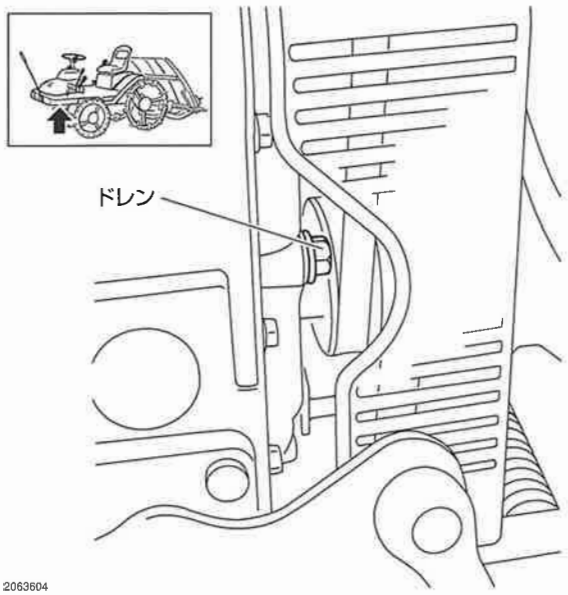
- **検油する場合は、給油栓（検油栓）はネジ込まないで検油してください。**
- **規定量とは、検油ゲージの上限と下限の間にオイルがある状態のことです。**

交換

エンジン左下部のドレンプラグから排油してください。完全に抜き取ったら、新しいオイルを規定量給油してください。

取扱いの注意

- **給油後は、必ず検油ゲージで検油してください。**



2063604

ミッションオイル

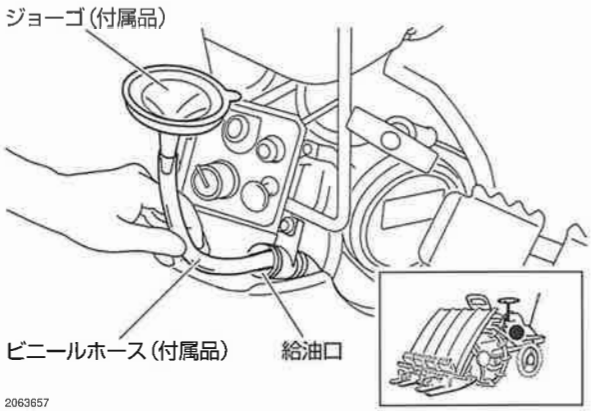
点検

①ミッションケースの検油ボルトを外し、検油口まで入っているか調べます。

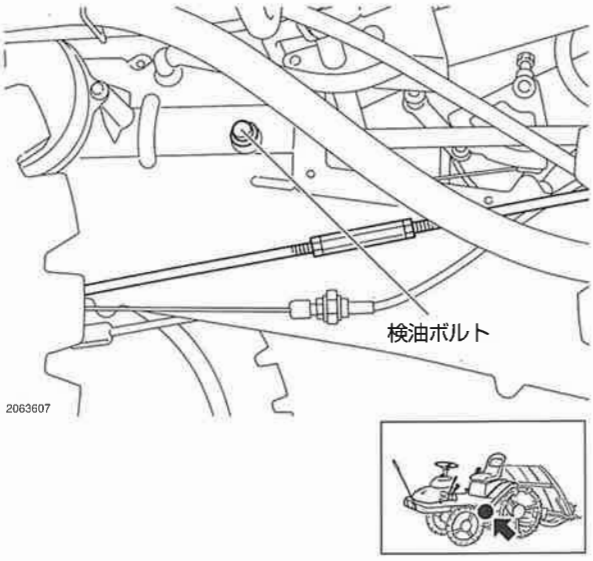
②不足しているときは、検油口まで補給してください。なお、油もれのないことも調べてください。

取扱いの注意

- **検油する場合は、植付部を最上げ状態で、油圧固定レバーを「固定」位置にして行ってください。**



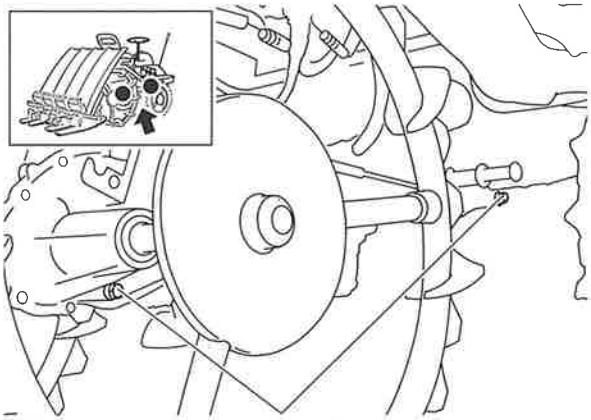
2063657



2063607

交換

ミッションケース下部のドレンプラグ（前後2ケ所）から排油してください。給油するときは、検油口まで補給してください。



ドレン（前後2ケ所）

取扱いの注意

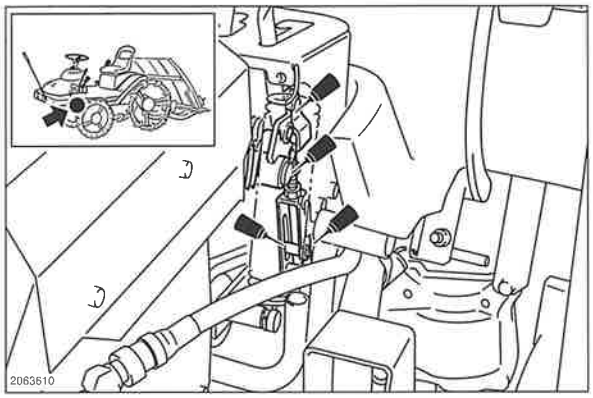
- **給油するときは、ジョーゴ（付属品）ビニルホースを使うと楽に作業ができます。**
  また、検油ボルトを外しておくと油が入りやすく、より楽に作業が行えます。

6. 各部の注油・給脂のしかた

〈凡例〉

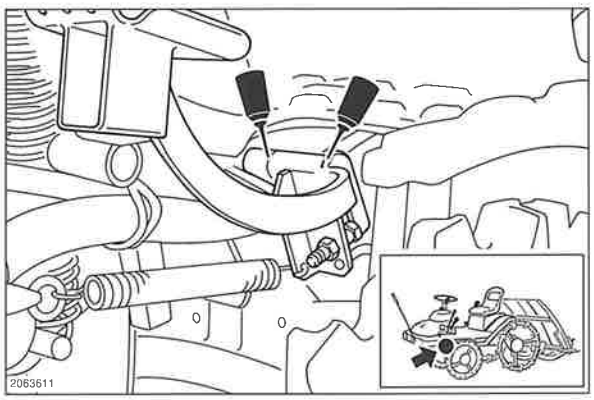
注油位置　　グリス位置　

AZ（エーゼット）レバー・テンションアーム支点部

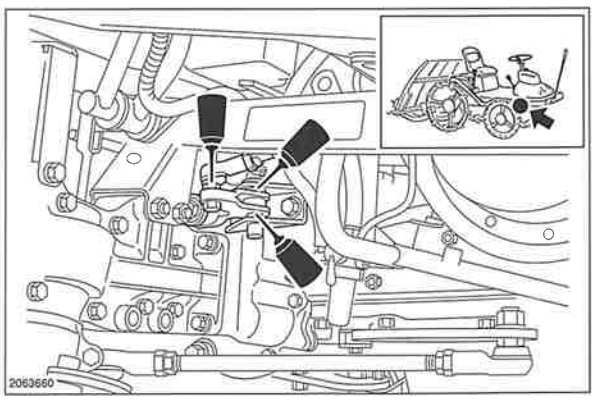


※プーリブレーキ、Vプーリには注油しないでください。

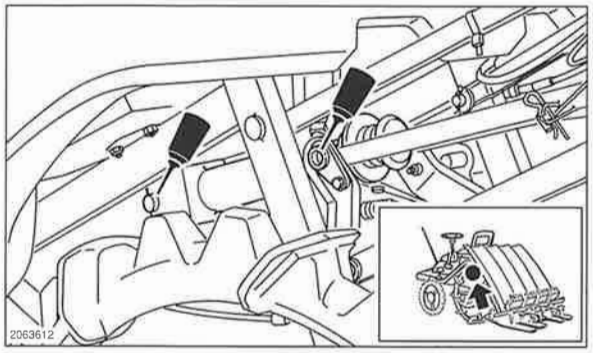
主クラッチペダル支点部



主変速レバー支点部

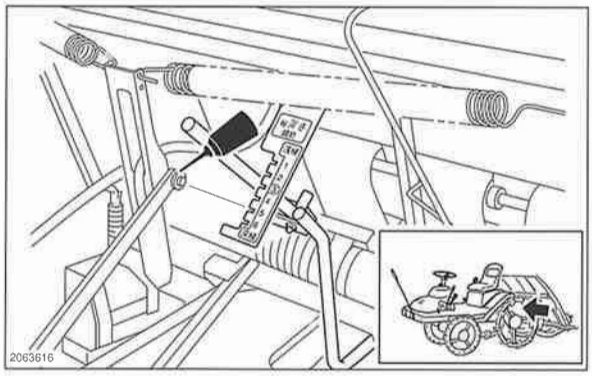


油圧シリンダ支点部

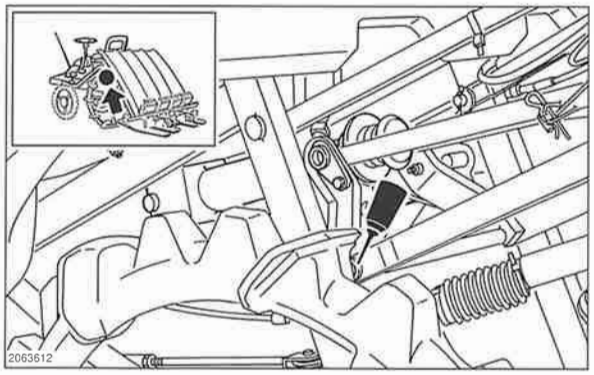


※油圧シリンダのバネ部には、絶対に注油しないでください。

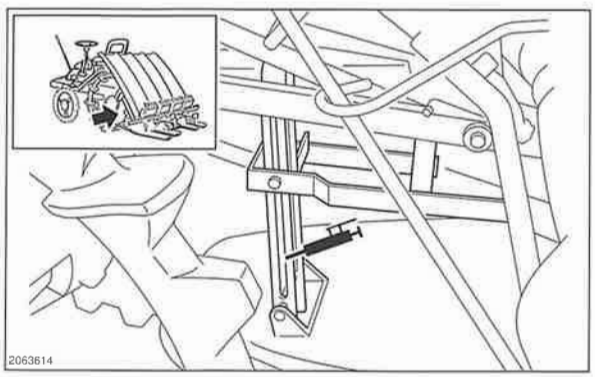
トップリンク支点部前後（上部）



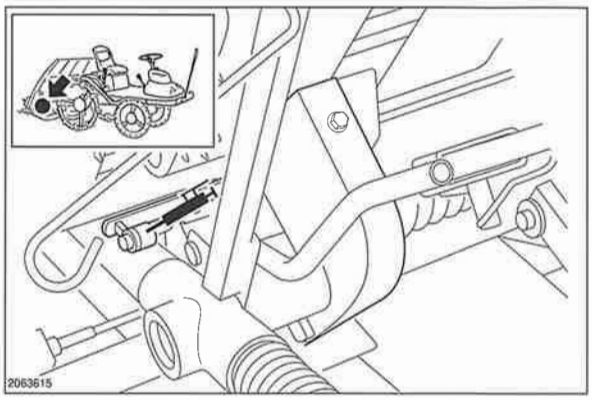
ロアリンク支点部前後（下部）



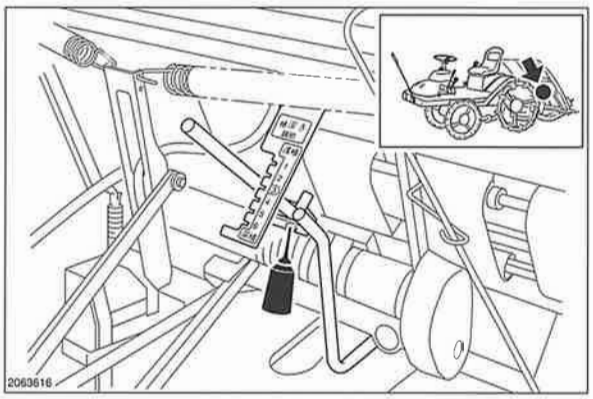
センサリンク長穴部　（グリス）



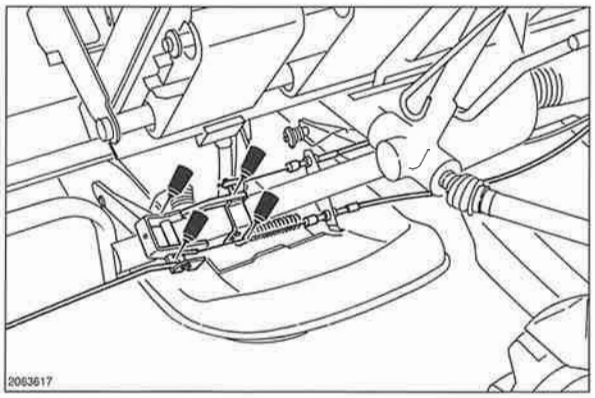
ホロワカム当り面・バネ部　（グリス）



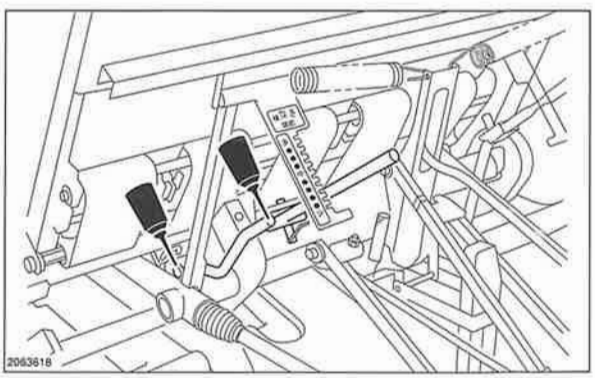
植付深さ調節レバー支点部



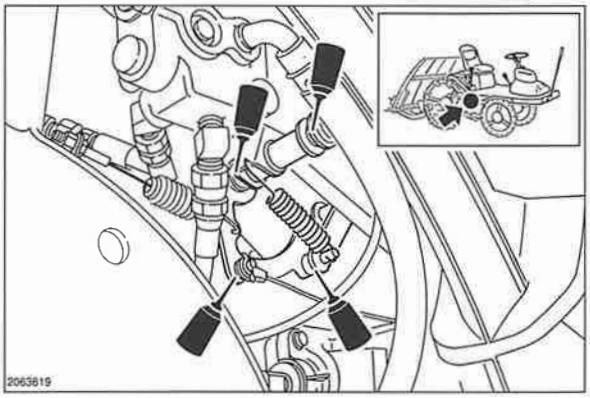
線引きマーカ支点・ロック装置部



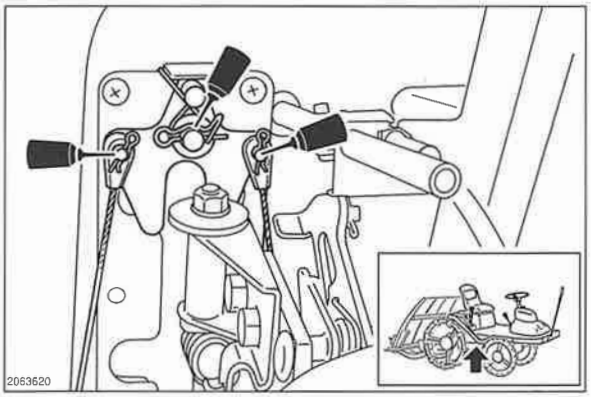
植付本数調節レバー支点部・リンク支点部



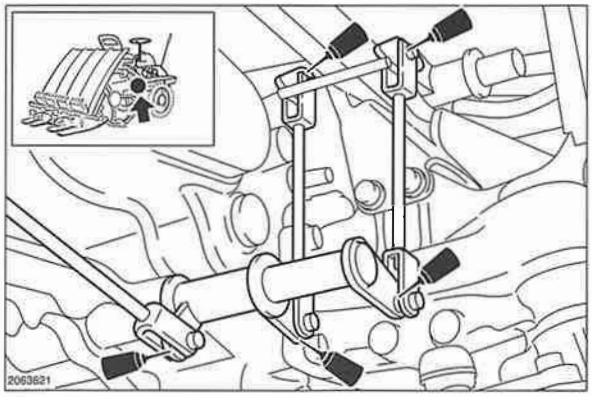
油圧植付レバー支点部・カム面



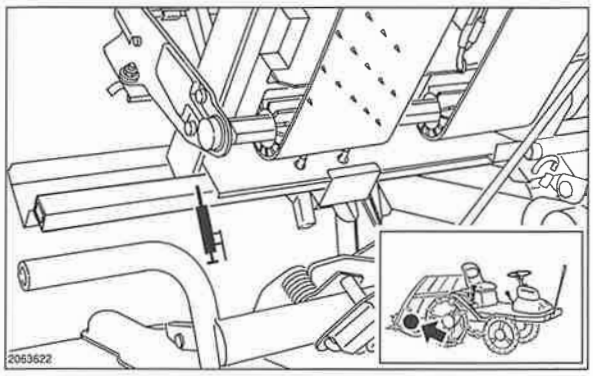
線引きマーカ操作リンク部



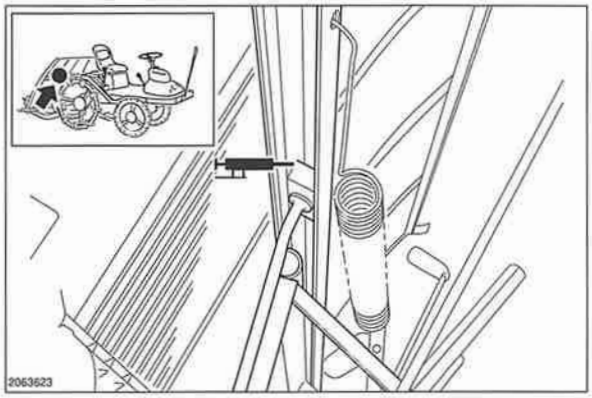
ブレーキペダル支点・リンク部（前・後）



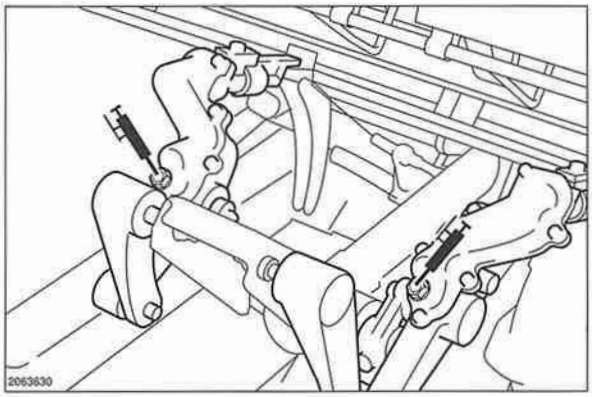
エプロンスライド部　（グリス）



スライドピーススライド部　（グリス）



プランタアーム　（リチウムグリス）



※リチウムグリスは、JIS 1種 0号
グリスは、JIS 1種 2号カップグリスを使用する。

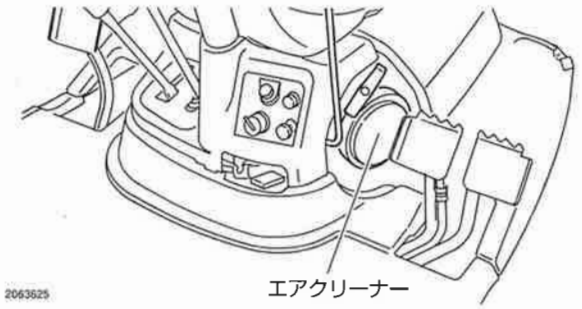
7. 各部エレメントの清掃・交換のしかた

⚠注意

- **エンジンを停止して行ってください。思わぬ傷害事故の原因となります。**

エアクリーナーエレメント

エアクリーナーのフタを外し、中のスポンジを取り外します。中のスポンジは灯油できれいに洗浄した後、エンジンオイルをしみ込ませ硬くしぼって取り付けてください。汚れたまま使用しますと、エンジンの出力低下や故障の原因になります。

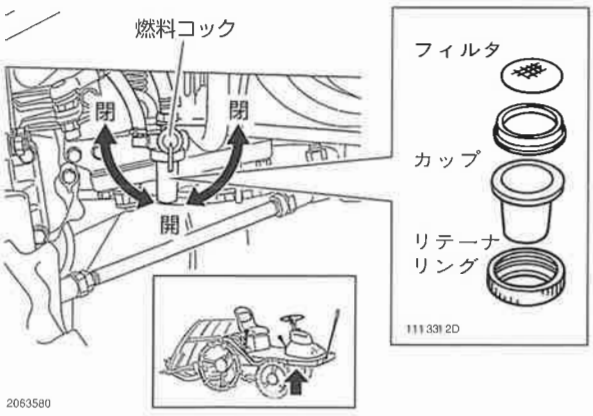


参考

- ステップ前を取り外すと、エアクリーナーのフタを外しやすくなります。

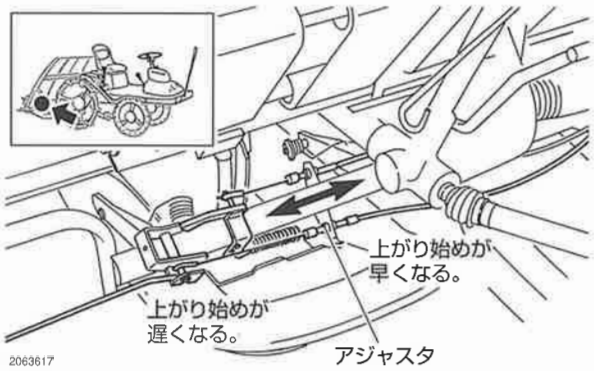
燃料コシ器エレメント

燃料コックを「閉」位置にし、コシ器のリテーナリングを回して、カップを取り外します。
コシ器内の水・ゴミを取り除き、フィルタの目づまりなどを清掃してください。

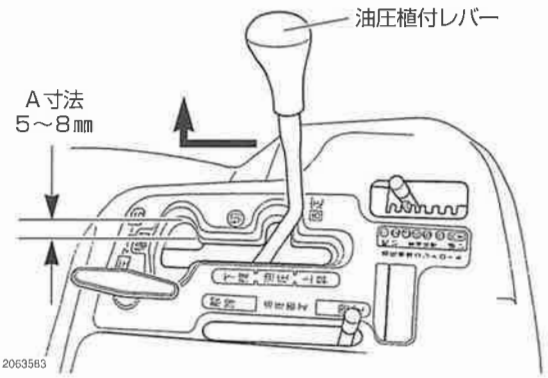


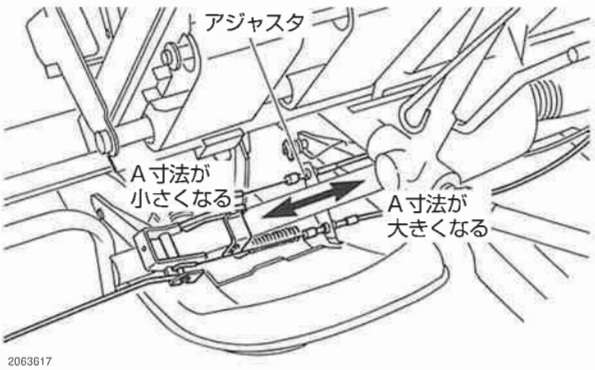
8. 線引きマーカの調節のしかた

車輪下側からフロート底面までの距離が350～370㎜位の位置で、線引きマーカが上り始めるように、サイドフレーム側のマーカワイヤーのアジャスタで調節します。さらに苗をのせて、植付部をいっぱいまで上げて、マーカがロックされることを確認してください。万一、ロックされないときは、もう少し早く持ち上がるように再調整してください。



マーカセット時は、植付部を降ろして、油圧植付レバーがレバーガイドから5～8㎜手前で、ロック解除されるように、サイドフレーム側のマーカロックワイヤーのアジャスタで調節してください。





9. ビークの調節のしかた

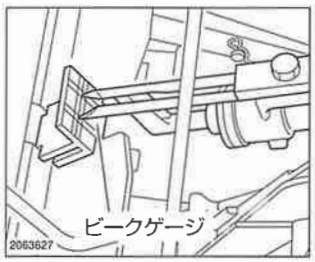
⚠警告

- **ビークの調節は、エンジンを停止して行ってください。回転部に巻き込まれるなどの傷害事故を引き起こします。**
- **ビークを調節する場合は、ビークの先などでケガをしないように十分注意して行ってください。**

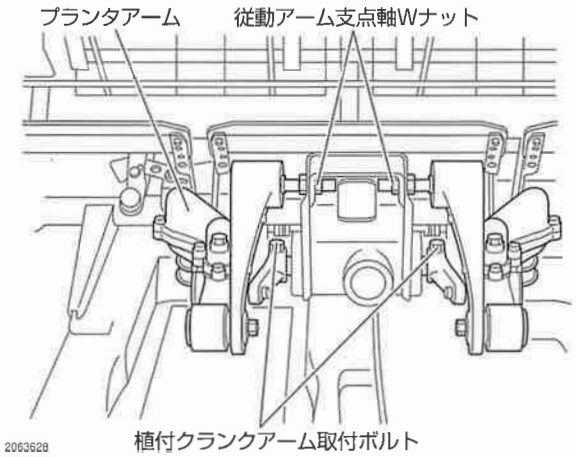
エプロンとビークとのスキマ調節

工場出荷時点で適正なスキマに調節してありますが、万一このスキマがずれたときには、次の要領で調節してください。

①植付クランクアームのボルトと従動アーム軸のWナットをゆるめます。
②ビークゲージを使用し、ビークの先端がゲージの縦線に合うようにプランタアームを左右に動かします。
③植付クランクアームのボルトを締め付けます。
④従動アーム軸のWナットを、無理な力がかからないようにして、左右から締め付けます。

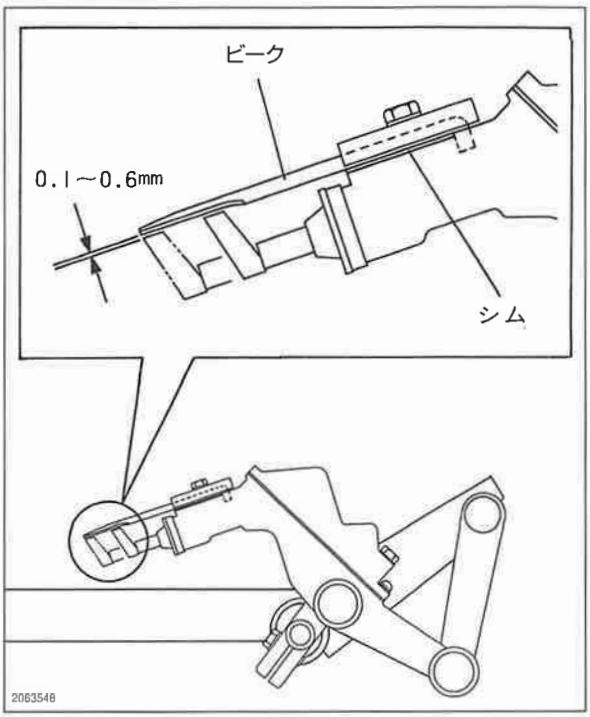






フォークとビークの調節

フォークとビークのスキマが0.1～0.6㎜となるように、付属のシム（0.2㎜）をビークとビーク取付座の間に入れて調節します。



参考

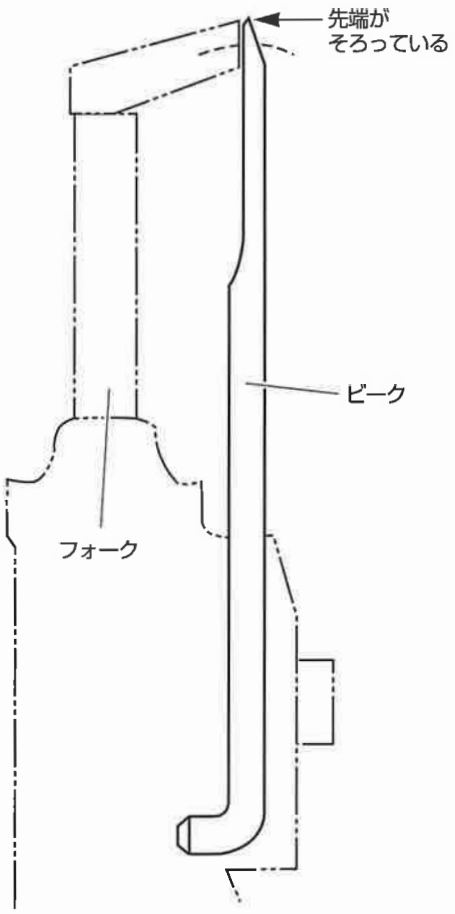
〔プランタアームの手動による回転のさせかた〕

①主変速レバーを「中立」位置にして、エンジンを始動し、植付部を最上げにします。
②油圧固定レバーを「固定」位置にします。
③メインスイッチを「切」位置にして、エンジンを停止させます。
④AZ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置にします。
⑤油圧植付レバーを「植付」位置にします。
⑥プランタアームを手で回します。

ビークの交換時期の目安

植付けた苗の姿勢が乱れたり、ばらける、または浮き苗になるなどうまく植付られない場合はビークの摩耗が考えられます。ビークをこのゲージに合わせてみてください。

……線まで摩耗してきたら交換の時期です。



2060535

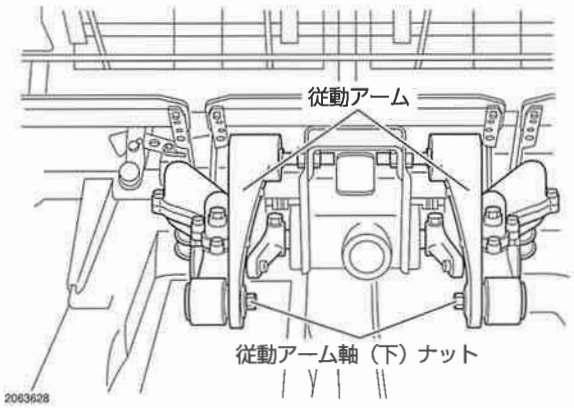
取扱いの注意

●新しいビークはフォークが押し出されたときに、ビークの先端とフォークの先端とが図のように揃っています。ビークの磨耗度合の参考にしてください。

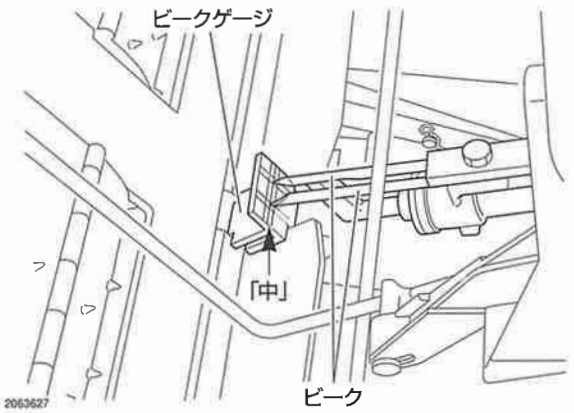
縦取り量のセット調節

新しいビークに交換したときに、植付本数調節レバーの取量と合わなくなる場合があります。そのときには、次の要領で調節してください。

①植付本数調節レバーを「中」位置にセットします。
②ビークゲージを苗取出口にセットします。
③従動アーム軸（下）のナットをゆるめ、ビーク先端をビークゲージの「中」位置に合わせます。
※従動アーム軸（下）部分は、長穴になっておりスライドしますので、ビーク先端が上下に動きます。



2063628



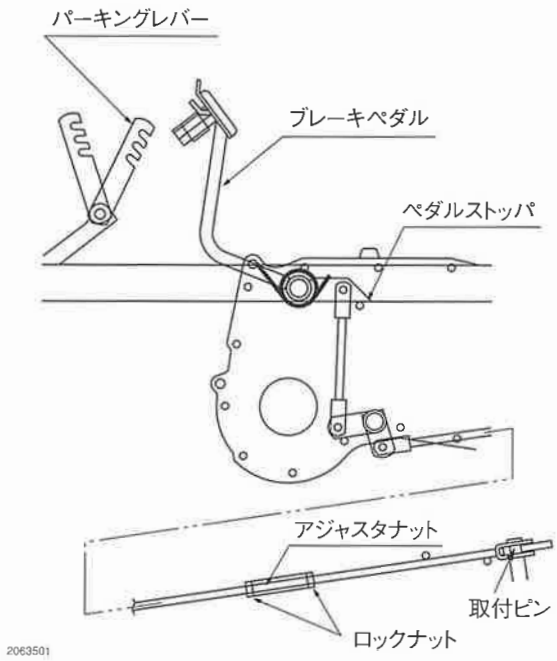
2063627

10.ブレーキの点検・調整について

⚠警告

- **左右のブレーキペダルの遊び量が5㎜以上異なると、ブレーキの片ぎきが生じ危険です。常に、左右の遊び量が同一であるようにしてください。ブレーキのききが悪かったり、片ぎきなどがあると転落、転倒事故の原因となります。必ず作業前に点検してください。**

①アジャスタナットを手で締め込んで、取付ピンのガタが無くなる位置で、仮に固定します。



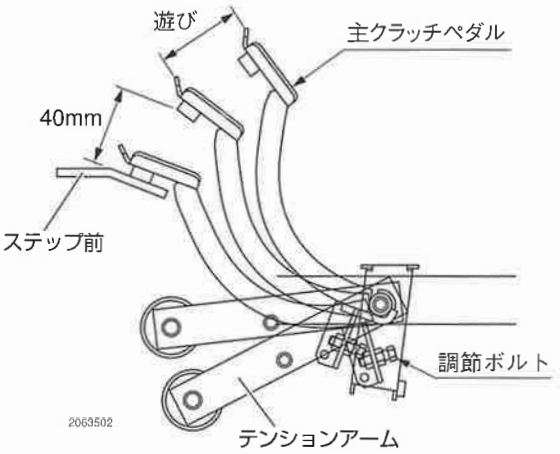
②両方のペダルを手で押して、効きはじめの高さがそろうように、アジャスタナットで調節し、ロックナットを確実に締め付けてください。

11.主クラッチペダルの点検・調整について

⚠警告

- **主クラッチペダルが確実に作動するか点検してください。点検・整備をおこたると、思わぬ傷害事故につながります。**

主クラッチペダル先端の遊び量がなくなった時のペダル下面と、ステップ前とのスキマが40㎜になるようように、主クラッチペダル下の調節ボルトで調節します。



〈調整後の確認〉

主変速レバーを「中立」位置にして、主クラッチペダルをいっぱいに踏み込んだときに、エンジン回転全領域にわたって、ベルトのつれ回りがないことを確認してください。

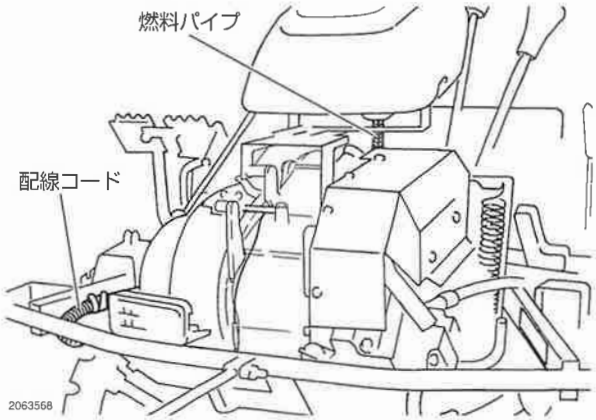
また、ＡＺ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置にして、主クラッチペダルをいっぱいに踏み込んでも、ＡＺ（エーゼット）レバーが動かないことを確認してください。

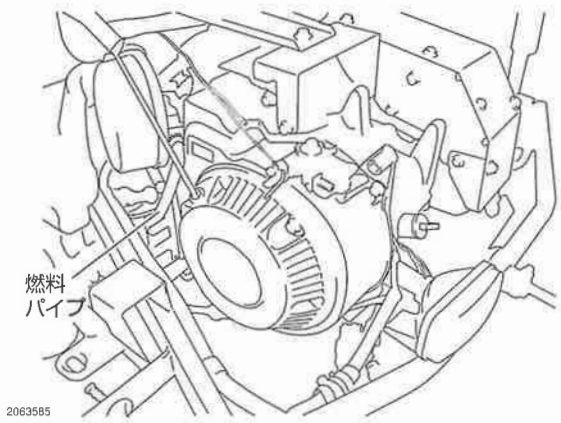
12.燃料パイプ・電気配線の点検のしかた

⚠警告

- **燃料パイプの老化や傷による燃料もれがあると、火災の原因になります。作業前後に点検し、もれがあれば交換してください。**
- **配線コードに付着しているワラクズやゴミは、作業前後にきれいに取り除いてください。火災の原因となります。**

ステップ前を取り外して、燃料パイプの傷や接続部の締付バンドのゆるみ、燃料もれが無いか確認してください。また、電気配線コードが他の部品に接触して被覆のはがれや傷、または、接続部のゆるみがないかを点検します。燃料パイプや電気配線コードが傷んでいる場合は、販売店などで修理してください。

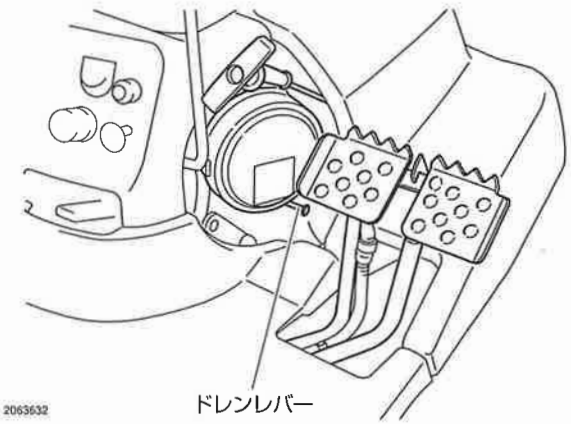


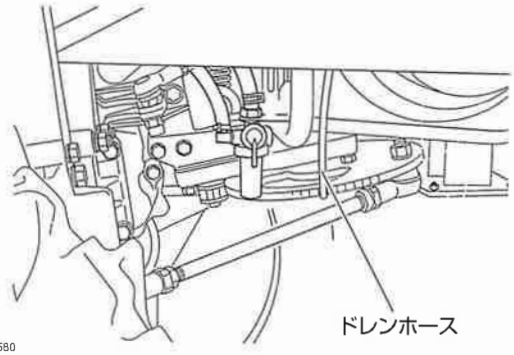


13.燃料の抜きかた

キャブレター内に残った燃料は、ドレンレバーを引くとキャブレター下のドレンホースから抜くことができます。ドレンホースの下に容器を置きドレンレバーを引いてください。

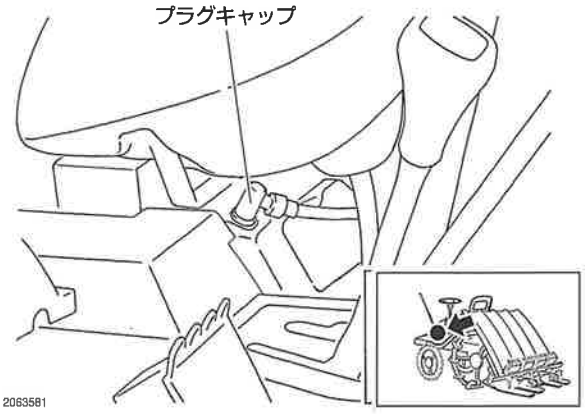
燃料タンクに残った燃料は、燃料コシ器のコックを「開」位置にして、ドレンレバーを引き続けるとドレンホースから抜くことができます。



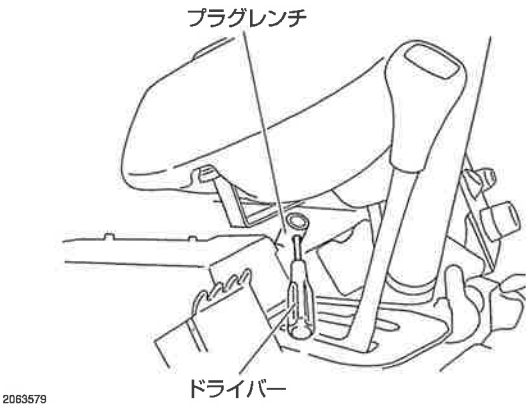


14.点火プラグの交換のしかた

①ステップ前とコラムカバーを取り外します。
②燃料タンク下のプラグキャップを取り外します。



③付属のプラグレンチの穴にドライバーを差し込んで、プラグを取り外します。



④新しいプラグをシリンダヘッドに取り付け、プラグキャップを取付けます。

※点火プラグ：BP6HS

10章 不調診断のしかた

⚠警告

- 機械の調子が悪いときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてから診断してください。止めないと回転物にはさまれて傷害事故の原因になります。処置を行っても不調の場合は、最寄りの販売店へ連絡してください。

どのような状態ですか

1. 一株本数が極端にバラつくか欠株がでる ……76
2. 浮き苗がでる ……79
3. 植付姿勢が悪い ……80
4. 苗いたみが多い ……82
5. 苗マットにくずれが生じる ……83
6. 苗の取り残しがでる ……84
7. 苗マットの条ごとの減量がはなはだしく異なる ……85
8. フロートで泥などを押す ……86
9. 車輪で泥を持上げる ……86
10. 植付株間が極端に狭くなる ……87
11. 耕盤が深く機体が沈下する ……87
12. エンジン関係 ……88

1. 一株本数が極端にバラつくか欠株がでる

	こんな確認をして	こう処置します
原因が苗の場合	苗が老化していませんか。	●できるだけ良い苗を選んで、使用してください。
	苗が軟弱徒長気味ではありませんか。	●苗マット数に余裕のある場合は、できるだけ使用しないでください。 ●植付速度を落し、ゆっくり植え付けてください。 ●植付深さを一段深くしてみてください。 ●苗取量を少し増やしてみてください。
	播種量が少なかったり、播種ムラ・発芽ムラが多くありませんか。	●ムラの多い苗マットは使わないようにするか、ムラの多い所を取り除いて使ってください。 ●苗取量を少し増やしてください。
	苗マットの厚さが薄すぎませんか。	●苗くずれを起こす恐れがありますので、苗マット押えを使用してください。 ●苗マットを少し乾かして、くずれにくくしてください。 ●植付速度を落し、ゆっくり植え付けてください。
	苗マットが崩れやすくありませんか。	●育苗箱から取り出すときは、必ずスクレーパを使用してください。 ●苗つぎは、ゆっくりていねいに行ってください。 ●植付速度を落し、ゆっくり植え付けてください。 ●苗マットを少し乾かして、くずれにくくしてください。 ●苗マット押えを使用して、苗くずれを防いでください。 ●別売の苗マットキーパを取り付けてください。
	苗マットの根が張りすぎて、苗すべりが悪くなっているのではありませんか。	●苗マットの下に伸びた根を、切り取ってください。 ●苗マットを十分に浸して、すべりやすくしてください。
	苗マットの幅が広がって苗のせ台の幅よりも広いため、苗すべりが悪くなっているのではありませんか。	●育苗箱の中で、横方向にたたいて、苗マットの幅を少し狭くしてから使用してください。 ※苗マットを巻いて載せるときには、特に注意してください。
	苗マットが乾きすぎて、苗すべりが悪くなっているのではありませんか。	●苗マットを水に浸してみてください。

	こんな確認をして	こう処置します
原因が苗の場合	床土に粘土が多いため、植え付けた苗がビークに付いて持ち上がっているのではありませんか。	●植付深さを1段深くして、植え付けてみてください。 (56ページ参照) ●植付速度をやや速くしてください。 ●水深を少し深めにしてください。
	苗丈が短かすぎて、植え付けても埋没しているのではありませんか。 (草丈の基準8cm以上)	●2～3日おいて苗を少し伸ばして植え付けてください。 ●植付苗が倒れない程度に、植付深さを浅めに調節してみてください。 ●水深を少し浅めにしてください。
原因がほ場の場合	田面の凹凸が激しすぎませんか。	●できるだけ均平になるようにしてください。
	田面にワラ・ゴミなどが多く、植え付けのじゃまになっていませんか。	●できるだけ取り除いてください。 ●植付直前に水を落してください。 ●植付深さを一段深くしてみてください。 ●植付速度を落し、ゆっくり植え付けてください。
	水深が深すぎたり、浅すぎたりしていませんか。 深すぎる… (4cm以上) 浅すぎる… (0cm)	●水深が1～2cmになるように加減してください。
	ほ場の土に砂が多く、田面に確実に植え付けられないのではありませんか。	●代かき後、軟らかいうちに植え付けてください。 ●植付深さを一段深くしてみてください。
	ほ場の土が粘土質であるため、植え付けた苗が持ち上がるのではありませんか。	●植付深さを一段深くしてみてください。 ●水深を少し深めにしてください。
	ほ場が固すぎて、苗がしっかりと植え付けられていないのではありませんか。	●植付深さを深くしてみてください。深く植え付けてもだめな場合は、代かきをやり直してください。 ※手植えの代かきと同じか、やや硬めに仕上げてください。
	代かきが荒く土塊が残っているのではありませんか。	●植付速度を落とし、ゆっくり植え付けてください。 ●植付深さを一段深くしてみてください。 ●できるだけ均平になるようにしてください。

	こんな確認をして	こう処置します
原因が本機の場合	ビークが摩耗して、植え付けが確実にできないのではありませんか。	●ビークを交換してください。 ※ビークの摩耗程度は、71ページの現物図を目安にしてください。
	ビークに異物を噛み込んでいませんか。	●エンジンを止めて異物を取り除いてください。
	ビークの苗取量の調節が合っていないのではありませんか。	●一株本数が3～5本になるように調節してください。 (55ページ参照)
	苗のせ台が端にきたとき、周期的に欠株がでているのではありませんか。	●一株本数が3～5本になるように調節してください。 (56・57ページ参照) ●苗マットの縦送りのタイミングが狂っているので、横送りの切替え要領により修正を行ってください。(56・57ページ参照)
	植付深さが浅すぎて、植え付けが確実にできていないのではないですか。	●植付深さが2～3cmとなるように調節してください。 (56ページ参照)
	苗取出口や苗ガイドに泥や根が詰まっていて、苗が確実に取れないのではありませんか。	●エンジンを停止して、ときどき泥や根を取り除いてください。
	ビークの取り付けが不良で、植え付けが確実に行われていないのではありませんか。	●ビークの取り付けが適正かどうか、ビークゲージで確認し調節してください。(70ページ参照)
	ビークの作動がうまくいっていないのではありませんか。	●購入先に、型式名・製造番号を連絡してください。
	苗マット押えが苗マットを押えすぎているか、また苗がからんで苗すべりが悪くなっているのではありませんか。	●苗マット上面から10～15mm程度離してください。 それでもだめなら、もっと引き上げてください。 (58ページ参照)
	苗取出口や苗ガイドに泥や根がつまって、苗が確実に取られていないのではありませんか。	●苗マット下の根が伸びすぎていたら、切り取ってください。
	縦送りベルトに根がからんで、苗送りが確実に行われていないのではありませんか。	●ときどき、ベルト部の泥や根を取り除いてください。 ●苗マットの下の根が伸びすぎていたら、切り取ってください。

2. 浮き苗がでる

	こんな確認をして	こう処置します
原因が苗の場合	苗マットの根張りが悪く、くずれやすくありませんか。	●育苗箱から取り出すときは、必ずスクレーパを使用して苗マットのくずれを防いでください。
	苗マットが崩れやすくありませんか。	●苗マットを少し乾かして、くずれにくくしてください。 ●苗つぎは、ゆっくりていねいに行ってください。 ●苗マット押えを使用して、苗くずれを防いでください。 ●植付速度を落し、ゆっくり植え付けてください。
原因がほ場の場合	水深が深すぎて、確実に植え付けられていないのではありませんか。	●水深が1～2cmになるように落水してください。
	田面の凹凸が激しすぎませんか。	●できるだけ均平になるようにしてください。
	耕盤の凹凸が激しすぎませんか。	●植付速度を落し、ゆっくり植え付けてください。
	田面にワラ・ゴミなどが多く、植え付けのじゃまになっているのではありませんか。	●できるだけ取り除いてください。 ●植付直前に水を落してください。 ●植付深さを一段深くしてみてください。 ●植付速度を落して、ゆっくり植え付けてください。
	ほ場が軟らかすぎて、苗がしっかりと植え付けられていないのではありませんか。	●水を落してほ場表面に指でスジを入れ、跡が残る程度まで日数をおいてください。 ●植付深さを一段深くしてみてください。 ●植付速度を落して、ゆっくり植え付けてください。
	ほ場が固すぎて苗をしっかりと田面に植え付けることができないのではありませんか。	●植付深さを深くしてみてください。深く植え付けてもだめな場合は、代かきをやり直してください。 ※手植えの代かきと同じか、やや硬めに仕上げてください。
	床土に粘土が多いため、植え付けた苗がビークに付いて持ち上がっているのではありませんか。	●植付深さを一段深くしてみてください。 ●水深を少し深めにしてください。 ●植付速度をやや速くしてください。 ●フォークに別売のプッシュピースを取り付けてみてください。 ●ビークを別売のN4形ビーク、またはS4形ビークに交換してみてください。
原因が本機の場合	ビークに異物が噛み込んでいませんか。	●エンジンを止めて、異物を取り除いてください。
	植付深さが浅すぎるのではありませんか。	●植付深さが2～3cmになるように調節してください。 (56ページ参照)
	ビークの取り付けが不良で、植え付けが確実に行えないのではありませんか。	●ビークの取り付けが適正であるか、ビークゲージで確認し、調節してください。(70ページ参照)
	ビークが摩耗して、植え付けが確実にできないのではありませんか。	●ビークを交換してください。 ※ビークの摩耗程度は、71ページの現物図を目安にしてください。

3. 植付姿勢が悪い

	こんな確認をして	こう処置します
原因が苗の場合	苗が老化していませんか。	●できるだけ良い苗を選んで使用してください。
	苗が軟弱徒長気味ではありませんか。	●植付速度を落し、ゆっくり植え付けてください。 ●植付深さを一段深くしてみてください。 ●苗取量を少し増やしてみてください。 ●苗ホルダの調節をしてください。(58ページ参照)
	苗マットの厚さが薄すぎませんか。	●苗くずれを起こすおそれがありますので、苗マット押えを使用してください。 ●苗マットを少し乾かしてくずれにくくしてください。 ●苗つぎは、ゆっくりていねいに行ってください。 ●植付速度を落し、ゆっくり植え付けてください。
	床土に粘土が多いため、植え付けた苗がビークに付いて持ち上がっているのではありませんか。	●植付深さを一段深くして、植え付けてみてください。 ●水深を少し深めにしてください。 ●植付速度をやや速めにしてください。
	苗マットが崩れやすくありませんか。	●育苗箱から取り出すときは、必ずスクレーパを使用してください。 ●苗マットを少し乾かして、くずれにくくしてください。 ●苗つぎは、ゆっくりていねいに行ってください。 ●苗マット押えを使用して、苗くずれを防いでください。 ●植付速度を落し、ゆっくり植え付けてください。
原因がほ場の場合	田面の凹凸が激しすぎませんか。	●できるだけ均平になるようにしてください。
	耕盤の凹凸が激しすぎませんか。	●植付速度を落し、ゆっくり植え付けてください。
	田面にワラ・ゴミなどの夾雑物が多く、植え付けのじゃまになっているのではありませんか。	●できるだけ取り除いてください。 ●植付直前に水を落してください。 ●植付深さを一段深くしてみてください。 ●植付速度を落し、ゆっくり植え付けてください。

	こんな確認をして	こう処置します
原因がほ場の場合	水深が浅すぎて（1cm以下）、植え付けた苗がビークで持ち上がるのではありませんか。	●水深が1～2cmになるように、水を入れてください。
	ほ場の土に砂が多く、田面に確実に植え付けられないのではありませんか。	●代かき後、軟らかい内に植え付けてください。 ●植付深さを一段深くしてみてください。 ●植付速度を少し速くしてみてください。
	ほ場の土が粘土質であるため、植え付けた苗が持ち上がるのではありませんか。	●水深を少し深めにしてください ●植付速度を少し速くしてください。 ●植付深さを1段深くしてみてください。
	ほ場が軟らかすぎて苗が確実に植え付けられないのではないですか。	●水を落して表面に指でスジを入れて、跡が残る程度まで日数をおいてください。 ●植付深さを一段深くして、植え付けてみてください。 ●植付速度を落し、ゆっくり植え付けてください。
	代かきが荒く土塊が残っていませんか。	●植付速度を落とし、ゆっくり植え付けてください。 ●植付深さを一段深くしてみてください。 ●できるだけ均平になるようにしてください。
	床土に粘土が多いため、植え付けた苗がビークに付いて持ち上がっているのではありませんか。	●フォークに別売のプッシュピースを取り付けてみてください。 ●ビークを別売のN4形ビーク、またはS4形ビークに交換してみてください。
原因が本機の場合	ビークが摩耗して植え付けが確実にできないのではありませんか。	●ビークを交換してください。 ※ビークの摩耗程度は71ページの現物図を目安にしてください。
	植付深さが浅すぎて、植え付けが確実にできていないのではないですか。	●植付深さが2～3cmとなるように調節してください。
	ビークの取り付けが不良で、植え付けが、確実に行われていないのではありませんか。	●ビークの取り付けが適当かどうか、ビークゲージで確認し調節してください。（70ページ参照）
	ビークの作動が、うまくいっていないのではありませんか。	●購入先に、型式名・製造番号を連絡してください。

4. 苗いたみが多い

	こんな確認をして	こう処置します
原因が苗の場合	苗が老化していませんか。	●できるだけ良い苗を選んで、使用してください。
	苗が軟弱徒長気味ではありませんか。	●植付速度を落し、ゆっくり植え付けてください。 ●植付深さを一段深くしてみてください。
原因がほ場の場合	田面にワラ・ゴミなどの夾雑物が多く、植え付けのじゃまになっているのではありませんか。	●できるだけ取り除いてください。 ●植付直前に水を落してください。 ●植付深さを一段深くしてみてください。 ●植付速度を落し、ゆっくり植え付けてください。
	ほ場が固すぎて、苗がしっかりと植え付けられていないのではありませんか。	●植付深さを深くしてみてください。深く植え付けてもだめな場合は代かきをやり直してください。 ※表面に指でスジを入れたとき跡が残る程度にしてください。
原因が本機の場合	ビークの取り付けが不良で、植え付けが確実に行われていないのではありませんか。	●ビークの取り付けが適正かどうか、ビークゲージで確認し、調節してください。(70ページ参照)
	ビークが摩耗して、植え付けが確実にできないのではありませんか。	●ビークを交換してください。 ※ビークの摩耗程度は71ページの現物図を目安にしてください。
	ビークの作動が、うまくいっていないのではありませんか。	●購入先に、型式名・製造番号を連絡してください。

5. 苗マットにくずれが生じる

	こんな確認をして	こう処置します
原因が苗の場合	苗マットの厚さが薄すぎませんか。	●苗マット押えを使用して苗くずれを防いでください。 ●苗マットを少し乾かしてくずれにくくしてください。 ●苗つぎは、ゆっくりていねいに行ってください。 ●速度を落して、ゆっくり植え付けてください。
	苗マットの根張りが悪くありませんか。	●育苗箱から取り出すときは、必ずスクレーパを使用してください。 ●苗マット押えを使用して苗くずれを防いでください。 ●苗つぎは、ゆっくりていねいに行ってください。 ●速度を落して、ゆっくり植え付けてください。
	苗マットが湿りすぎて、すべりやすくなっているのではありませんか。	●育苗箱から取り出したときは、しずくがたれない程度に乾燥してください。
原因が本機の場合	苗マット押えが苗マット上面より離れすぎていませんか。	●苗マット上面から1～1.5cm程度に調節してください。
	縦送りベルトに根がからんでいませんか。	●ときどきベルト部の泥や根を取り除いてください。 ●苗マットの根張りが良ければ、苗マット下の根を切り取ってください。

6. 苗の取り残しがでる

	こんな確認をして	こう処置します
原因が苗の場合	苗がすべりにくいのではありませんか。	●苗マットを十分水に浸して、すべりやすくしてください。 ●苗マットの下の根が伸びすぎていたら、切り取ってください。
	苗マットの幅が広がって苗のせ台の幅よりも広いため、苗すべりが悪くなっているのではありませんか。	●育苗箱の中で、横方向にたたいて、苗マットの幅を少し狭くしてから使用してください。 ●苗マットを巻いて載せるときには、特に慎重に取り扱ってください。
	苗マットの根が張りすぎて、苗すべりが悪くなっているのではありませんか。	●苗マットの下に伸びた根を、切り取ってください。 ●苗マットを十分水に浸してすべりやすくしてください。
	苗マットが乾きすぎているのではありませんか。	●苗マットを水に浸してみてください。
	苗マットが湿りすぎているのではありませんか。	●育苗箱から取り出したとき、しずくがたれない程度に乾燥させてください。
原因が本機の場合	苗のせ台が端にきたとき、周期的に取り残しが生じているのではありませんか。	●苗マットの縦送りのタイミングが狂っているので、横送りの切替え要領により修正を行ってください。 (56・57ページ参照)
	苗取出口や苗ガイドに泥や根がつまっていて、苗が確実に取れないのではありませんか。	●エンジンを停止して、ときどき泥や根を取り除いてください。 ●苗マットの下の根が伸びすぎていたら、切り取ってください。
	苗送りベルトに根がからんで、苗送りが確実に行われていないのではありませんか。	●ときどき苗送りベルト部の泥や根を取り除いてください。 ●苗マットの根張りが良ければ、苗マット下の根を切り取ってください。

7. 苗マットの条ごとの減量がはなはだしく異なる

	こんな確認をして	こう処置します
原因が苗の場合	苗マットの幅が広がって苗のせ台の幅よりも広いため、苗すべりが悪くなっているのではありませんか。	●育苗箱の中で、横方向にたたいて、苗マットの幅を少し狭くしてから使用してください。 ※苗マットを巻いて載せるときには、特に注意してください。
	各苗マットの湿り具合に差があり、苗すべりの度合が異なっているのではありませんか。	●湿り具合が一様になるようにしてください。
	苗マットの根が張りすぎて、苗すべりが悪くなっていませんか。	●苗マットの下に伸びた根を、切り取ってください。 ●苗マットを水に浸してすべりやすくしてください。
	ビークの苗取量の調節が、条によって異なっているのではありませんか。	●各ビークの苗取量が同一になるように調節してください。 1株本数は3～5本が標準です。(55ページ参照)
	苗取出口や苗ガイドに泥や根が詰まっていて、苗が確実に取れないのではありませんか。	●苗マットの下の根が伸びすぎていたら、切り取ってください。
原因が本機の場合	苗マット押えが苗マット上面を押えているか、苗がからんでいて苗すべりが悪くなっているのではありませんか。	●苗マット上面から1～1.5cm程度離れるように調節してください。それでもだめならもっと引き上げてください。
	苗取出口や苗ガイドに泥や根がつまって、苗が確実に取られていないのではありませんか。	●エンジンを停止して、ときどき泥や根を取り除いてください。
	苗送りベルトに根がからんで、苗送りが確実に行われていないのではありませんか。	●ときどき、ベルト部の泥や根を取り除いてください。 ●苗マットの下の根が伸びすぎていたら、切り取ってください。
	苗マットが浮き上がって、どこかに引っ掛かっていませんか。	●苗マットをきちんと入れ直してください。
	ビークの取り付け不良で、植付けが確実に行われていないのではありませんか。	●ビークの取り付けが適正かどうか、ビークゲージで調節してください。(70ページ参照)

8. フロートで泥などを押す

	こんな確認をして	こう処置します
原因がほ場の場合	田面にワラ・ゴミなどが多く、植え付けのじゃまになっているのではありませんか。	●できるだけ取り除いてください。 ●植付直前に水を落してください。 ●植付深さを一段深くしてみてください。 ●植付速度を落して、ゆっくり植え付けてください。
	ほ場が深すぎるのではありませんか。(耕盤深さ25cm以上)	●植付速度を落し、ゆっくり植え付けてください。
	ほ場が軟らかすぎるのではありませんか。	●水を落してほ場表面に指でスジを入れたとき、跡が残る程度まで日数をおいてください。 ●植付速度を落し、ゆっくり植え付けてください。 ●隣接をやや広めにしてください。
原因が本機の場合	植付部の接地圧が高すぎるのではありませんか。	●油圧感度調節レバーを1段「軟らかいほ場」側にしてください。 (58ページ参照)

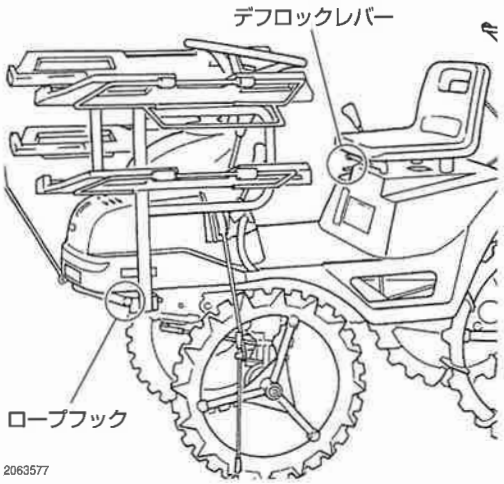
9. 車輪で泥を持上げる

	こんな確認をして	こう処置します
原因がほ場の場合	水深が浅すぎて、ほ場が乾いているのではありませんか。	●水深が1～2cmになるように、水を入れてください。
	ほ場が深くありませんか。	●水深を少し深めにしてください。 ●植付速度を落し、ゆっくり植え付けてください。 ●旋回はゆっくり大きく回ってください。
	ほ場の土が粘土質なのではありませんか。	●水深を少し深めにしてください。 ●植付速度を落し、ゆっくり植え付けてください。

10. 植付株間が極端に狭くなる

こんな確認をして		こう処置します
原因がほ場の場合	水深が浅すぎて、ほ場が乾いているのではありませんか。	●水深が1～2cmになるように、水を入れてください。

11. 耕盤が深く機体が沈下する

こんな確認をして	こう処置します
前進中に後輪が沈下を始める。  	●植付部を下げたまま、デフロックレバーを引き上げ、低速で直進してください。 (こんなとき、ハンドルを切ったり、ブレーキを踏んだりすると余計に沈下します。また後進しても、前輪が沈下する可能性が大きいです。) ●機体重量を軽くするため補助苗のせ台、苗のせ台の苗マットを降ろしてください。 ●低速にして、オペレータも田植機から降りて、機体を押してください。AZ(エーゼット)レバーを使用すると操作が楽に行えます。 ●完全に自力脱出不可の場合は、ロープフックにロープをかけて、トラクターなどでけん引しながら、田植機自身もエンジンをかけて前進させてください。
後進中に前輪が沈下する。	●補助苗のせ台の苗マットを降ろし、前を軽くしてください。
旋回中に沈下する。	●できるだけ大きく旋回してください。 ●ブレーキの操作とハンドル操作は、完全に追従させてください。 ※沈下して自力脱出するときは、絶対に木材などを後車輪の下に敷きこませたりしないでください。 本機を破損させる原因になります。

12. エンジン関係

状　況	点検箇所	処　置
リコイルを引っ張ってもエンジンが始動しない。	メインスイッチが「切」位置になっていませんか。	●メインスイッチを「運転」位置にしてください。
	AZ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」(エンジン始動) 位置にしていますか。	●AZ（エーゼット）レバーを「苗つぎ」位置にして、リコイルを引っ張ってください。
	燃料タンクに燃料が入っていますか。	●燃料を給油してください。
	燃料コックが「閉」位置になっていませんか。	●燃料コックを「開」位置にしてください。
エンジンが不規則に回転する。	燃料に水が混入していませんか。	●水を抜き、新しい燃料と交換してください。
	燃料フィルタやキャブレターが目詰まりしていませんか。	●洗浄、または交換してください。
エンジンが過熱する。(オーバーヒート)	エンジンオイルが不足していませんか。	●オイルを補給してください。
	過負荷運転をしていませんか。	●負荷を軽くしてください。
エンジンの力が出ない。	エアクリーナーが目詰まりしていませんか。	●エアクリーナーを点検してください。

11章 用語解説

あ行

オートリターン機構

苗のせ台が最上げになると、油圧植付レバーが自動で「上昇」位置から「固定」位置に戻る機構です。

さ行

前輪デフロック装置

左右の前輪の回転差をなくし、同じ速度で駆動されるようにする装置です。

- ほ場内の作業やほ場への出入りのとき、片側の車輪がスリップして走行できない場合に使用します。
- 前輪デフロックは田植作業の旋回時（前進時）に使用しても問題ありません。
- 旋回時に前輪がスリップして旋回できない場合に前輪デフロック装置を操作（使用）すると、旋回できます。

や行

油圧自動制御

設定した植付深さで植付作業が行えるように、センサーがほ場表面に対する植付部の高さを感知し、ほ場表面からの植付部の高さが一定になるように、植付部の昇降を油圧により自動で制御します。

油圧感度

油圧自動制御のセンサーの感度のことで、ほ場状態により感度を変えることができます。

横送り回数

苗のせ台が右（左）端から左（右）端まで移動する間に、プランタアームが苗を取る回数です。

1. 主要諸元

名称・型式				三菱 MPC4
区分				MPC4
機体寸法	全長(収納時)（mm）			2300
	全幅(収納時)（mm）			1500
	全高(収納時)（mm）			1200
重量(乾燥時)（kg）				180
エンジン	形式			GM132LN
	種類			空冷４サイクルOHVガソリンエンジン
	総排気量（cc）			126
	出力/回転数(PS［kw/rpm］)			3.3［2.4］/1800 最大4.5
	使用燃料			自動車用無鉛ガソリン
	燃料タンク容量（ℓ）			6.5
	始動方式			リコイルスタータ方式
走行部	かじ取り方式			センターヨークダブルピットマン式
	車輪	種類個数	前輪	ノーパンクタイヤ×２
			後輪	ゴム両ラグタイヤ×２
		外径(mm)	前輪	550
			後輪	660
	変速段数（段）			前進４（植付２）・後進２
植付部	植付部の位置			リヤマウント方式
	植付部昇降方式			油圧式
	植付部装着方式			平行リンク式
	植付方式			クランク式
	植付条数（条）			4
	植付条間（cm）			30
	植付株間（cm）			22・18・16
	植付株数（株/3.3㎡）			50・60・70
	植付深さ（mm）			14～44（６段）
	１株本数調節方式	横送り(mm/回)		14/20、11/26
		縦取量(mm)		８～17（レバーワンタッチ）
植付速度（m/秒）				0.1～0.6
予備苗とう載数				4
作業能率（分/10a）				30～40
苗の条件	苗の種類			稚苗・中苗
	苗丈（cm）			８～15・15～25
	葉令（葉）			2.0～2.5・2.5～4.0
	苗マット寸法〈縦X横X厚さ〉(cm)			58×28×３
警報装置				● 苗つぎ警報ブザー

※この仕様は、改良などにより予告なく変更することがあります。

2. 標準付属品

本機には次のような部品が付属していますので、お買求めの際にお調べください。

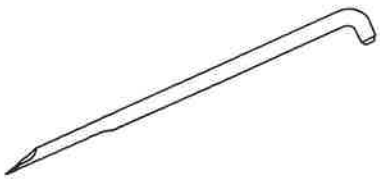
No.	部品名	数量	備考
1	スクレーパ	1	本機同梱包
2	ジョーゴ	1	
3	ビニールホース 12×300	1	
4	工具袋	1	
5	両口スパナ(10×12)	1	工具袋に収納
6	両口スパナ(14×17)	1	
7	プラグレンチ	1	
8	ドライバー(+、−兼用)	1	
9	ビークゲージ	1	
10	油さし	1	
11	ビーク用シム	4	
12	横送り切替用歯車(26回用)	1セット	
13	株数切替用歯車(50・70株用)	各1セット	
14	取扱説明書	1	取扱説明書に添付 ビニール袋に収納
15	保証書(取扱方法・安全説明登録カード)	1	
16	安全ポスター	1	

3. 主要消耗部品・交換部品

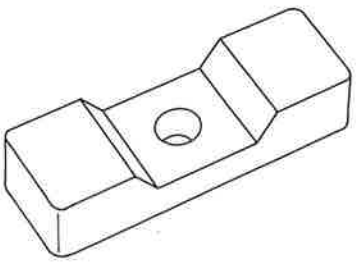
No.	品　　名	部品コード	No.	品　　名	部品コード
①	ビーク	L:2670 0000 010	⑤	各ワイヤ類	——
		R:2670 0000 020	⑥	各燃料パイプ	——
②	スライドピース	2670 0000 030	⑦	各油圧ホース	——
③	スライドピース	2670 0000 040	⑧	各電気配線	——
④	Vベルト ● メインベルト SB40W600S ……1本 ● 油圧ベルト SA17AUTO ……1本	 2670 0000 050 2670 0000 060			

※ロータリー仕様はメインベルトを2本使用しています。交換は必ず2本同時に行ってください。

①ビーク

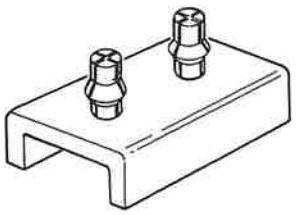


②スライドピース



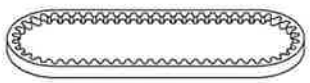
2063549

③スライドピース



1067436B

④Vベルト



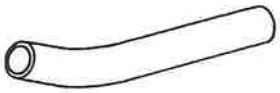
2060536

⑤各ワイヤ類



1067436D

⑥各燃料パイプ



⑦各油圧ホース



⑧各電気配線



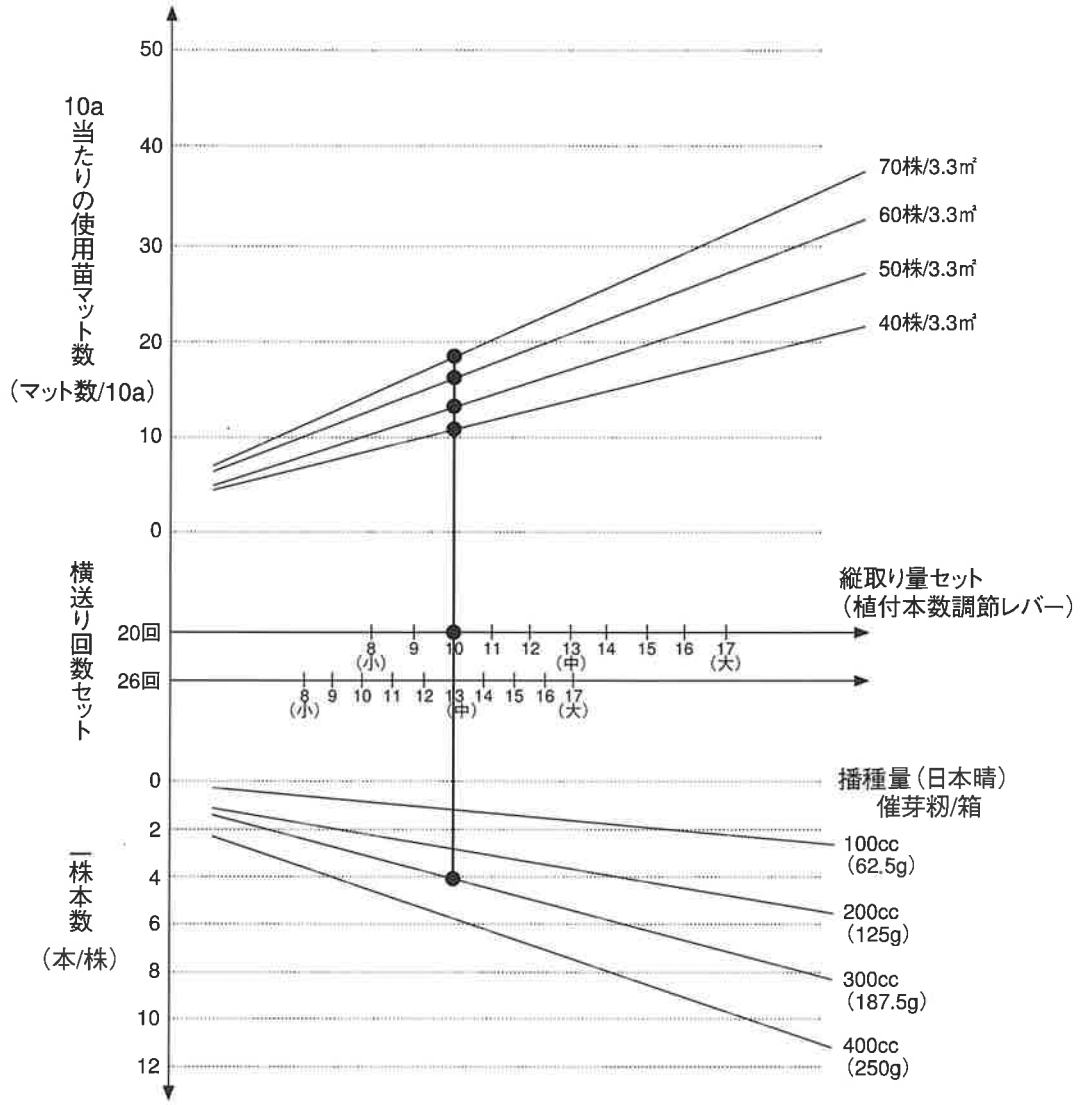
4. その他の販売品

下記の部品を用意しております。本機お買求めの販売店にご相談の上、ご利用ください。

No.	アタッチメント名称		コードNo.	備　　考
1	株間ギヤセット（40株用）		2670 0000 070	
2	前輪ホイルディスク		2670 0000 080	
3	延長苗のせ台ASY		2670 0000 090	
4	バックミラーASY		2670 0000 100	
5	本機カバーASY		2794 7606 000	
6	後輪補助車輪（ゴムラグ車輪）		31723 50010	
7	植付爪	N4ビーク	2670 0000 110	
8		S4ビーク	2670 0000 120	
9		ビークスクレーパASY	2670 0000 130	
10		プッシュピース	2670 0000 140	
11		プッシュピース（黒）	2670 0000 150	

13章 苗マット数早見表

10a当たりの苗マット数早見表



例： 1株本数を平均4本にしたい、10a当たり苗マットはいくつ必要か?というような場合に、播種量を300ccとすると横送り20回（出荷状態）、縦取り量10㎜（植付本数調節レバー「少」から3番目の位置）で…

70株では約19箱

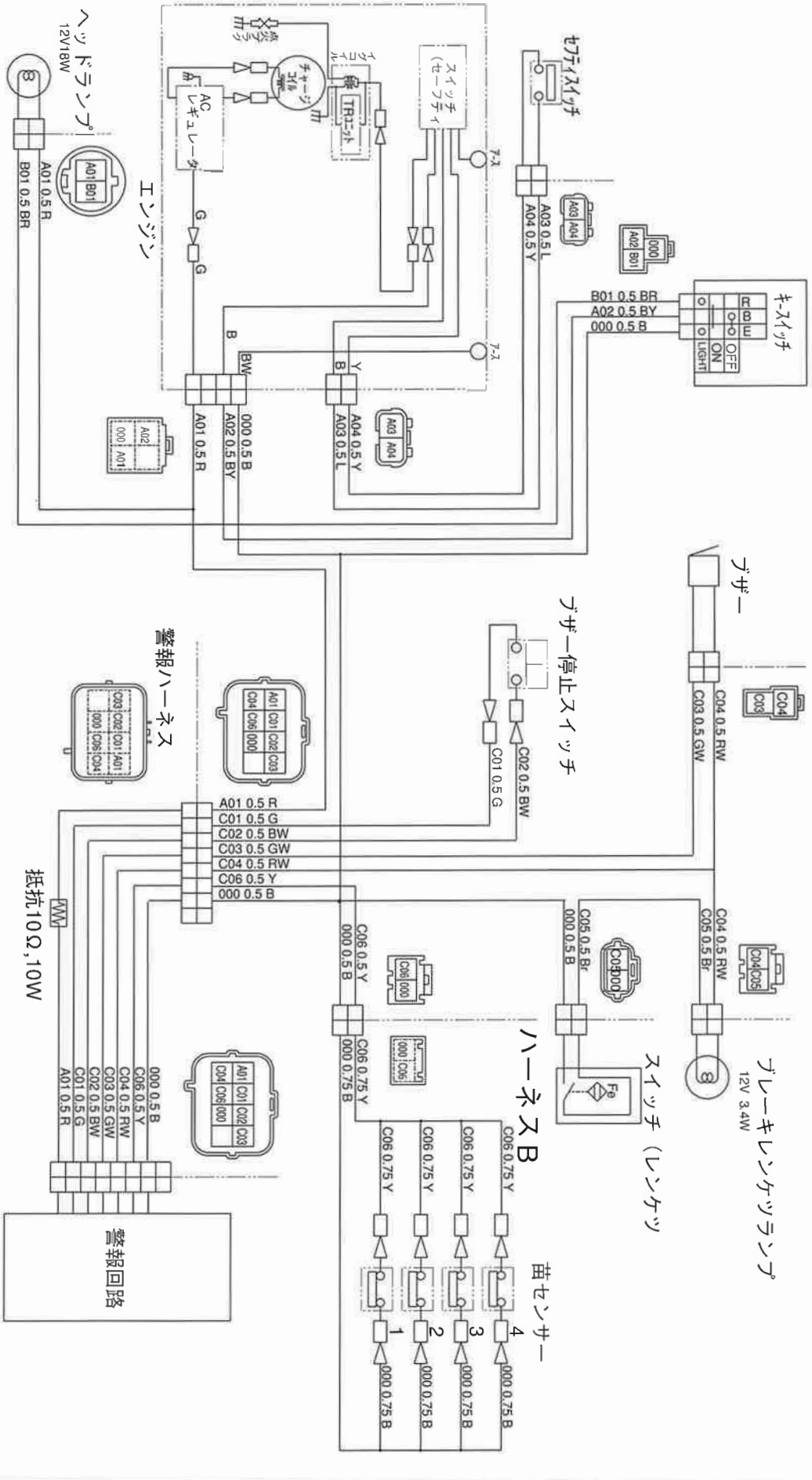
60株では約16箱

50株では約14箱

40株では約11箱

が必要であると早見表でわかります。

※ただし苗の縮みなどは考慮していませんので、最低必要数と考えてください。


セフティスイッチ
ヘッドランプ
12V18W
エンジン
キースイッチ
B01 0.5 BR
A02 0.5 BY
000 0.5 B
A03 0.5 L
A04 0.5 Y
A01 0.5 R
000 0.5 B
A02 0.5 BY
A04 0.5 Y
A03 0.5 L
スイッチ（セーフティ）
ACレギュレータ
チャージコイル
イグニッションコイル
TRユニット
ブザー
C04 0.5 RW
C03 0.5 GW
ブザー停止スイッチ
C01 0.5 G
C02 0.5 BW
警報ハーネス
A01 0.5 R
C01 0.5 G
C02 0.5 BW
C03 0.5 GW
C04 0.5 RW
C06 0.5 Y
000 0.5 B
抵抗10Ω,10W
C05 0.5 Br
000 0.5 B
C04 0.5 RW
C05 0.5 Br
ブレーキレンケツランプ
12V 3.4W
スイッチ（レンケツ
ハーネスB
C06 0.5 Y
000 0.75 B
苗センサー
C06 0.75 Y
000 0.75 B
1
2
3
4
警報回路

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

機械番号(製造番号)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

●ご使用状況は…？

(何速で，どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約＿＿＿＿＿アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ＴＥＬ　　(　　)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

No. 019901-26707601000